

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9
プロダクト・パッケージング
PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
プロダクト・パッケージング PeopleBook
SKU AC89JPT0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失および故意を含む）のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

概要	1
プロダクト・パッケージングの定義.....	1
前提条件.....	3
表記規則.....	4
ソフトウェア・マスターの作成	5
ソフトウェア・マスター作成チェックリスト.....	5
ソフトウェア・マスター作成の必要条件.....	5
システム TEMP ディレクトリの設定.....	5
プリスティン(JDE オリジナル)コントロール・テーブルの作成.....	7
プロダクト・パッケージングのデータ・ソース構成の確認.....	8
プリスティン・データ・ソースにおけるデータ辞書の作成.....	9
変更テーブルの作成.....	10
ソフトウェア・マスターの作成.....	12
ソフトウェア・マスターの定義.....	13
変更テーブルの構成.....	20
パッケージ・ビルド・アプリケーションのマスタリング・モードの設定.....	26
ソフトウェア・マスター定義の検証.....	28
最終的なソフトウェア・マスターの作成.....	29
ソフトウェア・マスターの確認.....	32
CD ROM へのソフトウェア・マスターの移動.....	33
ソフトウェア・マスターを使った更新.....	33
ソフトウェア・マスター	40
ソフトウェア・マスターの処理.....	40
ソフトウェア・マスターの削除.....	40
ソフトウェア・マスター定義の処理.....	41
ソフトウェア・マスター定義の改訂.....	41
ソフトウェア・マスター定義のコピー.....	49
ソフトウェア・マスター定義のテスト.....	51
ソフトウェア・マスター定義の検証.....	51
ソフトウェア・マスター定義の削除.....	52
ソフトウェア・マスター・テンプレート	53
すべてのビルド・ステップ・プロセスの詳細.....	53
ASU CD テンプレート.....	57
カスタム CD.....	60
ソフトウェア・マスター・テンプレートの処理.....	60

ソフトウェア・マスター・テンプレートの追加.....	61
ソフトウェア・マスター・テンプレートの改訂.....	62
ソフトウェア・マスター・テンプレートのコピー.....	66
ソフトウェア・マスター・テンプレートのテスト.....	67
ソフトウェア・マスター・テンプレートの削除.....	67
変更テーブルの構成	69
変更テーブルの改訂または投入.....	70
変更テーブル構成のコピー.....	71
変更テーブル構成の削除.....	72
データのクリーンアップ	73
データ・クリーンアップ・プロシージャの処理.....	73
データ・クリーンアップ・プロシージャの追加.....	73
データ・クリーンアップ・プロシージャの改訂.....	78
データ・クリーンアップ・プロシージャのコピー.....	80
データ・クリーンアップ・プロシージャとビルド・ステップの実行.....	81
データ・クリーンアップ・プロシージャの削除.....	82
データ・クリーンアップ・テンプレートの処理.....	83
データ・クリーンアップ・テンプレートの追加.....	83
データ・クリーンアップ・テンプレートの改訂.....	85
データ・クリーンアップ・テンプレートのコピー.....	87
データ・クリーンアップ・テンプレートの削除.....	88
相対パスと絶対パス	89
相対パス・トークンの使用.....	89
トラブルシューティング:〈Software Update〉アプリケーションでのテーブルの バックアップ・エラー	90
相対パスと絶対パスの変換.....	91
トラブルシューティング: マスタリング項目のチェック中のエラー	93
トラブルシューティング: 機能の INF ファイルのビルド・エラー	94
トラブルシューティング: JDE Masters データベースが自動入力されない	96
トラブルシューティング: 変更テーブルのコピー・エラー	97
トラブルシューティング: カスタム・テーブルのコピー・エラー	98
トラブルシューティング: インストール後のプロダクト・パッケージが見つからない	99
トラブルシューティング: オブジェクト・ライブラリアン・レコードの問題	100

概要

このガイドでは、プロダクト・パッケージング・ツールを使用して EnterpriseOne オブジェクトのソフトウェア・マスター・イメージを作成する方法について説明します。

ここではプロダクト・パッケージング関連の定義、プロセスの概要、ツールを使用するための必要条件について説明し、後半ではこのツールを使用して独自のソフトウェア・マスターを作成する方法について説明します。このツールは、同じリリース・レベルで EnterpriseOne がインストールされているエンタープライズ・サーバーにインストールすることができます。

注:

ソフトウェア・マスターの作成方法全体を示すタスク・リストの詳細については、「ソフトウェア・マスターの作成」を参照してください。

本書では、ソフトウェア・マスターのさまざまな側面の詳細と、ソフトウェア・マスター定義、変更テーブル構成、および最終的なソフトウェア・マスターなど、プロダクト・パッケージング・ツールの詳細について説明します。

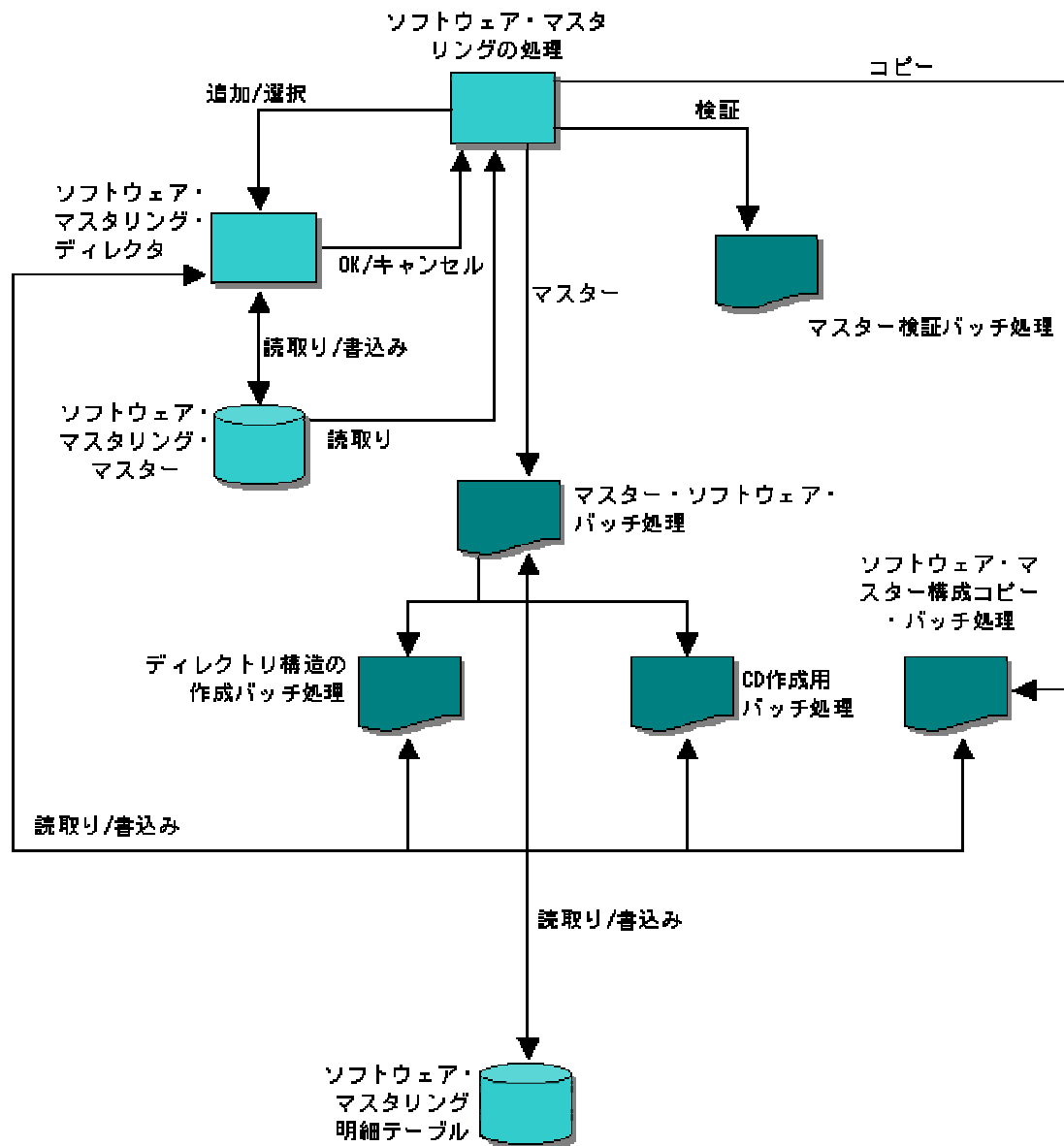
プロダクト・パッケージングの定義

プロダクト・パッケージング・ツールは、オブジェクト・グループのマスターを作成してパッケージ化する機能であり、セントラル・オブジェクトとコントロール・テーブルのオブジェクトをロケーション間で移動するためのメカニズムが用意されています。また、カスタマイズを行った場合、プロダクト・パッケージング・ツールを使用して、本社ネットワーク環境に直接接続されていない子会社など、他の場所にその変更内容を配布することができます。

プロダクト・パッケージング・ツールでは、ソフトウェア・マスタリング・タスクを管理します。この機能により、ソフトウェア・マスターの定義から CD のマスタリングに至るマスタリング・プロセス全体を管理できます。各ツールは定義プロセスから始まり、できるだけ多くの情報を事前に指定します。重要情報の入力を完了すると、ツールに用意されているバッチ処理により、マスタリング前にソフトウェア・マスタリング情報が検証されます。次に、ソフトウェア・マスターを作成するバッチ処理が実行されます。最後に、最終的なソフトウェア・マスター・イメージを検証するバッチ処理が実行されます。

次の図は、プロダクト・パッケージング・プロセスの流れを示しています。

プロダクト・パッケージング・プロセスの流れ



プロセス全体を理解するには、次の用語とプロセスの理解が必要です。

ソフトウェア・マスタリング・ディレクタ

このディレクタを使用すると、システム管理者はオブジェクトまたはモジュールのマスター・バージョンをビルドできます。この機能は、一連のバッチ処理と手作業によるタスクを通じて処理され、マスターのすべてのコンポーネントがビルドされます。最終的な成果物はツリー形式の製品イメージであり、CDとして作成できます。

変更テーブル構成ディレクタ

システム管理者はこのディレクタを使ってソフトウェア・マスターの変更テーブルのビルド方法を定義することができます。

分散開発

分散開発とは、ソフトウェアのカスタマイズを行って、それを別のソフトウェアに配布する機能です。

たとえば、パリにいる開発者が、そこにインストールされているソフトウェアを使用して新規オブジェクトを作成するとします。パリのシステム管理者は、プロダクト・パッケージング・ツールを使用して、これらの新規オブジェクトを含むCDを作成します。このCDはロンドンに発送され、パリとロンドンにインストールされている製品のリリース・レベルが同じであれば、ロンドン・オフィスの管理者はロンドンにインストールされているソフトウェアを更新します。本書で説明する製品パッケージ・ツールには、この機能が組み込まれています。

この機能をリモート開発と混同しないでください。リモート開発とは、インストール環境とまったく接続していない開発者がオブジェクトを作成する作業です。この場合、開発者は後でソフトウェアにアクセスして、作成したオブジェクトをマージすることができます。

前提条件

このガイドは、管理情報システム(MIS)の責任者とこのソフトウェアを管理するシステム管理者を対象としています。プロダクト・パッケージング作業の成否は、関連する概念と手順を把握しているかどうかによって決まります。この方法を得るために、トレーニング・コースに参加することをお勧めします。コースの内容、開催日時、開催場所に関する情報は、J.D. Edwards の Web サイトで入手することができます。少なくとも、作業を始める前に次のガイドに目を通してください。

- 『基本操作』ガイド
- コンフィギュレーション・プランニングおよびセットアップ用ガイド:
 - 『CNC インプリメンテーション』ガイド
 - 『システム・アドミニストレーション』ガイド
 - 『パッケージ管理』ガイド
 - 『サーバー&ワークステーション・アドミニストレーション』ガイド

表記規則

本書では、次の表記規則が使用されています。

MSDE データベース

現在、J.D. Edwards でサポートしているローカル・データベースは、Microsoft SQL Server Desktop Engine(MSDE)です。本書では、MSDE データベースを J.D. Edwards サポート対象ローカル・データベースと呼びます。このローカル・データベースのリポジトリは、将来変更される可能性があります。

フォント

イタリック体は、変数を示します。たとえば、コマンドに入力する必要のある変数 *deploymentserver* が表示されている場合は、*deploymentserver* 句を実際のデプロイメント・サーバー名に置き換えてください。なお、英語オリジナル・ガイド内ではガイド名についてもイタリック体で表記してありますが、日本語ガイドでは『』で囲んだ標準体で表記しています。たとえば、『EnterpriseOne・8.9 インストール・ガイド』のように表記されます。

クーリエ・フォントは、実際に入力する必要のあるコマンドや値などの情報を示します。次に例を示します。

DEVTEMP など、環境名を入力してください。

ソフトウェア・マスターの作成

ここでは、ソフトウェア・マスターの作成手順について説明します。ソフトウェア・マスター作成チェックリストを使用して、必要なプロセス全体を完了したかどうかを確認してください。

ソフトウェア・マスター作成チェックリスト

次のチェックリストを使用して、ソフトウェア・マスターの作成に必要なプロセス全体を完了したかどうかを確認してください。

1. プロダクト・パッケージング・ツールを使用するワークステーションの TEMP ディレクトリに、空き領域が 1 GB 以上あるかどうかを確認します。これは、ソフトウェア・マスターに必要と思われる最大メモリ容量です。マスターの実際のサイズは、作成するパッケージのサイズによって異なります。
2. ここで説明する手順で操作します。
3. CD 構成ディレクタを使用して、ソフトウェア・マスターを定義します。
 - 名称やリリース番号など、作成するマスターのタイプを指定します。
 - マスターに組み込むパッケージを選択します。
4. 変更テーブル・ディレクタを使用して、変更テーブルを構成します。
 - 変更テーブルの対象となるリリース番号を指定します。
 - 変更テーブルのソース環境情報を指定します。
 - 変更テーブルとそのバージョンを選択します。
5. ソフトウェア・マスター定義を検証します。
6. 最終的なソフトウェア・マスターを作成します。これにより、マスターが自動的に検証されます。
7. ソフトウェア・マスターを使用してソフトウェアを更新します。

ソフトウェア・マスター作成の必要条件

以下のタスクを実行して、プロダクト・パッケージング・ツールを有効にします。これらのタスクは一度限りの処理です。一度完了すれば、再度実行する必要はありません。

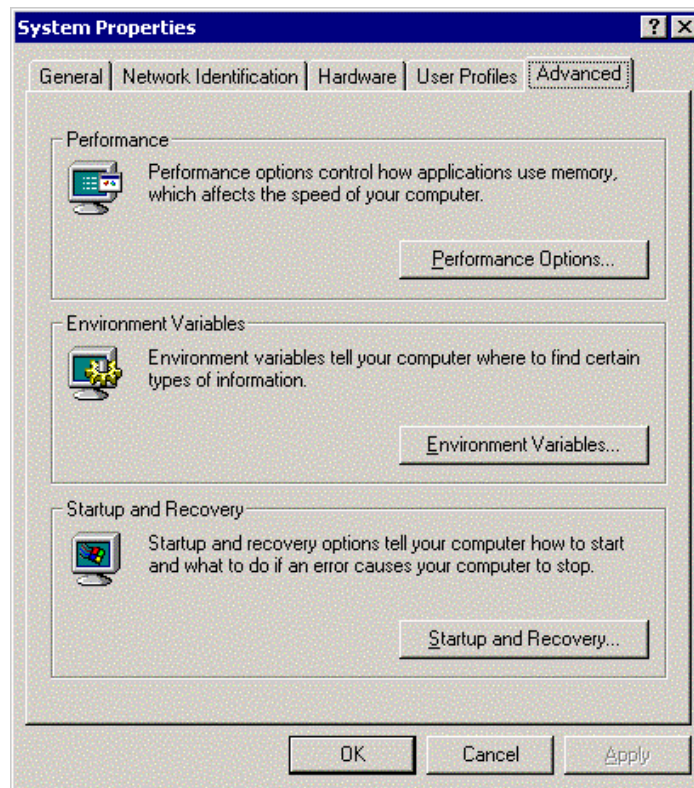
システム TEMP ディレクトリの設定

このタスクでは、プロダクト・パッケージング CD のマスター作成に使用する J.D. Edwards サポート対象ローカル・データベース (MSDE) を保管するための一時ディレクトリを作成します。

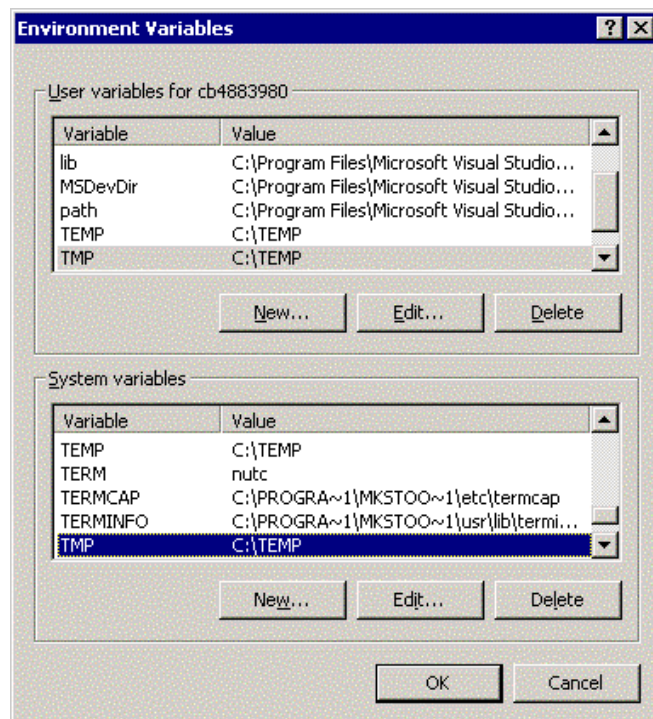
▶ システム TEMP ディレクトリを設定するには

1. Windows デスクトップで、[スタート]メニューから[設定]、[コントロール パネル]を選択します。
2. [コントロール パネル]で[システム]アイコンをダブルクリックします。

3. [システム プロパティ]で[詳細]タブをクリックします。



4. [環境変数]をダブルクリックします。



5. すべてが同じディレクトリ(c:\TEMP など)にアクセスできるように、[ユーザー環境変数]と[システム環境変数]で TEMP および TMP 変数を設定します。

注:

ワークステーション上の Windows TEMP ディレクトリに、少なくとも 1 GB (できればそれ以上) の使用可能ディスク領域があることを確認してください。TEMP ディレクトリの空き領域が 1 GB 未満の場合は、十分な領域がある別のディスク・ドライブ上で TEMP ディレクトリを作成することにより、システム環境変数 TEMP と TMP を、新規の TEMP フォルダを指すように設定できます。変更後、設定を有効にするためにはシステムを再起動してください。

このディレクトリに、以降のタスクで作成するソフトウェア・マスターが格納されます。

プリスティン(JDE オリジナル)コントロール・テーブルの作成

アップデート CD にコントロール・テーブルの変更を組み込むには、プロダクト・パッケージング・ツールでコントロール・テーブルのプリスティン・コピーを使用する必要があります。インストールに JD9 プリスティン環境が組み込まれている場合、これらのテーブルは既に EnterpriseOne 8.9 インスタンスに存在しているため、次のタスクを省略することができます。ただし、インストールにプリスティン環境が組み込まれていない場合は、コントロール・テーブルを OneWorld Local から新規データ・ソース Control Tables - JDE にコピーすることで、一連のプリスティンコントロール・テーブルを作成できます。これは一度限りの処理です。

▶ プリスティン・コントロール・テーブルを作成するには

デプロイメント・サーバー上で、DEP9 環境にログオンします。

〈Vocabulary Override(用語一時変更)〉メニュー(GH9011)から〈Batch Version(バッチ・バージョン)〉を選択します。

1. [Batch Application]フィールドに“R98403”と入力し、[Find]をクリックします。
2. 〈Work With Batch Versions - Available Versions(バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン)〉で、バージョン XJDE0501(プリスティン・データベース用コントロール・テーブル)を選び、[Row(ロー)]メニューから[Processing Options(処理オプション)]を選択します。
3. [Environment(環境)]タブをクリックし、次の処理オプションを変更します。
 - Target Environment(ターゲット環境)(オプション 1)
このフィールドはブランクにしてください。
 - Target data source(ターゲット・データ・ソース)(オプション 2)
“Control Tables - JDE”と入力します。
 - Data Load(データ・ロード)(オプション 3)
“2”を入力します。これにより、データがテーブルにコピーされます。
 - Source data source(ソース・データ・ソース)(オプション 4)
“OneWorld Local”と入力します。
4. バージョンをローカルで実行します。

レポートにより、F0004、F0004D、F0005、F0005D、F0082、F00821、F0083、F0084、F91100、F91100D、F91400、F91410、F91420、F91430、F91500、F91510 の各テーブルが、JDELocal.mdf データベースから Control Tables - JDE にコピーされます。

5. レポートの結果とテーブルの作成結果を検証します。
6. 〈Batch Versions〉アプリケーションを終了します。
7. 〈Vocabulary Override〉メニュー(GH9011)から〈Object Configuration Manager(オブジェクト構成マネージャ)〉を選択します。
8. 〈Machine Search and Select(マシンの検索/選択)〉で、System - B9 データ・ソースを含むマシンを選択します。
9. JD9 環境の場合は、テーブル F0004、F0004D、F0005、F0005D、F0082、F00821、F0083、F0084、F91100、F91100D、F91400、F91410、F91420、F91430、F91500、F91510 の各テーブルのオブジェクト構成マネージャ(OCM)マッピングを追加し、これらの新規テーブルを Control Tables - JDE データ・ソースに割り当てます。
10. 新しいマッピングをアクティブ化します。
11. オブジェクト構成マネージャを終了します。

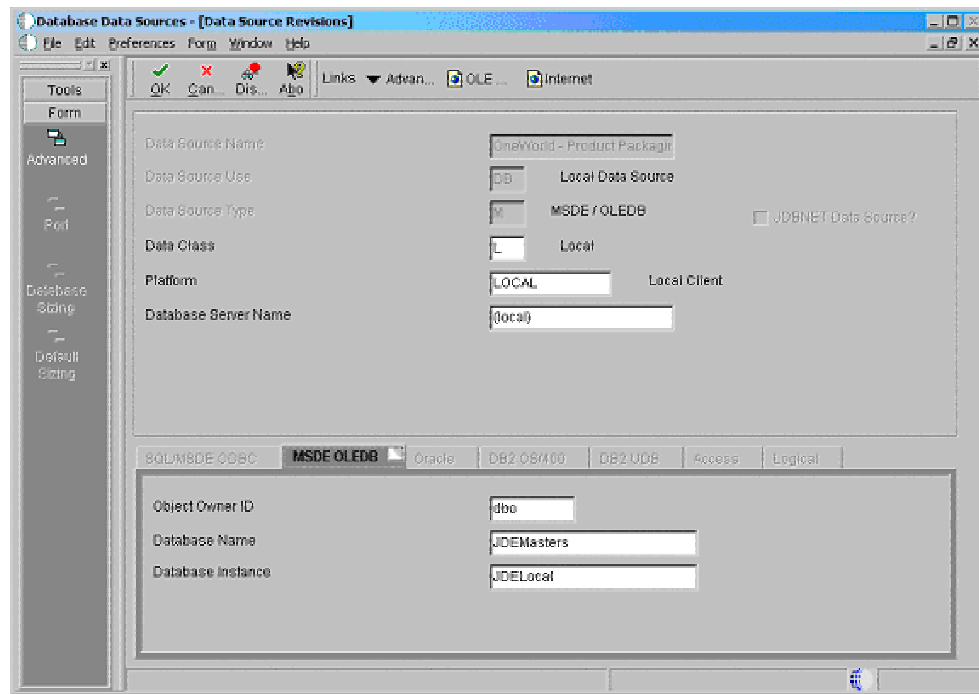
プロダクト・パッケージングのデータ・ソース構成の確認

プロダクト・パッケージング処理では、プロダクト・パッケージ CD のイメージがマスタリングされるワークステーション上の TEMP ディレクトリに、MSDE データベースを作成します。このデータベースを使用して、CD 上でマスタリングされるデータが格納されます。このデータベースにテーブルをコピーするには、デプロイメント・サーバー上で OneWorld - Product Packaging データ・ソースと Data Dictionary - JDE データ・ソースが正しく構成されていることを確認する必要があります。

▶ プロダクト・パッケージングのデータ・ソースを確認するには

デプロイメント・サーバー上で DEP9 環境ログオンし、[Fast Path(略式コマンド)]に"GH9011"と入力します。

1. [Database Data Sources(データベース・データ・ソース)(P986115)]をダブルクリックします。
2. 〈Machine Search and Select〉で、System - B9 データ・ソースを含むマシンを選択します。
3. 〈Work With Data Sources(データ・ソースの処理)〉で[Find]をクリックします。
4. [OneWorld - Product Packaging]データ・ソースを選択します。



5. <Data Source Revisions (データ・ソースの改訂)>で、OneWorld – Product Packaging データ・ソースが次の値で定義されていることを確認します。

- [Data Source Name] : OneWorld – Product Packaging
- [Data Source Type] : M – MSDE/OLEDB
- Database Name (データベース名) : JDEMasters

異なるデータベース名が表示される場合は、“JDEMasters”に変更します。

6. [OK]をクリックして<Data Source (データ・ソース)>アプリケーションを終了します。

プリスティン・データ・ソースにおけるデータ辞書の作成

プリスティン・データ・ソースにデータ辞書を作成する必要があります。これは一度限りの処理です。各テーブルは、一度作成すると再度作成する必要はありません。

▶ プリスティン・データ・ソースにデータ辞書を作成するには

デプロイメント・サーバーから JDEPLAN 環境にログオンします。ユーザー名 JDE、パスワード JDE を使用してください。

<System Administration Tools (システム・アドミニストレーション・ツール)>メニュー (GH9011) から <Batch Versions> を選択します。

1. <Work With Batch Versions – Available Versions>で、[Batch Application] フィールドに “R98403” と入力して [Find] をクリックします。
2. バージョン XJDE0509 を選んで [Copy (コピー)] をクリックします。

3. 〈Version Copy (バージョン・コピー)〉で、新しいバージョン名とバージョン・タイトルを入力して[OK]をクリックします。
4. 〈Work With Batch Versions – Available Versions〉で、作成したバージョンを選び、[Row]メニューから[Processing Options]を選択します。
5. 次の処理オプションに値を入力します。
 - Target data source (オプション 2)
“DATA DICTIONARY – JDE”と入力します。
 - Source environment (ソース環境) (オプション 5)
“JDEPLAN”と入力します。

この 2 つの処理オプションにより、データ辞書テーブルを JDEPLAN 環境から新規プリステイン・データ辞書にコピーするように、バッチ処理が設定されます。

6. 作成したバージョンを、最初にテスト・モードで実行するように設定します。
7. このレポートを、エンタープライズ・サーバー上ではなくローカルで実行します。
8. このレポートの結果を検証します。
9. テスト・モードでの結果に問題がなければ、作成したバージョンを最終モードで実行します。
10. [Fast Path]に“OCM”と入力して〈Object Configuration Manager〉を実行し、エンタープライズ・サーバーを選択します。
11. JD9 環境の場合は、テーブル F00165、F9200、F9202、F9203、F9207、F9210、F9211、F9212 を指す OCM マッピングを Data Dictionary – JD9 に追加します。
12. 新しい OCM マッピングをアクティブにします。

変更テーブルの作成

プロダクト・パッケージングでは、変更テーブルと呼ばれる一連のテーブルが存在し、それが Control Tables – 〈environment〉データ・ソースにマップされている必要があります。変更テーブルとは、リリース間またはアップデート間で変更があった項目を含むテーブルです。通常これらのテーブルは、インストール・プロセス中に〈Environment Workbench (環境ワークベンチ)〉を実行すると生成されます。ただし、環境にデモ・データが自動入力されている場合は、〈Environment Workbench〉で正常に作成されたことがレポートされる場合でも、これらのテーブルは生成されません。

マスタリング環境で変更テーブルを作成する必要がある場合は、次の手順で操作します。

► 変更テーブルを作成するには

変更テーブルを内部で作成するには、この処理を一度完了する必要があります。

デプロイメント・サーバー上で DEP9 環境にログオンします。

〈Vocabulary Override〉メニュー (GH9011) から〈Batch Version〉を選択します。

1. [Batch Application] フィールドに“R98403”と入力し、[Find] をクリックします。
2. バージョン XJDE0507 (変更テーブル) をハイライトして [Copy] をクリックします。
3. 〈Version Copy〉で、次のフィールドに情報を入力します。

- 新しいバージョン
CREATECT
 - バージョン・タイトル
新バージョンの名前を入力します。
4. [OK]をクリックします。
 5. 〈Batch Version Design (バッチ・バージョンの設計)〉で、[General (一般)] タブの [Processing Options] ボタンをクリックします。
 6. CREATECT の次の処理オプションを編集します。
 - Target Environment (オプション 1)
マスタリング環境名を入力します。
 - Target data source (オプション 2)
このフィールドはブランクにしてください。
 - Data Load (オプション 3)
“1 – Load Production” と入力します。これにより、空のテーブルが作成されます。
 - Source data source (オプション 4)
“OneWorld Local” と入力します。
 7. [OK]をクリックします。
 8. 〈Batch Version Design〉で [Run (実行)] をクリックします。
 9. 〈Version Prompting (バージョン・プロンプト)〉で、[Data Selection (データ選択)] を選択して [Submit (投入)] をクリックします。
 10. 〈Data Selection〉で、次のテーブルが [BC OBNM] の右オペランドに表示されているかどうかと、欠落しているテーブルを確認します。

F960004	F9691100	F9698710	F98800TN
F960005	F9691400F	F9698712	F98810DN
F967611	9691410	F9755	F98810N
F969000	F9691420	F9757	F98811N
F969001	F9691430	F9759	F98830N
F969002	F9691500	F9760	F98840N
F969005	F9691510	F98800DN	F98845N
F969006	F969861	F98800N	

11. バージョンを実行します。

このプログラムによって、Control Tables - CRP(または、指定した環境のコントロール・テーブル・データ・ソース)に変更テーブルが作成されます。

参照

- このフォームの他の機能については「ソフトウェア・マスター定義の処理」

▶ 変更テーブルの作成を検証するには

変更テーブルごとに、マスタリング環境用の適切なデータ・ソースを指す OCM マッピングがあるかどうかを検証する必要があります。

〈Vocabulary Override〉メニュー(GH9011)から〈Object Configuration Manager〉を選択します。

1. 〈Machine Search and Select〉で、System - B9 データ・ソースを含むマシンを選択します。
2. マスタリング環境について、次の各変更テーブルが適切なデータ・ソースにマップされているかどうかと、各マッピングがアクティブ化されているかどうかを検証します。

変更テーブル	データ・ソース
F960004、F960005、F969000、F969001、F969002、 F969005、F969006、F98800DN、F98800N、 F98800TN、F98810DN、F98810N、F98811N、 F98830N、F98840N、F98845N	Control Tables - 〈environment〉
F969861、F9698710、F9698712	Central Objects - 〈environment〉
F967611、F9691100、F9691400、F9691410、 F9691420、F9691430、F9691500、F9691510	System - B9
F9755、F9757、F9759、F9760	Data Dictionary - B9

3. OCM を終了します。
4. 〈Universal Table Browser(ユニバーサル・テーブル・ブラウザ)〉(UTB)を実行し、各テーブルが適切な位置に作成されたかどうかを検証します。

ソフトウェア・マスターの作成

ここでは、ソフトウェア・マスターの作成プロセス全体について説明します。以下のチェックリストを使用して、プロセス全体を完了したかどうかを確認してください。

注:

「ソフトウェア・マスターの作成」の「ソフトウェア・マスター作成チェックリスト」を参照してください。

ソフトウェア・マスターの定義

ここでは、CD 構成ディレクトリを使用してソフトウェア・マスターを定義する方法について説明します。

注:

すでにソフトウェア・マスターの定義を完了していて、それを改訂する必要がある場合は、「ソフトウェア・マスター定義の改訂」を参照してください。

ソフトウェア・マスター定義は、完成したソフトウェア・マスターの構造を示すものであり、使用するテンプレートとパッケージ、後続のビルド・ステップ、および最終的なマスターのディレクトリ構造を設定します。ソフトウェア・マスター定義は、あくまでもマスターの構造やアウトラインを示すものです。設定し終わったソフトウェア・マスター定義を検証してから、実際のソフトウェア・マスターを作成します。

ソフトウェア定義へのカスタム・データの組込み

〈Product Packaging (プロダクト・パッケージング)〉アプリケーションを使用すると、ソフトウェア・マスターにカスタム・データを組み込むことができます。ソフトウェア・イメージにカスタム・テーブルやメディア・オブジェクトを組み込む際には、次のヒントを参考にしてください。

新規テーブルの組込み

プリスティン・データと共に新規テーブルが提供される場合、次の条件が満たされていれば、この組込みはマスタリング処理によって自動的に処理されます。

- テーブルがアップデート・パッケージに組み込まれる場合
- テーブルがアップデート・パッケージの環境にある場合
- テーブルがターゲット環境に組み込まれない場合
- テーブルとインデックスの変更テーブルが存在する場合

マスタリング・プロセスが完了すると、テーブルは前に設定した OneWorld – Product Packaging データ・ソースが参照する JDE Masters データベースに格納されます。その新規カスタム・テーブルに関するレコードも、テーブルとインデックスの変更テーブルに存在することになります。

カスタム・メディア・オブジェクトの組込み

カスタム・メディア・オブジェクトをプロダクト・パッケージに組み込むには、ASU テンプレートに次のビルド・ステップを追加します。

1. テーブル・レコードをメディア・オブジェクト・テーブル(F00165)から JDE Masters データベースにコピーするためのビルド・ステップを追加します。
2. メディア・オブジェクト・ファイルをデプロイメント・サーバーからイメージ・パス・ディレクトリにコピーするビルド・ステップを追加します。

参照

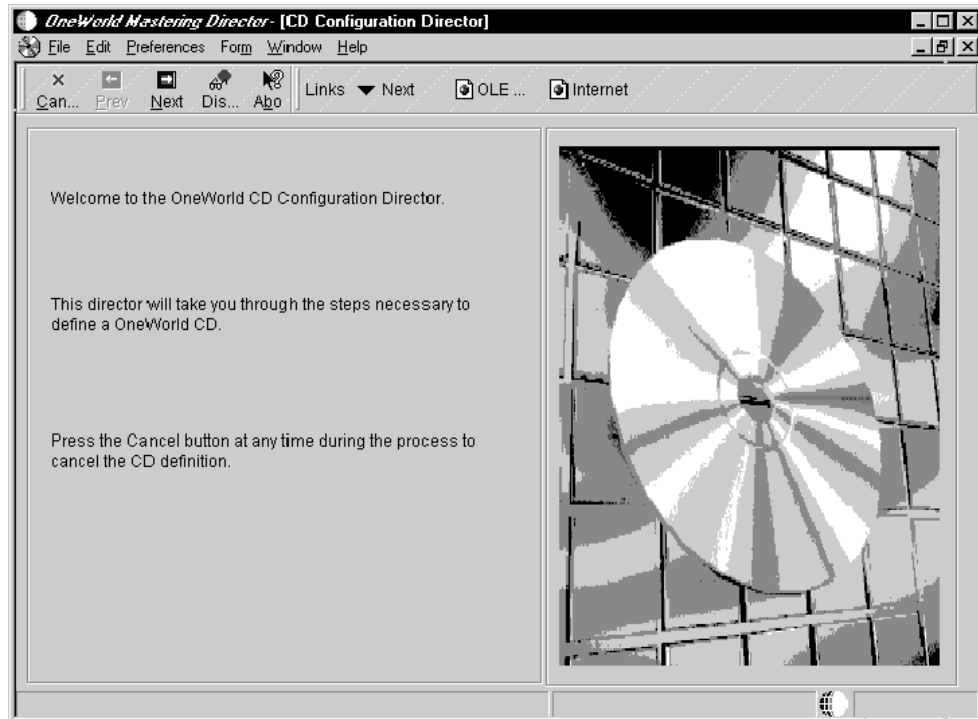
- ビルド・ステップを追加する方法については「ソフトウェア・マスター・テンプレートの改訂」

► ソフトウェア・マスターを定義するには

DV93 など、カスタマイズしたオブジェクトがある開発環境を使用してワークステーションにログインします。

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Product Packages/J.D. Edwards Product Packaging (製品パッケージ/J.D. Edwards 製品パッケージ)〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With Software Mastering(ソフトウェア・マスタリングの処理)〉で、[Find]をクリックします。



2. 〈CD Configuration Director(CD 構成ディレクタ)〉で[Next(次へ)]をクリックします。

J.D. Edwards Product Packaging - [CD Information]

File Edit Preferences Form Window Help

Can... Prev Next Dis... Ago Links Prev OLE... Internet

Enter information about your new CD.

Provide a unique name, the release level, type and a description. Finally, select the directory where you want the CD image to be placed.

Name:

Release: B9 J.D. Edwards

Type: Application Software Update

Build Phase: General Availability

Description:

[Image Path...]

[Image of a CD]

3. <CD Information (CD 情報)>で次のフィールドに値を入力します。

- 名前

追加するソフトウェア・マスター定義の固有名 (B9 UPDATE など) を入力します。ここでは、組み込むパッケージの正確な名前を大文字のみで入力する必要があります。

- リリース

ソフトウェア・マスター定義のリリース (B9 など) を入力します。これは、使用中のクライアント・ワークステーションに現在インストールされているリリースです。

- タイプ

マスターを作成する CD のタイプを指定します。この場合は、デフォルトである ASU CD (オプション 9) です。09 以外のオプションを選んだ場合は、[Next] ボタンをクリックするとエラー・メッセージが表示されます。このフィールドは、マスターの詳細定義に使用するソフトウェア・テンプレートを示します。テンプレートには、ソフトウェア・マスターの作成に必要なビルド・ステップとディレクトリ構造が含まれています。

注:

テンプレートについては「ソフトウェア・マスター・テンプレート」を参照してください。

- ビルド・フェーズ

アルファ、ベータ、または一般的に使用可能なフェーズなど、ソフトウェア・マスター定義が表す開発フェーズを入力します。

- 記述

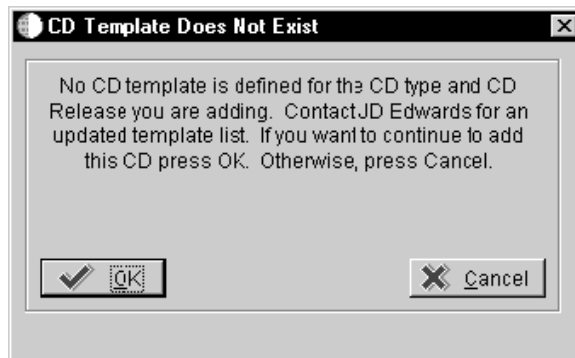
必要に応じて、ソフトウェア・マスター定義の記述を入力します。

- Image Path

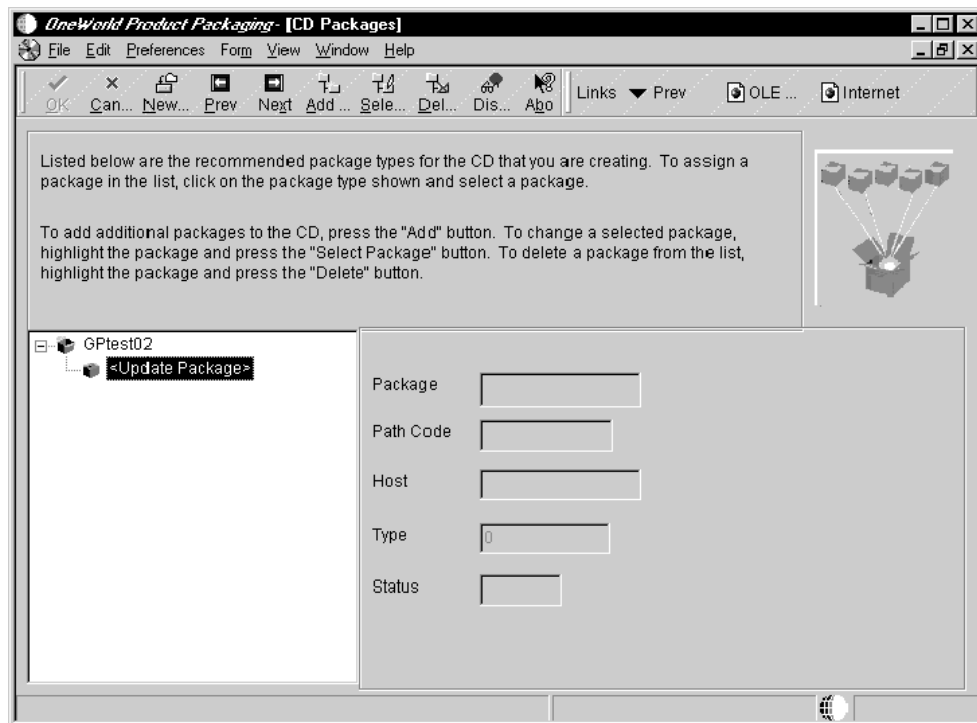
ソフトウェア・マスター定義を格納するプロダクト・パッケージング・ビルド・マシン上のディレクトリ・パス(d:\b7¥PP など)を入力します。このディレクトリが存在しなければ、ソフトウェア・マスタリング・プロセスの実行時に作成されます。指定したディレクトリは、作成するソフトウェア・マスターのルート・ディレクトリとなり、マスターの内容が格納されます。イメージの作成後は、CD 作成業者のソフトウェアを通じて CD を作成できます。

4. [Next]をクリックします。

[Type]フィールドのビジュアル・アシスト・ボタンをクリックし、値リストからテンプレートを選択した場合に、そのテンプレートがエンタープライズ・サーバー上になければ、〈CD Template Does Not Exist(存在しない CD テンプレート)〉フォームが表示されます。この場合、間違ったリリース番号を入力した可能性があります。[OK]をクリックしてソフトウェア・マスター定義の追加を続けるか、[Cancel(キャンセル)]をクリックして定義の追加を中止します。



[Type]フィールドで選択したテンプレートがパッケージを含むように設定されている場合は、〈CD Packages(CD パッケージ)〉フォームが表示されます。



5. アップデート・ディスク用のオブジェクトを含めるアップデート・パッケージを選択します。既存のアップデート・パッケージを選択するか、新しいパッケージを作成することができます。

注:

アップデート・パッケージが適切に定義されるように、次の点に注意してください。

- この処理用のアップデート・パッケージのみを使用します。
- 以前に定義したのと同じプロダクト・パッケージ名を大文字のみで指定する必要があります。
- パッケージは、新しく作成する必要があります。
- アップデート・パッケージには常にスペック、ビルド・スペック、ビルド用ビジネス関数を含めて圧縮する必要があります。プロダクト・パッケージングではイメージ・コピー用に cab ファイルのみが検索されるため、パッケージを圧縮しないとプロダクト・パッケージングは正常に機能しません。
- パッケージ・ビルドをアクティブ化し、ビルド準備を完了します。詳しくは、『パッケージ管理』ガイドを参照してください。

6. そのパッケージが未定義の場合は、<Select Package Build(パッケージ・ビルドの選択)>フォームが自動的に表示されます。それ以外の場合は、[Select Package(パッケージの選択)]をクリックします。

また、[New Package Build(新規パッケージ・ビルド)]または[Package Assembly(パッケージ・アセンブリ)]をクリックしてパッケージを追加する方法もあります。

Package Name	Description	Path Code	Package Type	Description
PRODPART_A	Partial Package	PROD	2	Partial
PRODPART_B	Built 1/22 SP6 1/21	PROD	2	Partial
PRODPART_C	Partial Package	PROD	2	Partial
PRODPART_D	Built 2/3 SP6 1/28/99	PROD	2	Partial
PROD_A	Full Package	PROD	1	Full
PROD_B	Full Package	PROD	1	Full
PROD_C	Full Package	PROD	1	Full
PROD_D	Built 2/3 SP6	PROD	1	Full
PROD_NEW	Newest Prod for Standalone	PROD	1	Full
SP6OPT_113	Update Package SP6 4/19/99	PROD	3	Update
SP6PR_123	SP6 Prod Optimize system	PROD	3	Update
SP6P_132	Update Package SP6 5/7/99	PROD	3	Update

7. パッケージのアセンブリまたは定義が必要な場合は、〈Select Package Build〉で、[Form(フォーム)]メニューから次のどちらかを選択します。

- Pkg Assembly(パッケージ・アセンブリ)
- Pkg Build(パッケージ・ビルド)

注:

ビルドするパッケージは、必ず圧縮してください。

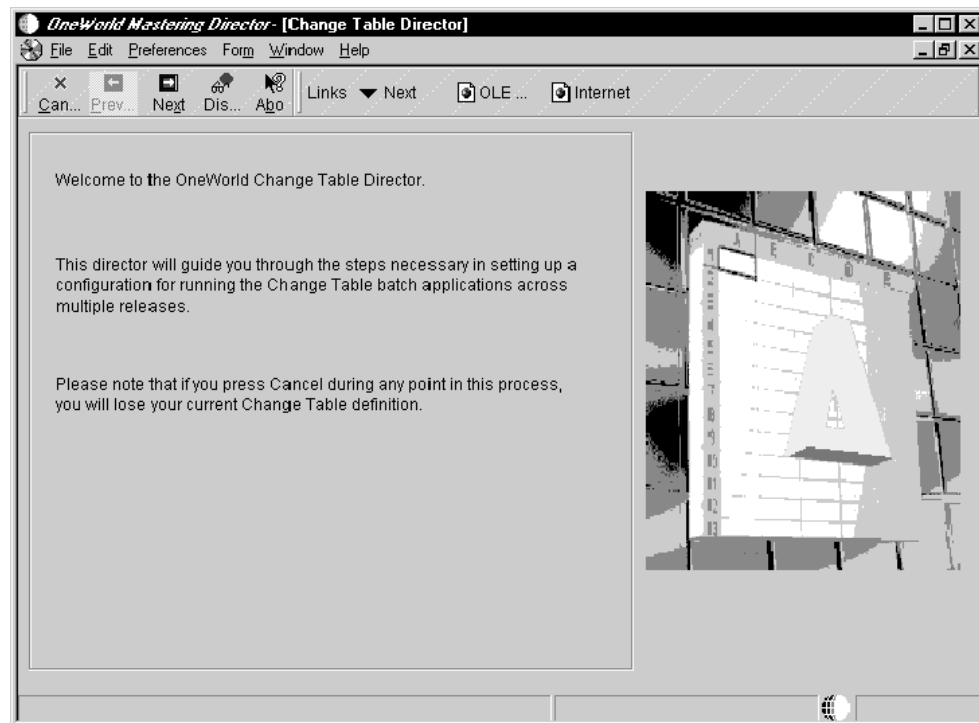
パッケージ・アセンブリとパッケージ・ビルドの手順については、『パッケージ管理』ガイドを参照してください。

8. 〈Select Package Build〉フォームで、パッケージを検索して選び、[Select(選択)]をクリックします。
9. 〈CD Packages〉で、表示されるパッケージ・マーカを選択します。

ASU CD の場合、必要なパッケージは 1 つだけです。他のタイプのソフトウェア・マスターの場合は、複数のパッケージを必要とすることがあります。

10. [Next]をクリックします。

選択したテンプレートが変更テーブルの構成を含むように設定されている場合は、[Next]をクリックすると、〈Change Table Director(変更テーブル・ディレクタ)〉フォームが表示されます。



11. 次のタスクに進みます。ここでは、変更テーブルの構成方法について説明します。

フィールド記述

記述	用語解説
名前	ソフトウェアマスターの固有名
リリース	ソフトウェア・マスターのリリース番号 (B7331 など)。ビジュアル・アシスト・ボタン・フィールドを使うと、フィールドに有効な値のリストを表示できます。
タイプ	マスタリングする CD
ビルド・フェーズ	使用するソフトウェアマスターが表す開発段階です。アルファ、ベータ、または GA (GENERAL AVAILABILITY) があります。これはユーザー定義コードなので、追加や変更が可能です。ビジュアルアシストボタンフィールドを使うと、フィールドに有効な値のリストを表示できます。
記述	ソフトウェアマスターの略式記述

パッケージ	<p>ワークステーションに展開するコンポーネントがサーバーのどこにあるかを説明します。パッケージには 3 つのタイプがあります。</p> <p>フル・パッケージ: システム・アプリケーション (すべてのスペック) を含みます。</p> <p>部分パッケージ: システムの最小構成。すべてのアプリケーションを初期インストールするのではなく、選択したアプリケーションのみをロードすることができます。</p> <p>更新: このパッケージ・タイプに含まれるシステム・オブジェクトは、ワークステーションがパッケージを受け取り、ユーザーがシステムにサインオンした後にロードされます。該当するスペックのないオブジェクトが更新パッケージに含まれる場合、アプリケーションの古いバージョンはワークステーションから削除され、ユーザーが次にそのアプリケーションにアクセスする時に現バージョンに置き換えられます。更新パッケージは、常にシステム管理者が指定した日時に展開されます。</p>
パス・コード	ONEWORLD オブジェクトのポインタとなり、OENWORLD 内でのオブジェクトとそのロケーションをトラッキングするのに使用します。
タイプ	CD 改訂のトランザクション処理
状況	<p>パッケージの状況は、パッケージが組み立てられる間に定義されます。アセンブリが完了すると、状況を定義完了へと変更できます。</p> <p>定義完了の状況コードのあるパッケージのみパッケージビルドに投入できます。</p>

変更テーブルの構成

ここでは、変更テーブル・ディレクタを使用して変更テーブルの構成を設定する方法について説明します。変更テーブル構成を作成し、ソフトウェア・マスターと共に組み込む変更テーブルをプロダクト・パッケージング・ツールに対して指定します。完成したソフトウェア・マスターのインストール時には、インストール・プロセスにより、指定した変更テーブルでエンタープライズ・サーバーのコントロール・テーブルが更新されます。

ここでは、具体例を使用して、変更テーブルの構成が必要となる理由を説明します。

アメリカのデンバー本社では、ソフトウェアに変更を加えており、デンバーのエンタープライズ・サーバーにネットワーク接続されていない支社のエンタープライズ・サーバーも更新したいと考えています。一方、フランスのパリ支社は独自のソフトウェアとコントロール・テーブルのセットを持っています。デンバー本社は、ソフトウェアの変更だけでなく、データ辞書とユーザー定義コードの変更を含む変更テーブルを伴うパッケージを組み込んだソフトウェア・マスターを作成します。この例の変更テーブルには、パリ支社のエンタープライズ・サーバーの前回の更新以降のコントロール・テーブル変更のみが含まれています。デンバー本社は、そのソフトウェア・マスターを CD に書き込んでパリ支社に発送します。パリ支社がそのソフトウェア・マスターをインストールすると、変更テーブルによりパリのコントロール・テーブルが更新され、各テーブルとデンバー本社のコントロール・テーブルの同期状態が確保されます。

▶ 変更テーブルを構成するには

テンプレートで必須になっている場合に自動的に表示される〈Change Table Director〉で、[Next]をクリックします。

または、〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Change Table Configurations(変更テーブルの構成)〉プログラム(P9642)を選択して[Add(追加)]をクリックし、〈Change Table Director〉で[Next]をクリックします。

1. 〈Target Release Selection(ターゲット・リリースの選択)〉フォームで次のフィールドに値を入力します。

- ターゲット・リリース

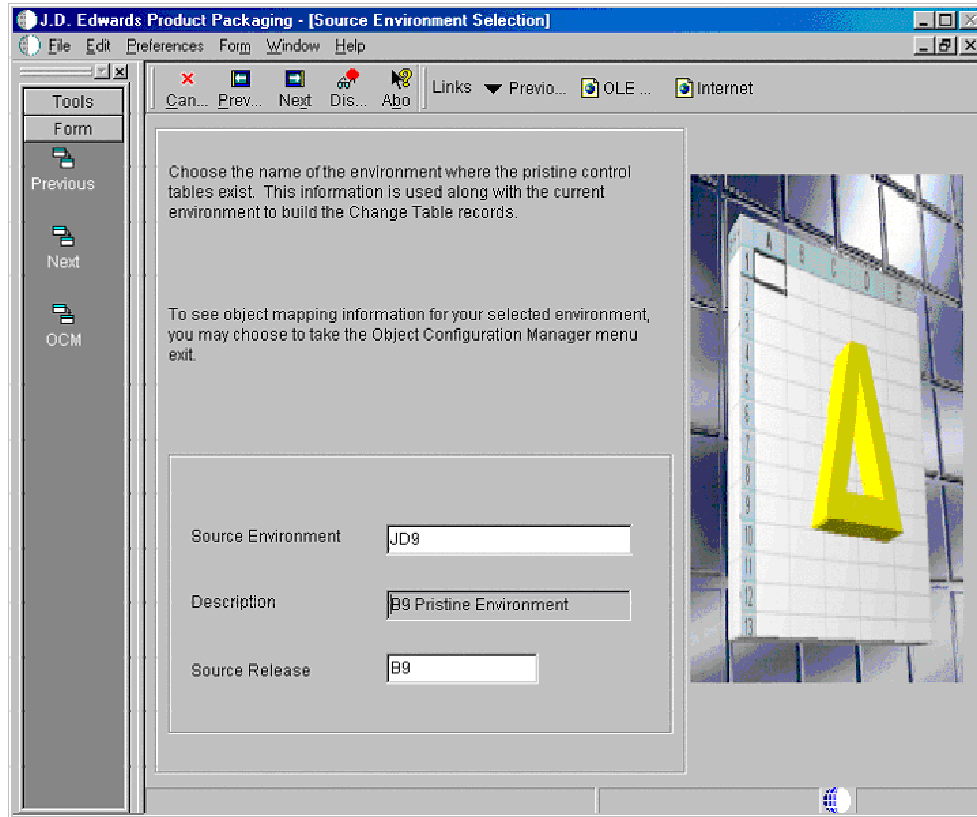
ターゲット・リリースを、マスタリングするカスタム UDC 名に変更します。ここでは、1099 税の更新の場合は B9TAX など、固有の名称を指定する必要があります。ビジュアル・アシストを使用してリリース名を選択します。

注:

これらのテーブルの値がソース・リリースとターゲット・リリースで同じになっていると、ソフトウェアは正常に動作しません。カスタム UDC を追加するには、ビジュアル・アシストをクリックし、[Revisions(改訂)]をクリックします。これにより、〈Work with User Defined Codes(ユーザー定義コードの処理)〉フォームが表示されます。〈User Defined Codes(ユーザー定義コード)〉で[Add]をクリックします。グリッドの最下部にスクロールし、グリッドの最終行に新しい値を追加します。UDC の作成後に、〈User Defined Code(ユー

ザー定義コード))フォームで新規 UDC を選択し、[Select]をクリックします。この操作によって、[Target Release]フィールドに新しい値が自動入力されます。

2. [Next]をクリックします。



3. <Source Environment Selection(ソース環境の選択)>フォームが表示されます。次のフィールドに値を入力します。

- ソース環境

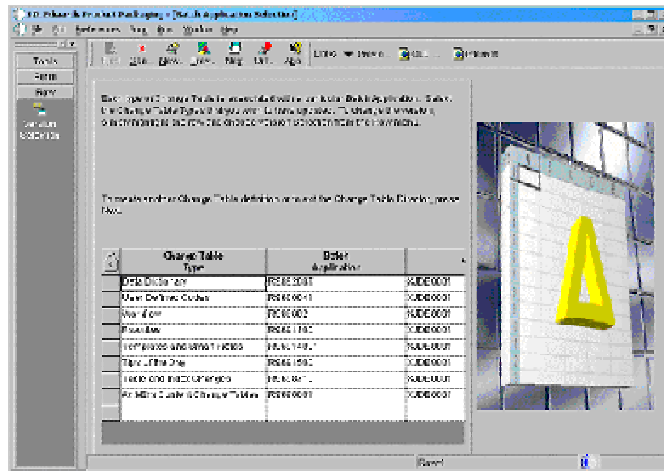
変更のベースラインとして使用するコントロール・テーブルを含む環境の名前を入力します。通常、ソースはプリスティン環境(JD9)です。変更テーブル・レコードは、ターゲット環境をこのベースラインと比較することで作成されます。

- ソース・リリース

ソース・リリースが、必要なソース環境のリリースおよび PTF/Cum アップデート・レベル(B9 など)と一致するかどうかを確認します。このフィールドには、ソース環境に基づいて値が自動入力されます。

4. [Next]をクリックします。

<Batch Application Selection(バッチ・アプリケーションの選択)>フォームが表示されます。このフォームには、使用可能な変更テーブルと、その変更テーブルを作成するバッチ・アプリケーションおよびバージョンのリストが表示されます。



- ソフトウェア・マスターに使用するデフォルトの変更テーブルを選択するには、変更テーブルのローの左にあるグレーのボタンをダブルクリックします。

ボタンにチェックマークが表示されます。

次の変更テーブルのうち、追加、削除、または変更した一部またはすべてのテーブルを選択します。バッチ処理では、選択した各カテゴリ内のソース・テーブルとターゲット・テーブルが比較され、すべての変更を含む変更テーブルが作成されます。

- Data Dictionary (データ辞書)
- User Defined Codes (ユーザー定義コード)

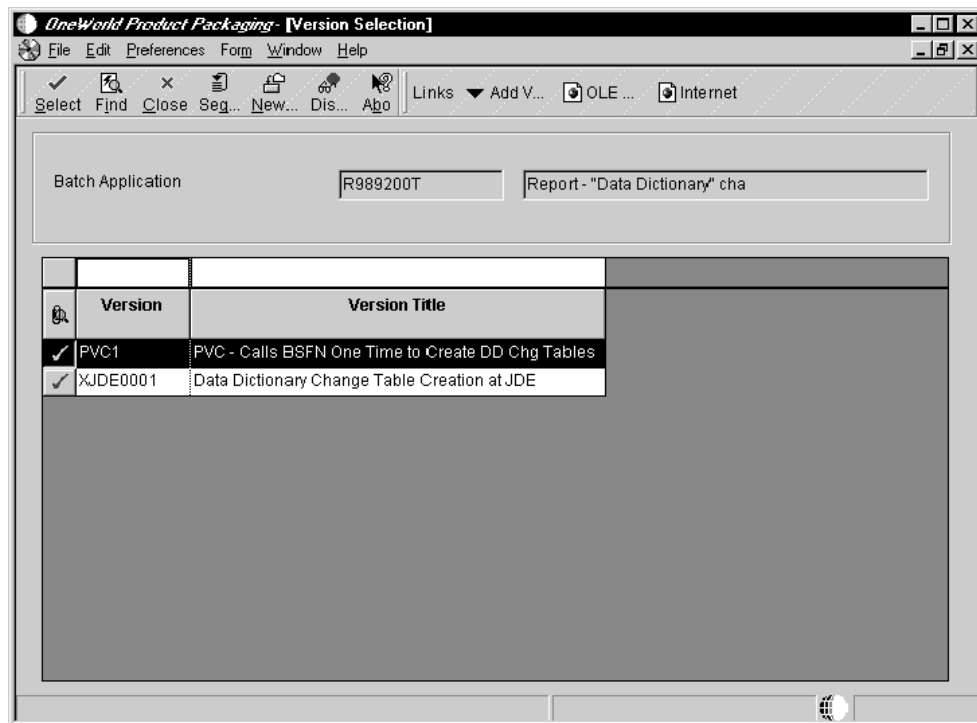
これらは常にリリースを定義する UDC に対する変更なので、このバッチ・アプリケーションを必ず選ぶ必要があります。

- Workflow (ワークフロー)
- Favorites (お気に入り)
- Templates and Smart Fields (テンプレートとスマート・フィールド)
- Tips of the Day (ワンポイント・ヒント)
- Table and Index Changes (テーブルおよびインデックス変更)
- Solution Explorer Change Tables (Solution Explorer 変更テーブル)

注:

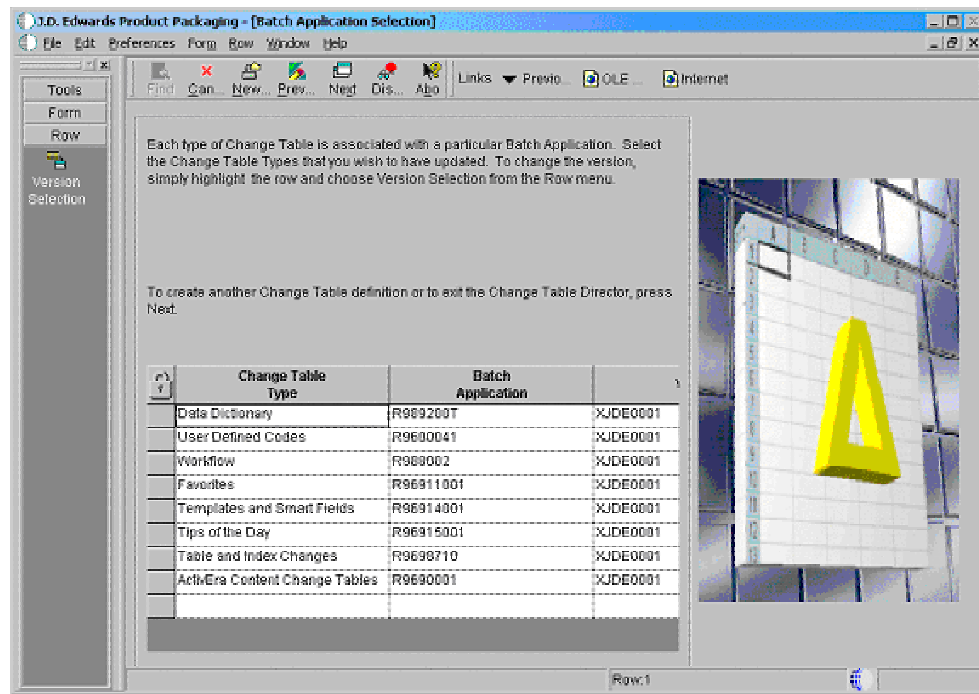
チェックマークはダブルクリックすると削除できます。

- 異なるバージョンまたは複数のバージョンを選択するには、変更テーブルのローを選び、[Row]メニューから[Version Selection (バージョン選択)]を選択します。



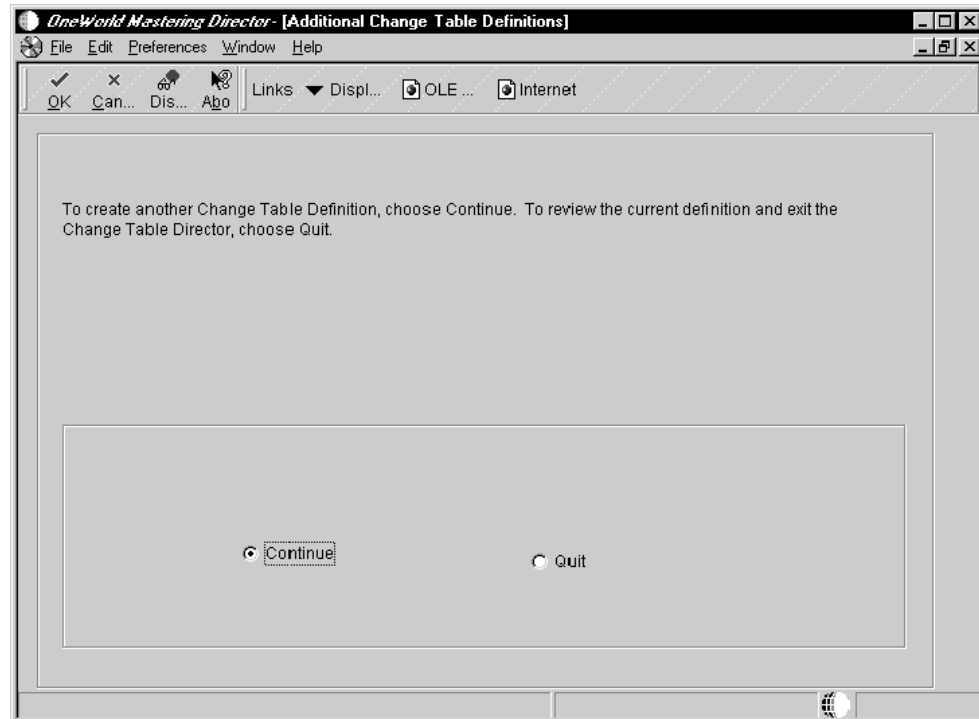
7. 〈Version Selection〉で、1 つまたは複数のバージョンを選んで[Select]をクリックするか、バージョンの左にあるグレーのボタンをダブルクリックします。
選んだバージョンの左にチェックマークが表示されます。
8. 必要なバージョンの選択後に[Close(閉じる)]をクリックします。
〈Batch Application Selection〉フォームが再表示されます。

選んだ変更テーブルのローの左にチェックマークが表示されます。ソフトウェア・マスター用に作成する変更テーブルの左にチェックマークがなければ、そのテーブルは無視されます。複数のバージョンを選択すると、その変更テーブルの[Version(バージョン)]カラムの下に〈MULTIPLE〉と表示されます。



9. 別の変更テーブルのローを選んで[Row]メニューから[Version Selection]を選ぶか、または[Next]をクリックします。

[Next]をクリックすると、〈Additional Change Table Definitions (追加変更テーブルの定義)〉フォームが表示されます。



10. 〈Additional Change Table Definitions〉で、次のいずれかの手順を実行します。

- 新規のソース・リリースとターゲット・リリースの組合せに対して変更テーブル構成を追加定義するには、[Continue(続行)]を選択して[OK]をクリックします。〈Target Release Selection〉フォームが表示されます。このタスクの冒頭に戻り、異なるソースとターゲットの組合せごとに手順を繰り返します。
- [Quit(終了)]を選択して[OK]をクリックします。この操作によって変更テーブル構成ディレクタが停止し、定義した CD のマスタリングに関する最終変更画面が表示されます。
[Quit]を選ぶと、〈CD Revisions(CD の改訂)〉フォームが表示されます。このフォームを使用して、ソフトウェア・マスター定義を改訂します。

注:

作成した変更テーブル構成の改訂が必要になった場合は、「ソフトウェア・マスター定義の改訂」と「変更テーブルの改訂または投入」を参照してください。

11. 〈CD Revisions〉で[OK]をクリックします。

これにより、ソフトウェア・マスター定義が保存され、〈CD Revisions〉フォームが閉じます。

12. 次のタスクに進みます。ここでは、作成した定義の検証方法について説明します。

フィールド記述

記述	用語解説
ターゲット・リリース	現在作成しているソフトウェア・マスターのリリース番号(B7331 など)。
ソース環境	プリスティン制御テーブルが常駐するソース環境名。OneWorld では、ソフトウェア・マスターの変更テーブルはこのソースから作成されます。
ソース・リリース	WORLD では、ソフトウェアバージョンのリポジトリに定義されたリリース番号。 ONEWORLD では、リリースマスターに定義されたリリース番号をいいます。
変更テーブルタイプ	ユーザー定義名称または備考。

パッケージ・ビルド・アプリケーションのマスタリング・モードの設定

アップデート・パッケージを圧縮するには、パッケージ・ビルド・アプリケーションをマスタリング・モードに設定する必要があります。

▶ パッケージ・ビルド・アプリケーションをマスタリング・モードに設定するには

デプロイメント・サーバー上で DEP9 環境にログオンします。

〈Package and Deployment Tools〉メニュー(GH9083)から〈Package Build〉を右クリックして [Prompt For Values(処理オプションの表示)]を選択します。

Processing Options

Processing

1. Enter a value to determine how changes will occur.

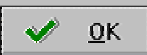
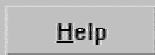

Blank = Changes will only be allowed at the package level and will apply to all servers selected.
1 = Changes will be allowed to the build definitions by individual server.

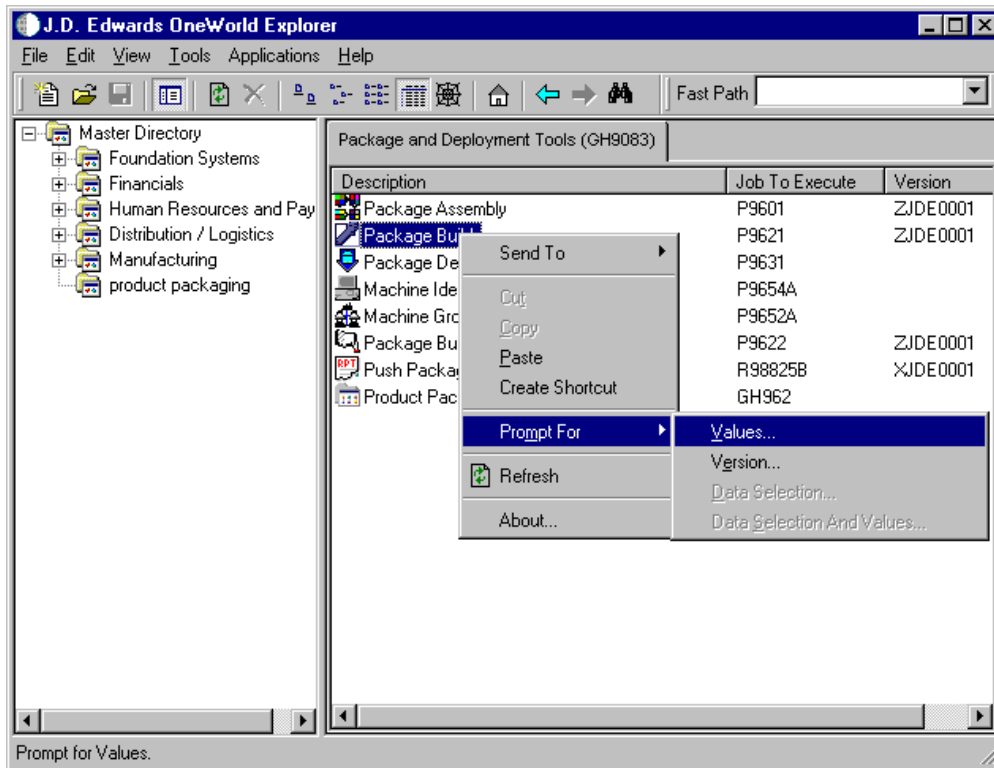
2. Mark this processing option with a 1 if this process is for Mastering purposes. If the process is for all users, mark this processing option with a blank.

<Blank> = All Users
1 = Mastering Only

3. Mark this processing option with a 1 if the Build Verification UBE is to be run prior to building all packages. If the build verification fails, the package build UBE will not be run.

Blank = Do not run Build Verification
1 = Run Build Verification

 **OK**  **Help**  **Cancel**



1. 〈Processing Options〉で、オプション 2 に“1”と入力してマスタリング・モードを設定します。
2. [OK]をクリックします。
3. 〈Package Build〉アプリケーションを終了します。

ソフトウェア・マスター定義の検証

ここでは、〈Pre-Mastering CD Validation (マスタリング前 CD 検証)〉レポート(R9640A)を実行して、設定したソフトウェア・マスター定義を検証する方法と、検証に役立つレポートの内容について説明します。このレポートは、最終モードで実行します。このレポートには、ビルド・ステップが検証済みかどうかが表示され、エラーのないビルド・ステップを示す状況に変更されます。

▶ ソフトウェア・マスター定義を検証するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)でから〈Product Packages/J.D. Edwards Product Packaging〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With Software Mastering〉で、[Find]をクリックします。
既存のソフトウェア・マスター定義が表示されます。
2. 検証するマスターを選び、[Row]メニューから[Validate (検証)]を選択します。
3. 〈Report Output Destination (レポート出力先)〉で、レポートが Acrobat Reader で表示されるように、[On Screen (画面)]を選んで[OK]をクリックします。

レポートが実行されます。エラーがなく、状況が In Definition(10)または Defined(定義済み)(20)となっていたすべての手順が Validated(検証済み)(30)状況になり、ソフトウェア・マスタリング・プロセス中、正常に動作します。それ以外の場合は、ビルド・ステップで次のように警告またはエラー・メッセージが表示されます。

- 警告メッセージが表示されても、ソフトウェア・マスターの作成処理は停止しません。ビルド・ステップに警告メッセージが表示される場合は、処理を進める前にビルド・ステップの内容が希望通りかどうかを確認する必要があります。レポートには、ビルド・ステップがテンプレートと異なることを示す警告が常に含まれることに注意してください。このプロセスではカスタム・パッケージ・ビルドが使用されるため、この警告は常に示されます。
 - エラー・メッセージが表示されると、ソフトウェア・マスターの作成処理が停止します。エラー・メッセージを含むビルド・ステップを修正する必要があります。エラーの内容はメッセージに表示されます。
4. 次のタスクに進みます。ここでは、最終的なソフトウェア・マスターの作成方法について説明します。

最終的なソフトウェア・マスターの作成

ここでは、前項で作成した定義から最終的なソフトウェア・マスター・イメージを作成する方法について説明します。単一の定義からマスターを作成する方法と、特定のリリースのすべての定義をマスターに使用するように選択する方法があります。

このタスクでは、〈Master CD (マスターCD)〉レポート(R9640B)を使用します。このレポートでは、すべてのビルド・ステップとそれに関連する UBE が制御されます。また、各ビルド・ステップの状況が 30 – Validated から新規の状況 60 – Built または 50 – Failed (失敗) に変更されます。

ビルド所要時間

平均的なワークステーション、ネットワーク、ERP 環境では、マスタリング処理には約 1 時間かかります。ただし、次のように多くの変動要素があるため、プロダクト・パッケージ CD のビルド所要時間に影響する可能性があります。これらの変動要素は次のとおりです。

- デバッグの状況とレベル
- アップデート・パッケージ内のオブジェクト数
- アップデート・パッケージ内のオブジェクト・サイズ
- 親パッケージ全体のサイズ
- 定義する変更テーブルの数
- ネットワークの通信速度
- データベースのタイプ
- ビルド・マシンの処理速度
- ビルド・マシンのメモリ
- エンタープライズ・サーバー、デプロイメント・サーバー、ビルド・マシンで実行されている他の処理の数

はじめる前に

- プロダクト・パッケージング・ツールを使用するワークステーションの TEMP ディレクトリに、空き領域が 1 GB 以上あるかどうかを確認します。これは、ソフトウェア・マスターに必要なと思われる最大メモリ容量です。マスターの実際のサイズは、作成するパッケージのサイズによって異なります。

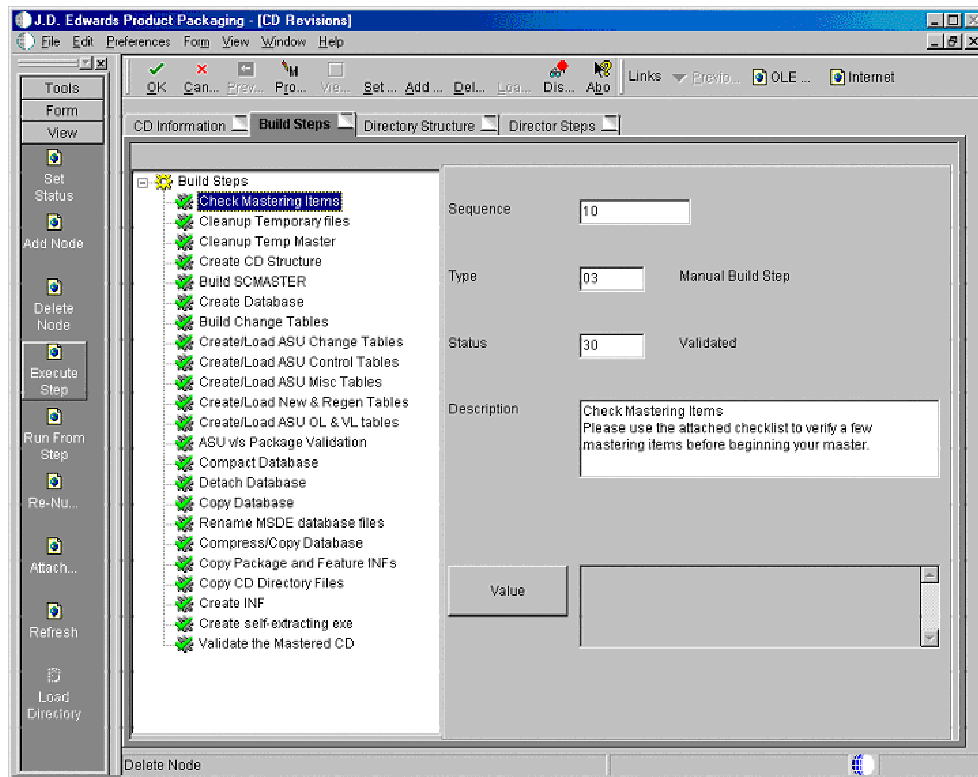
▶ 最終的なソフトウェア・マスターを作成するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Product Packages/J.D. Edwards Product Packaging〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With Software Mastering〉で、次のいずれかの手順を実行します。
 - ある特定の定義からソフトウェア・マスターを作成するには、[Find]をクリックし、作成に使用する定義を選んで[Row]メニューの[Master CD]をクリックします。
 - 特定リリースのすべての定義のソフトウェア・マスターを作成するには、[Row]メニューの[Master Release(マスター・リリース)]をクリックします。表示されるフォームに、マスターに使用する定義のリリース番号を入力します。

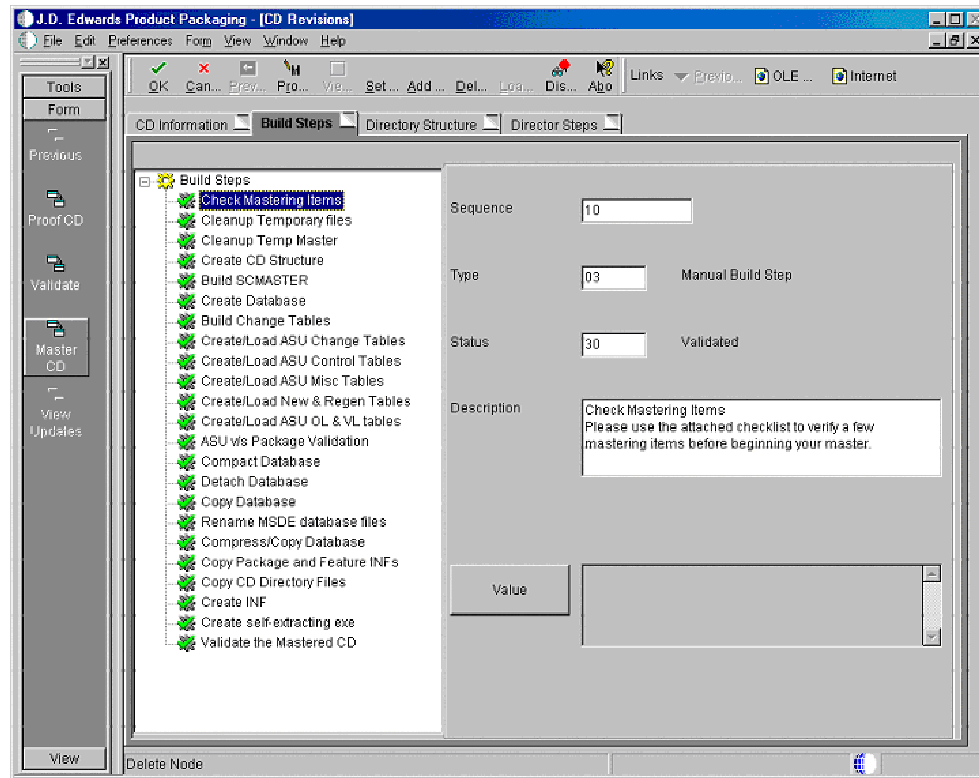
どちらを選択した場合も、選択した定義に基づいてソフトウェア・マスターを作成するバッチ処理(R9640B)が実行されます。[On Screen]を指定してローカルでレポートを実行します。完了するビルド・ステップによっては、このレポートで他の複数のレポートが起動されます。各レポートは、特定のビルド・ステップに対応しています。

2. ソフトウェア・マスタリング・プロセスは、手作業によるビルド・ステップが検出されると停止します。手作業によるビルド・ステップを完了するには、そのビルド・ステップを選び、[View]メニューの[Execute Step(ステップの実行)]をクリックします。そのステップの状況が 60 に進みます。[Master CD]または[Master Release]をクリックし、ソフトウェア・マスタリング・プロセスを続行します。

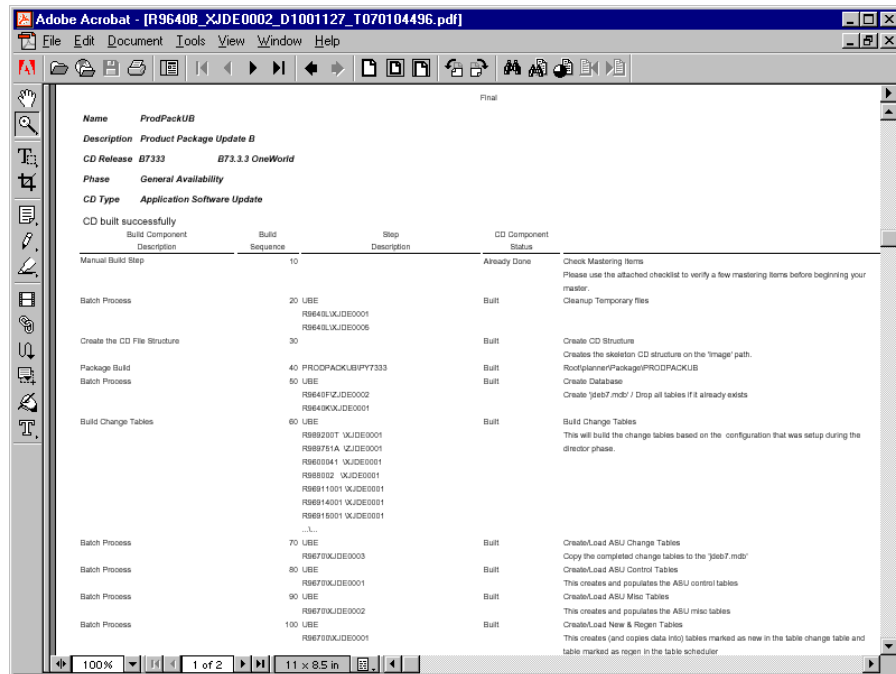


注:

ビルド・ステップについては、「ソフトウェア・マスター定義の改訂」を参照してください。



3. ビルド・プロセスは、〈CD Revisions〉画面からモニタリングできます。[View]メニューの[Refresh(リフレッシュ)]を選択します。
各ステップが処理されて完了するたびに、歯車型アイコンの色とスタイルが変わります。
4. 最後のビルド・ステップでは、ソフトウェア・マスターが自動的に検証され、最終レポート(R9840B)が生成されます。このレポートには、プロダクト・パッケージ・ビルド全体の状況が示されます。このレポートでエラーの有無を確認します。



検証レポートにエラーが表示されない場合は、ソフトウェア・マスターが正常に作成されています。このレポートでは、ソフトウェア・マスター定義と最終的なソフトウェア・マスターのディレクトリ数が一致しているかどうかを検証されます。また、ファイル数とマスターの合計 MB 数の詳細も表示されます。

この処理では、自己解凍型の実行可能ファイルと CAB ファイルが自動的に作成され、ソフトウェア・マスター名に拡張子.exe および.cab を付けたファイル名を使用して\$TEMP/final ディレクトリに格納されます。実行可能(.exe)ファイルは、アップデートに使用します。どちらのファイルにも、ソフトウェア・マスター全体とそのすべてのディレクトリが含まれています。インターネットからダウンロードする場合など、サイズ制限を伴う場合は、CAB ファイル（常に実行可能ファイルより小型）を使用することもできますが、CAB ファイルの解凍にはサードパーティ・アプリケーションを使用する必要があります。

ソフトウェア・マスターの確認

ソフトウェア・マスター・イメージの作成後に、ディレクトリ構造と JDE Masters データベースの目視チェックを行って、イメージに不備がないかどうかを確認する必要があります。

▶ ソフトウェア・マスターを確認するには

Windows Explorer で、イメージ・パス・ディレクトリを開きます。

1. パッケージ・ディレクトリに次のファイルが含まれているかどうかをチェックします。

- インストール・マネージャ・ファイル
- プランナ・ディレクトリ
- プランナ・ディレクトリ内のデータ cab
- パッケージと同じ名前のディレクトリ
- パッケージ・ディレクトリ内の cab ファイル

2. \$TEMP¥final ディレクトリに次の 2 つのファイルが格納されているかどうかを確認します。

packagename.cab

packagename.exe

3. \$TEMP¥master ディレクトリの JDEMasters データベースを開き、このデータベースにテーブルが自動入力されていることを確認します。

注:

パッケージに新規カスタム・テーブルが含まれている場合は、JDEMasters データベース内にあることと、これらのテーブルと関連インデックスの変更テーブルにレコードがあることを確認します。

CD ROM へのソフトウェア・マスターの移動

ソフトウェア・マスター・プロセスの完了および確認後に、イメージを CD に書き込むことができます。

▶ ソフトウェア・マスターを CD に移動するには

CD ライターと CD 作成ソフトウェアを使用して、packagename.cab または packagename.exe ファイルを \$TEMP/final ディレクトリから CD ROM にコピーします。

ソフトウェア・マスターを使った更新

ここでは、作成したソフトウェア・マスターを使ってソフトウェアを更新する方法について説明します。この方法でソフトウェアを更新するには、〈System Installation Tools (システム・インストール・ツール)〉メニュー (GH961) から 〈Work with Updates (更新の処理)〉アプリケーション (P96470) にアクセスします。この処理には、マージ・フラグの設定、自己解凍型の実行可能ファイル (packagename.exe) の実行、ソフトウェア更新の実行、〈Installation Workbench (インストール・ワークベンチ)〉の実行が含まれます。

▶ ソフトウェア・マスターを使ってソフトウェアを更新するには

注:

デプロイメント・サーバー上で、『EnterpriseOne 8.9 ソフトウェア・アップデート』ガイドに記載されている準備タスクを完了します。

1. CD から Product_Package.exe 実行可能ファイルを実行します。

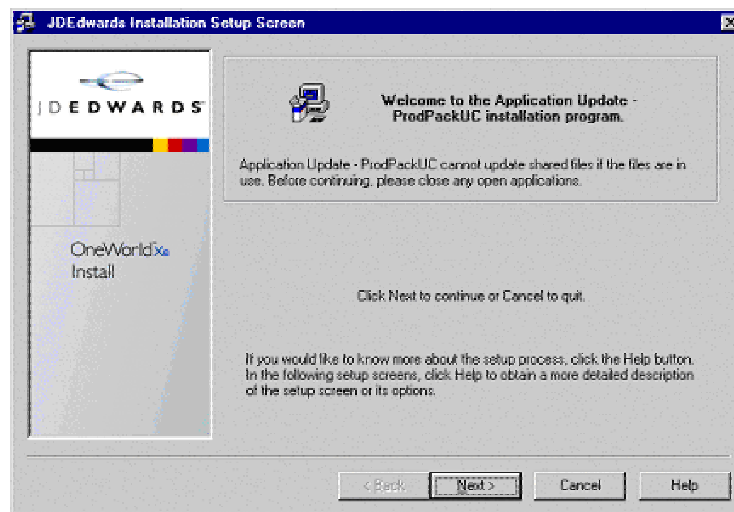
この処理によって、パッケージがデプロイメント・サーバー上の Planner¥Package ディレクトリにインストールされ、Product_Package_Name.mdf ファイルと Product_Package_Name.ldf ファイルが Planner¥Data ディレクトリに抽出されます。また、PLANNER ディレクトリにソフトウェア・マスター・イメージが作成されます。

注:

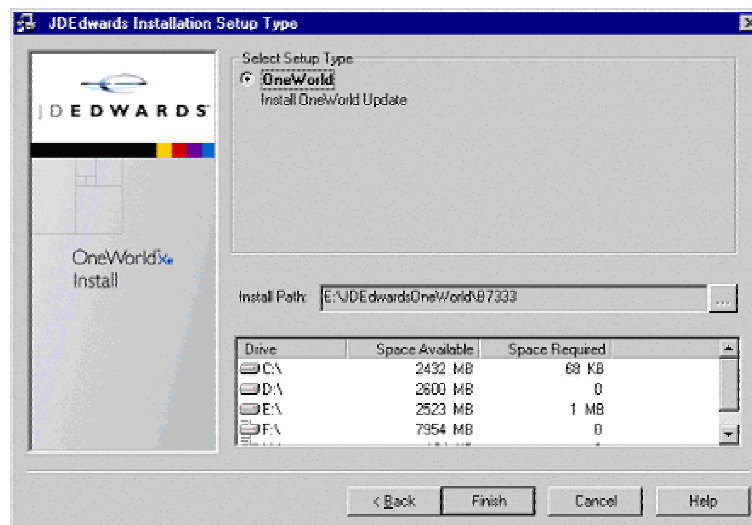
CAB ファイルを使用して、デプロイメント・サーバー上にソフトウェア・マスター・イメージを作成することもできますが、ファイルの解凍にはサードパーティ・アプリケーションを使用する必要があります。

2. CD に InstallManager.exe が存在する場合は、この実行可能ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

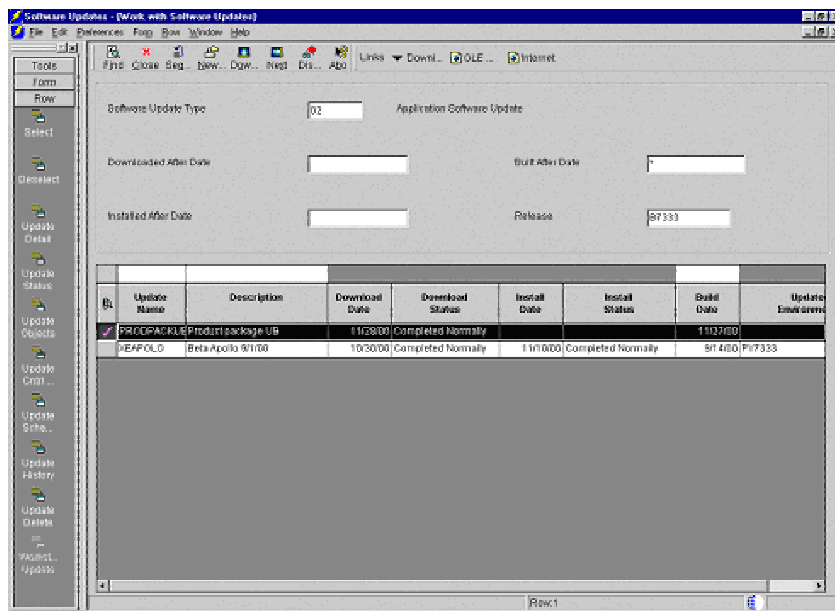
このファイルが CD に存在しない場合は、自己解凍型の PACKAGE_NAME.exe をダブルクリックして CAB ファイルを解凍します。解凍された〈Install Manager (インストール・マネージャ)〉が自動的に起動します。



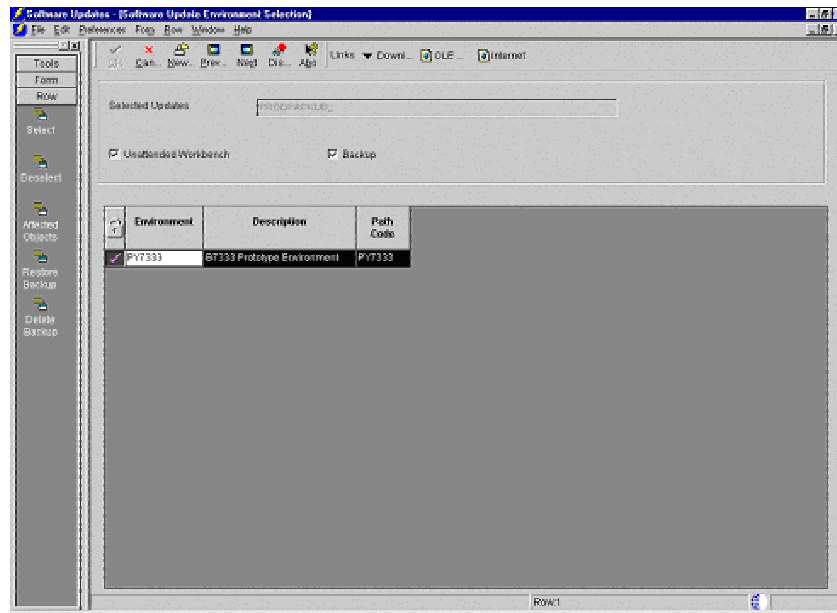
3. 〈JDEdwards Installation Setup (JDEdwards インストールのセットアップ)〉画面で [Next] をクリックします。



4. 〈JDEdwards Installation Setup Type (J.D. Edwards インストールのセットアップ・タイプ)〉で、マシンに必要なディスク領域があることと、[Install Path (インストール・パス)] が適切に設定されていることを確認して [Finish] をクリックします。
5. インストールが完了すると、〈Install Manager〉に 〈Installation Complete (インストール完了)〉 ウィンドウが表示されます。
6. [OK] をクリックします。
7. デプロイメント・サーバー上で、プランナ環境 (JDEPLAN) にログオンします。
8. [Fast Path] に "GH9612" と入力します。
9. 〈Application Software Updates (アプリケーション・ソフトウェアの更新)〉プログラム (P96470) を選択します。
10. 〈Work with Software Updates (ソフトウェア更新の処理)〉で、[Find] をクリックします。



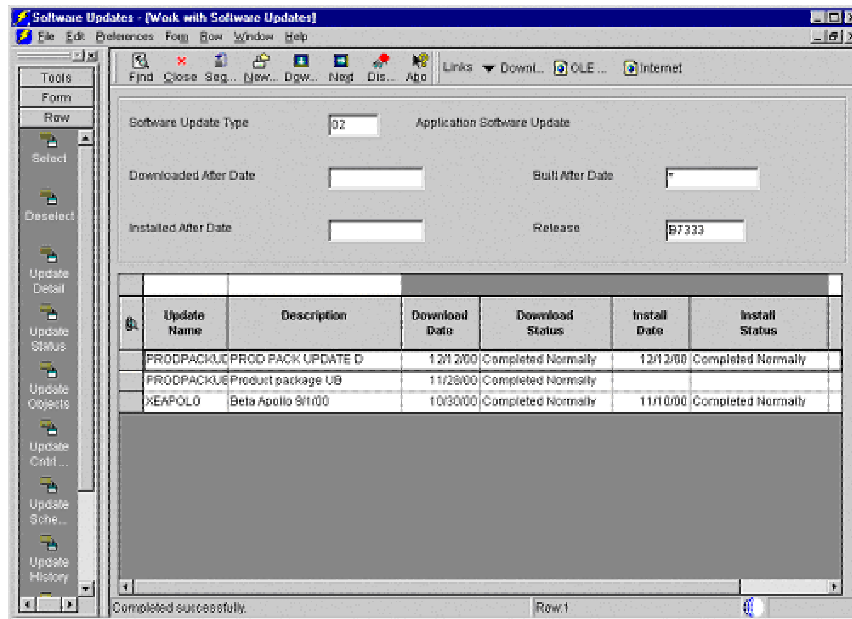
11. インストールするプロダクト・パッケージを選択し、[Next] をクリックします。



12. 〈Software Update Environment Selection(ソフトウェア更新環境の選択)〉で、パッケージをインストールするパス・コードを選んで[Next]をクリックします。

不在時モードを選ぶと、〈Installation Workbench〉によってすべてのワークベンチ・タスクが自動的に実行され、インストールが完了します。不在時モードを選ばない場合は、〈Installation Workbench〉で各手順を手動で実行する必要があります。バックアップを選ぶと、Planner¥Package¥Package_Name¥PathCode.bak¥data ディレクトリに MSDE データベース (OWBAK_package_name_pathcode)と関連ファイル OWBAK_package_name_pathcode および OWBAK_package_name_pathcode.idf が作成されます。更新の影響を受けるテーブルとオブジェクトについてのみ、バックアップがデータベース内で作成されます。〈Table Conversion Workbench(テーブル変換ワークベンチ)〉が完了すると、〈Installation Workbench〉が停止します。

13. テーブル変換によって作成された PDF とログ・ファイルを検討し、〈Installation Workbench〉を続行します。
14. 〈Installation Workbench〉が完了すると、〈Work with Software Updates〉画面に戻り、選択したソフトウェア・アップデートのインストール状況が[Completed Normally(正常終了)]になります。



15. [Close]をクリックして〈Work with Software Updates〉を終了します。
16. ソフトウェア更新処理によってデプロイメント・サーバー上で生成された PDF ファイルをすべて検討し、各レポートにエラーが含まれていないことを確認します。

レポートにエラーがあるか、実行されていないように見える場合は、jde.log ファイルを検討して問題の原因を判断します。次の表では、〈Software Update〉のレポートについて説明します。

レポート	バージョン	説明
R98405 – Application (アプリケーション)	XJDE0001	アプリケーション・テーブルのテーブル変換/ドライバのマージ: アプリケーション・テーブルの作成と再生成に使用するマスターUBE。このレポートのレコードはテーブルおよびインデックス作成テーブル(F984072)の 1 つのみです。このレコードの状況は[Completed Normally]です。
R98407	XJDE0001	テーブルおよびインデックス作成: R98405 により起動され、テーブル変換テーブルで指定されたテーブルすべてを作成または再生成します。このレポートの 1 ページ目には、ソース、ターゲット、環境情報が含まれます。2 ページ目には、テーブル作成全体の状況が緑または赤のフォントで示されます。3 ページ目以降には、作成または再生成される各テーブルおよびインデックスの状況が表示されます。
R98405 – Control (制御)	XJDE0001	コントロール・テーブルのテーブル変換/ドライバのマージ: これは、起動するコントロール・テーブル・マージ UBE を指定するマスターUBE です。UBE のうち、データ辞書 (R989200P)、ユーザー定義コード(R9600042)が表示されます。すべての UBE の状況は[Completed Normally]です。
R989200P	XJDE0001	データ辞書マージ: R98405 により起動されます。これは、データ辞書変更テーブルで指定されたすべてのデータ辞書変更を、既存のデータ辞書にマージする UBE です。このレポートの 1 ページ目には、ソース、ターゲット、環境情報が含まれます。2 ページ目以降は、各データ辞書の追加または

変更の状況を示すリストです。個々のリストの末尾に、データ辞書マージ全体の状況が緑または赤のフォントで示されます。最終ページは、詳細な要約情報です。

R9600042	XJDE0001	ユーザー定義コード・マージ: R98405 により起動されます。この UBE では、UDC 変更テーブルで指定されたすべてのユーザー定義コード変更が、既存の UDC テーブルにマージされます。このレポートの 1 ページ目には、ソース、ターゲット、環境情報が含まれます。2 ページ目以降は、各 UDC の追加または変更の状況を示すリストです。最終ページは、詳細な要約情報です。
R9690002	XJDE0001	Solution Explorer マージ: R98405 により起動されます。この UBE では、SE 変更テーブルで指定されたすべての Solution Explorer 変更が、既存の SE テーブルにマージされます。このレポートの 1 ページ目には、ソース、ターゲット、環境情報が含まれます。2 ページ目以降は、変更テーブルでの個々の追加、変更または削除のリストです。最終ページは、詳細な要約情報です。
R96911002	XJDE0001	お気に入りのマージ: R98405 により起動されます。この UBE では、お気に入り変更テーブルで指定されたすべてのお気に入り変更が、既存のお気に入りテーブルにマージされます。このレポートの 1 ページ目には、ソース、ターゲット、環境情報が含まれます。2 ページ目以降は、各お気に入りの追加または変更の状況を示すリストです。最終ページは、詳細な要約情報です。
R96914002	XJDE0001	レポート・ディレクタ・テンプレートのマージ: R98405 により起動されます。この UBE では、レポート・ディレクタ・テンプレート変更テーブルで指定されたすべてのお気に入り変更が、既存のレポート・ディレクタ・テンプレート・テーブルにマージされます。このレポートの 1 ページ目には、ソース、ターゲット、環境情報が含まれます。2 ページ目以降は、個々の追加または変更の状況を示すリストです。最終ページは、詳細な要約情報です。
R96915002	XJDE0001	ヒントのマージ: R98405 により起動されます。この UBE では、ヒント変更テーブルで指定されたすべてのヒント変更が、既存のヒント・テーブルにマージされます。このレポートの 1 ページ目には、ソース、ターゲット、環境情報が含まれます。2 ページ目以降は、個々の追加または変更の状況を示すリストです。最終ページは、詳細な要約情報です。
R98405 - Spec (スペック)	XJDE0001	スペック・テーブルのテーブル変換/ドライバ・マージ: スペック・テーブル・マージ用のマスター UBE。このレポートのレコードは、テーブル・ヘッダー・テーブル(F98710)の 1 つのみです。このレコードの状況は[Completed Normally]です。
R98700	ZJDE0002	スペック・マージ: R98405 により起動されます。この UBE では、指定したすべてのオブジェクトのスペックが、選択したセントラル・オブジェクトのパス・コードに追加、置換、またはマージされます。これは、標準スペック・マージ・レポートです。このレポートの 1 ページ目には、ソース、ターゲット、環境情報が含まれます。2 ページ目はマージ環境に関する要約情報です。3 ページ目以降は、個々のオブジェクトの処理と状況を示します。

17. デプロイメント・サーバー上で DEP9 環境にログオンします。
18. 〈Package Assembly〉プログラム(P9601)でパッケージを検索し、アップデート・パッケージをビルドして、クライアント・ワークステーションにデプロイします。
19. 〈Object Management Workbench〉(OWM)を開き、〈Product Package〉で組み込んだすべての更新済みオブジェクトを含む新規プロジェクトを表示します。

ソフトウェア・マスター

ここでは、作成したソフトウェア・マスターを削除する方法について説明します。また、作成したソフトウェア・マスター定義を改訂、コピー、テスト、検証および削除する方法についても説明します。

参照

- ソフトウェア・マスター定義を、エンタープライズ・サーバーに配布できるように最終的なソフトウェア・マスターに変換する方法については、「最終的なソフトウェア・マスターの作成」
- ソフトウェア・マスター定義の作成方法については「ソフトウェア・マスターの定義」

ソフトウェア・マスターの処理

ここでは、ソフトウェア・マスターを削除する方法について説明します。ソフトウェア・マスターには、次のオブジェクトがあります。

- ERP 9.0 オブジェクト(アプリケーションやビジネス関数など)
- コントロール・テーブルと変更テーブル(データ辞書項目やユーザー定義コードなど)
- アプリケーション・データ(住所録テーブルなど)

ソフトウェア・マスターの削除

ソフトウェア・マスターを削除するには、次の手順で操作します。

重要

ソフトウェア・マスターを削除すると、変更テーブル構成や修復ディレクトリ・レコードなど、定義関連のすべてのレコードが削除されます。

▶ ソフトウェア・マスター定義を削除するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Product Packages〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With Software Mastering〉で、[Find]をクリックします。
既存のソフトウェア・マスターが表示されます。
2. 削除するマスターを選んで[Delete]をクリックします。
メッセージ・ボックスに、ソフトウェア・マスター定義を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
3. [OK]をクリックします。

ソフトウェア・マスター定義の処理

ここでは、作成したソフトウェア・マスター定義の処理方法について説明します。ソフトウェア・マスターの定義の完了後に、ビルド・ステップやディレクトリ構造など、その一部の情報を改訂できます。また、定義情報を新規ソフトウェア・マスター定義にコピーしたり、定義を削除したり、テストして検証することもできます。

ソフトウェア・マスター定義の改訂

作成したソフトウェア・マスター定義を改訂することができます。この改訂処理では、〈CD Configuration Director〉に入力した情報だけでなく、選択したテンプレートと共に組み込まれるビルド・ステップやディレクトリ構造も修正できます。

注:

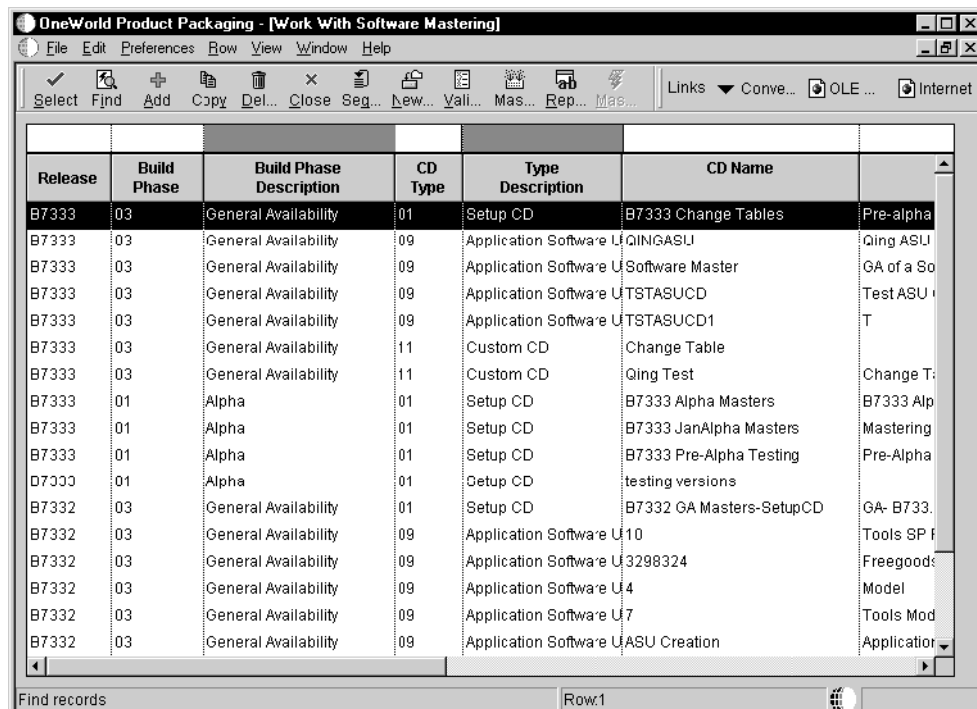
新規ソフトウェア・マスター定義の追加が必要な場合は、「ソフトウェア・マスターの定義」を参照してください。

▶ ソフトウェア・マスター定義を改訂するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Product Packages/J.D. Edwards Product Packaging〉(P9640)を選択します。

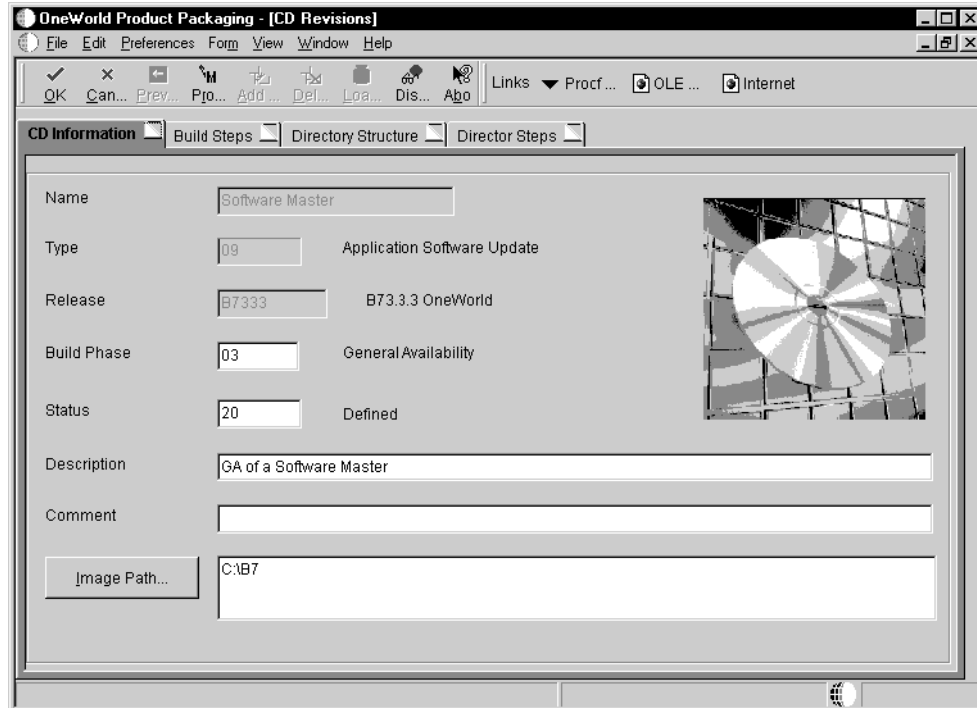
1. 〈Work With Software Mastering〉で、[Find]をクリックします。

既存のソフトウェア・マスター定義が表示されます。



Release	Build Phase	Build Phase Description	CD Type	Type Description	CD Name	
B7333	03	General Availability	01	Setup CD	B7333 Change Tables	Pre-alpha
B7333	03	General Availability	09	Application Software U	QINGASU	Qing ASU
B7333	03	General Availability	09	Application Software U	Software Master	GA of a So
B7333	03	General Availability	09	Application Software U	TSTASUCD	Test ASU i
B7333	03	General Availability	09	Application Software U	TSTASUCD1	T
B7333	03	General Availability	11	Custom CD	Change Table	Change T:
B7333	03	General Availability	11	Custom CD	Qing Test	Change T:
B7333	01	Alpha	01	Setup CD	B7333 Alpha Masters	B7333 Alp
B7333	01	Alpha	01	Setup CD	B7333 JanAlpha Masters	Mastering
B7333	01	Alpha	01	Setup CD	B7333 Pre-Alpha Testing	Pre-Alpha
B7333	01	Alpha	01	Setup CD	testing versions	
B7332	03	General Availability	01	Setup CD	B7332 GA Masters-SetupCD	GA- B733.
B7332	03	General Availability	09	Application Software U	10	Tools SP f
B7332	03	General Availability	09	Application Software U	3298324	Freegoode
B7332	03	General Availability	09	Application Software U	4	Model
B7332	03	General Availability	09	Application Software U	7	Tools Mod
B7332	03	General Availability	09	Application Software U	ASU Creation	Application

2. 改訂するマスターを選択して[Select]をクリックします。
〈CD Revisions〉フォームが表示されます。



3. 〈CD Revisions〉フォームのいずれかのタブに表示される情報をリフレッシュするには、[View(表示)]メニューから[Refresh(リフレッシュ)]を選択します。
4. いずれかのタブに表示される情報を検証するには、[Validate(検証)]をクリックします。レポートがテスト・モードで実行され、定義が検証されます。

注:

このレポートを最終モードで実行するには、「ソフトウェア・マスター定義の検証」を参照してください。

5. [CD Information]タブをクリックし、次のフィールドを改訂します。
 - 状況
ソフトウェア・マスター定義の状況を検証します。
 - 記述
必要に応じて、ソフトウェア・マスター定義の記述を入力します。
 - コメント
必要に応じて入力します。このフィールドには、マスタリング・プロセスに関する状況情報が自動入力されます。ソフトウェア・マスター定義に関する追加情報を入力することもできますが、その情報は後続のプロセスの完了時に上書きされます。

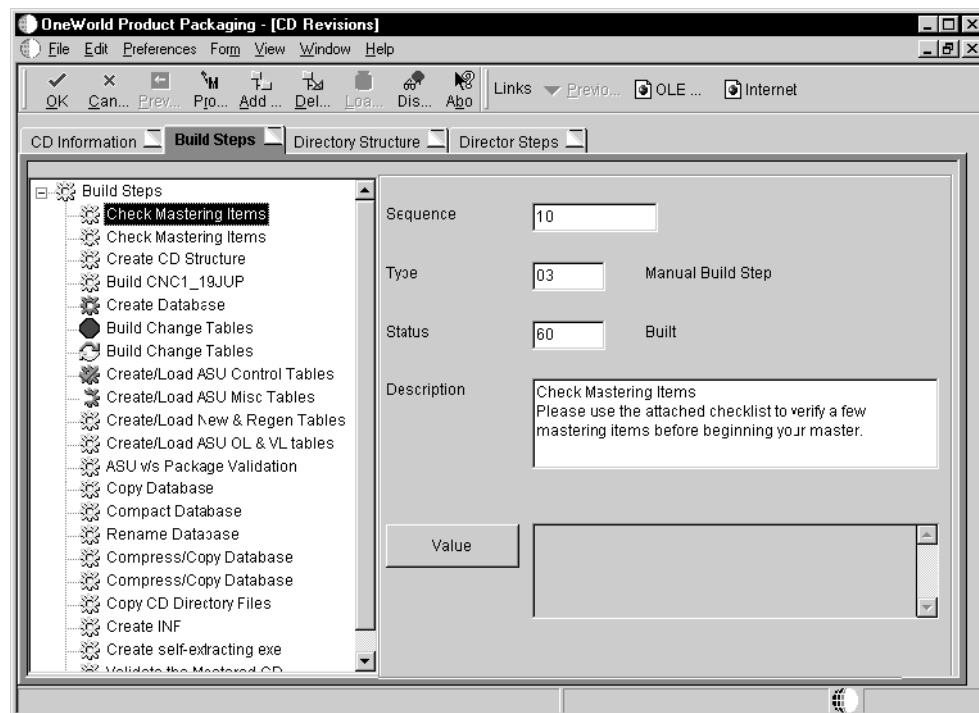
- Image Path

ソフトウェア・マスターを格納する社内データベースへのディレクトリ・パスを検証します。このディレクトリが存在しなければ、ソフトウェア・マスタリング・プロセスの実行時に作成されます。指定したディレクトリは、最終的なソフトウェア・マスターを作成する時のルート・ディレクトリとなります。

注:

ソフトウェア・マスタリング・プロセスの詳細については、「ソフトウェア・マスターの作成」を参照してください。

6. [Build Steps(ビルド・ステップ)]タブをクリックします。



7. ビルド・ステップを改訂するには、そのステップを選択して次のフィールドに情報を入力します。

- 順序

ソフトウェア・マスター定義の作成中に実行されるステップの順序を確認します。複数のビルド・ステップに対して同じ順序番号を使用できます。

- タイプ

ビルド・ステップを実行するコンポーネントのタイプを確認します。たとえば、ファイル構造の作成ステップ、パッケージのビルド・ステップ、または INF ファイルの作成ステップを定義できます。

- 状況

ビルド・ステップの現在の状況を確認します。マスタリング・プロセス中に特定のステップを実行するかどうかを指定できます。たとえば、マスタリング・プロセス中に手動ステップを実行する必要がある場合は、そのステップを手作業で完了し、そのステップを選択して[View]メニューから[Execute Step(ステップの実行)]を選択して状況を 60(ビルド済み)に変更できます。

各ビルド・ステップの左側にあるアイコンは、次のようにそのステップの状況を示します。



状況コードは 10、「In Definition(定義中)」です。



グレイの歯車型アイコン。状況コードは 20、「Defined(定義済み)」です。



状況コードは 30、「Validated」です。



状況コードは 40、「Processing(処理中)」です。



状況コードは 50、「Failed(異常終了)」です。



ゴールドの歯車型アイコン。状況コードは 60、「Built(ビルド済み)」です。

次の各フィールドは動的であり、選択したビルド・ステップに応じて表示されます。

- 記述

ビルド・ステップの記述を入力します。記述の 1 行目が、ビルド・ステップを表すテキストとして表示されます。このテキスト行は、フォーム左側のツリー・ビューに表示されます。[Description]フィールドの 1 行目に“Check Mastering Items(マスタリング項目のチェック)”のように簡潔で説明的な表す名称を入力して、より詳細な記述を入力する前に[Enter]キーを押す必要があります。

- ターゲット・フォルダ

このフィールドには、ソフトウェア・マスター・テンプレートに含まれるビルド・ステップの定義に基づいて情報が自動入力されます。このフィールドを変更するには、[Target Folder]をクリックし、〈Select CD Directory(CD ディレクトリの選択)〉フォームで、このビルド・ステップのターゲット・フォルダを選択します。

- Executable(実行可能ファイル)

このフィールドには、ソフトウェア・マスター・テンプレートに含まれるビルド・ステップの定義に基づいて情報が自動入力されます。このフィールドを変更するには、[Executable]をクリックし、〈Select a Windows Executable(Windows 実行可能ファイルの選択)〉フォームで、このビルド・ステップの実行可能ファイルを選択します。

- Value/Parameter(値/パラメータ)

値またはパラメータを確認します。この情報を変更するには、[Value/Parameter]をクリックし、選択したステップに該当する値またはパラメータを入力します。これは動的フィ

ールドであり、ボタン名は選んだステップに基づいて[Value(値)]または[Parameter (パラメータ)]となります。ボタンをクリックした時に表示されるフォームも、選択したステップによって決まります。たとえば、[Package Build(パッケージ・ビルド)]ステップを選択した場合は<Select Package Build(パッケージ・ビルドの選択)>フォームがコールされ、パッケージを選択できます。[Build Change Tables(変更テーブルのビルド)]ステップを選択した場合は<Work With Change Table Definitions(変更テーブル定義の処理)>フォームがコールされ、変更テーブルの構成を修正できます。

8. ステップを追加するには[Add]をクリックします。

[Undefined(未定義)]というラベルが付いた新規ステップが作成され、ステップの最後に配置されます。

9. [Undefined]ステップを選択し、次のフィールドに情報を入力します。

- 順序
- タイプ
- 状況
- 記述
- 値

10. 1 つまたは複数のステップを実行するには、実行するビルド・ステップを選び、[View]メニューから[Execute Step]を選択してそのステップのみを実行するか、[Run From Step(実行開始ステップ)]を選択してそれ以降のすべてのステップを実行します。

これにより、そのステップが実行され、状況が 60(ビルド済み)に更新されます。このオプションは、手作業のビルド・ステップに使用できます。手作業のステップとは、プロダクト・パッケージング・ツールに含まれていない追加のマスタリング・ステップなど、自動的に実行されないステップです。手作業によるステップの完了後は、プロセスの次のステップに進めるように、[Execute Step]オプションを使用してステップの状況を 60 に更新してください。

11. ビルド・ステップに添付物を追加するには、ステップを選んで[View]メニューから[Attachments(添付)]をクリックします。

<Media Objects(メディア・オブジェクト)>フォームが表示されます。

注:

メディア・オブジェクトを添付する方法については、『System Administration(システム・アドミニストレーション)』ガイドの「Media Objects and Imaging(メディア・オブジェクトとイメージング)」を参照してください。

メディア・オブジェクトを添付すると、そのビルド・ステップの[Build Step]タブの右上隅にペーパー・クリップが表示されます。

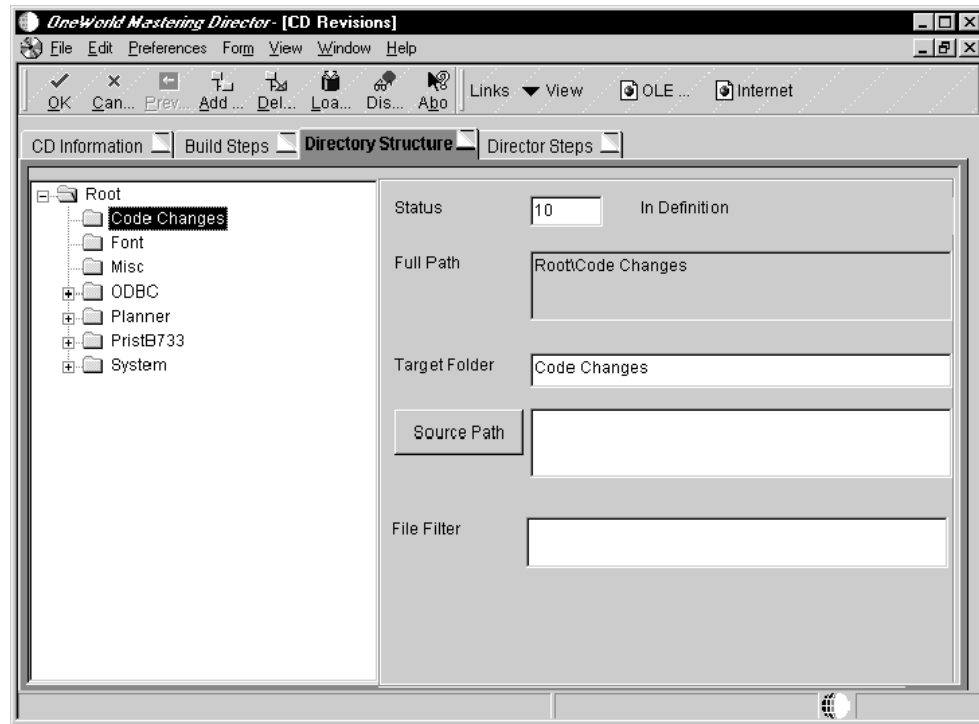
12. ビルド・ステップ番号を変更するには、[Form]メニューの[Renum(再採番)]をクリックします。

ビルド・ステップが再採番され、[Sequence]フィールドが更新されます。再採番は 10 から始まり、各ステップの番号が 10 ずつ(10、20、30 など)大きくなります。ビルド・ステップの順序

は、ユーザーまたはソフトウェア・マスター・テンプレートによって設定された通り維持されます。

13. ステップを削除するには、そのステップを選択して[Delete]をクリックします。

14. [Directory Structure(ディレクトリ構造)]タブをクリックします。



15. ディレクトリを改訂するには、そのディレクトリを選択して次のフィールドに情報を入力します。

- 状況
ディレクトリの状況を確認します。
- ターゲット・フォルダ
このフィールドには、ソフトウェア・マスター・テンプレートに含まれるディレクトリの定義に基づいて情報が自動入力されます。テンプレートに定義されているディレクトリ名は変更しないでください。
- ソース・パス
コンポーネントが自動入力されるソースのディレクトリ・パスを確認します。これは、マスター用に取り込んでターゲット・フォルダに格納するデータのソース・パス名です。このパスは、相対パスまたは絶対パスとして指定できます。相対パスと絶対パスについては、「付録 A」を参照してください。
- ファイル・フィルタ

ファイル・フィルタを確認します(デフォルトは*.*)です。ファイル・フィルタを指定すると、ソース・ディレクトリから取り込むデータ・ファイルを限定できます。たとえば、*.*)を使用すると、ソース・ディレクトリにあるすべてのファイルを取り込むことができます。

16. サブディレクトリを追加するには、追加先のディレクトリをクリックし、[Add]をクリックします。ルートを含め、任意のディレクトリを選ぶことができます。

[Undefined]というラベルが付いた新規ディレクトリが作成され、構造の最下部に配置されます。

17. [Undefined]ディレクトリを選択し、次のフィールドに情報を入力します。

- 状況
- ターゲット・フォルダ

新規ディレクトリの場合、このフィールドには“Undefined”が自動入力されます。新規ディレクトリの名称を表すように変更してください。

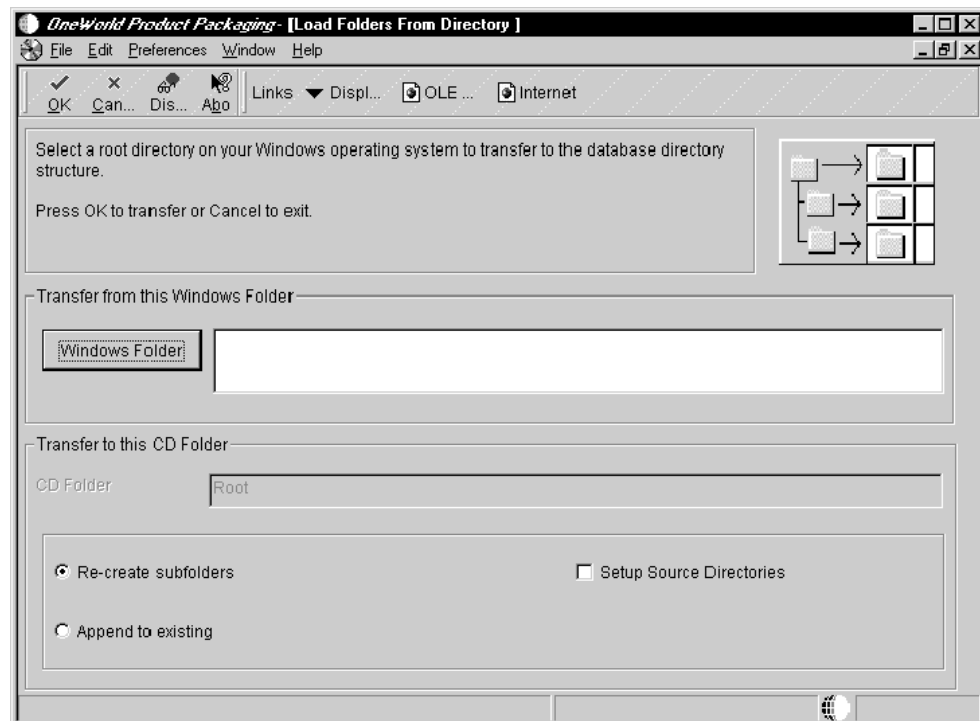
- ソース・パス

18. 社内のネットワーク・ディレクトリからサブディレクトリをロードするには、ロードするサブディレクトリのルートとなる既存のディレクトリをクリックします。

この機能により、エンタープライズ・サーバー上のディレクトリ構造がソフトウェア・マスター定義にコピーされます。次のタスクを完了します。

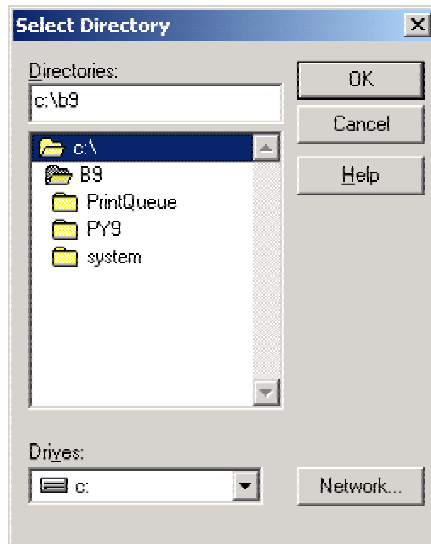
19. [Load(ロード)]をクリックします。

〈Load Folders From Directory(ディレクトリからフォルダをロード)〉フォームが表示されます。



20. [Windows Folder(Windows フォルダ)]をクリックします。

〈Select Directory(ディレクトリの選択)〉フォームが表示されます。



21. ソフトウェア・マスターにロードするディレクトリを検索して選択し、[OK]をクリックします。

22. 〈Load Folders From Directory〉フォームで、次のどちらかを選択します。

- サブフォルダの再作成

このオプションを選択すると、既存のサブディレクトリが置換(削除)され、ソフトウェア・マスターにロードするサブディレクトリで置換されます。

- 既存に追加

このオプションを選択すると、ソフトウェア・マスターにロードするサブディレクトリが既存のサブディレクトリに追加されます。

23. 必要に応じて[Setup Source Directories(ソース・ディレクトリの設定)]チェックボックスをオンにします。ソフトウェア・マスターの作成時に、このチェックボックスがオンになっていると、ソース・ディレクトリが自動的に作成され、ソース・ディレクトリ内のすべてのファイルもソフトウェア・マスターにコピーされます。

[Setup Source Directories]をオンにしない場合は、ソフトウェア・マスター内に空のソース・ディレクトリが作成されます。

24. [OK]をクリックします。

25. あるディレクトリとサブディレクトリをすべて削除するには、そのディレクトリを選んで[Delete]をクリックします。

26. ソフトウェア・マスター定義の改訂を完了後に[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
状況	マスタリングプロセス内のビルドステップまたはディレクトリ構造の状況。 状況コードには、定義済み、確認済み、作成済みなどがあります。 ビジュアルアシストボタンフィールドを使うと、フィールドに有効な値のリストを表示できます。
コメント	マスター・プロセスの各ステップについて提供される短い情報。フィールドにはコメントを入力できますが、次のマスター・プロセス中に現在フィールドにあるテキストが上書きされます。
順序	システムがビルド・ステップで処理する順序。通常、10 ずつ増分します。たとえば、10、20、30 などです。
タイプ	マスタリングする CD
フル・パス	動的なフィールドで、名前や機能はハイライトされたビルドステップによって異なります。使用可能な名前や機能は次のとおりです。 値 - ハイライトされたビルドステップを完了するのに必要です。 たとえば、ビルドステップがバッチプロセスの場合、値フィールドにはバッチプロセスとそのバージョンが含まれます。(例: R95012\$XJDE0001) パラメータ - ハイライトされたビルドステップに必要なパラメータ。 ビルドステップでは実行可能プログラムを処理します。 --- フォーム固有 --- ハイライトされたディレクトリのフル(絶対)ターゲットパス名。 たとえば、ROOT/PLANNER/UPDATEPKG と入力します。
ターゲット・フォルダ	ターゲット・フォルダの名前。これらのフィールドにはソフトウェア・マスターの定義に使用するテンプレートに基づいて自動入力されます。ターゲット・フォルダ名は、フォルダを自分で追加する場合にのみ変更してください。
ソース・パス	ハイライトされたターゲット・フォルダを自動入力するのに使うエンタープライズ・サーバー上のディレクトリ。絶対(フル)パス名を使うか、またはトークン付きの相対パス名が使用できます。OneWorld は、これらのファイルのフィルタ方法(この情報のファイル・フィルタ・フィールド記述を参照)に応じて、ソース・パスに含まれるデータをソフトウェア・マスターで選択したターゲット・フォルダにコピーします。
ファイル・フィルタ	ソースパスに含まれるファイルのフィルタ。フィルタは指定できます。 たとえば、"*.*"を使用すると、ソースパスのすべてのファイルが取り込まれます。 ".*EXE"を使用すると、実行可能プログラムに取り込まれます。

ソフトウェア・マスター定義のコピー

作成したソフトウェア・マスター定義をコピーすることができます。これにより、〈CD Configuration Director〉に入力した情報、ビルド・ステップ、およびディレクトリ構造をコピーできます。

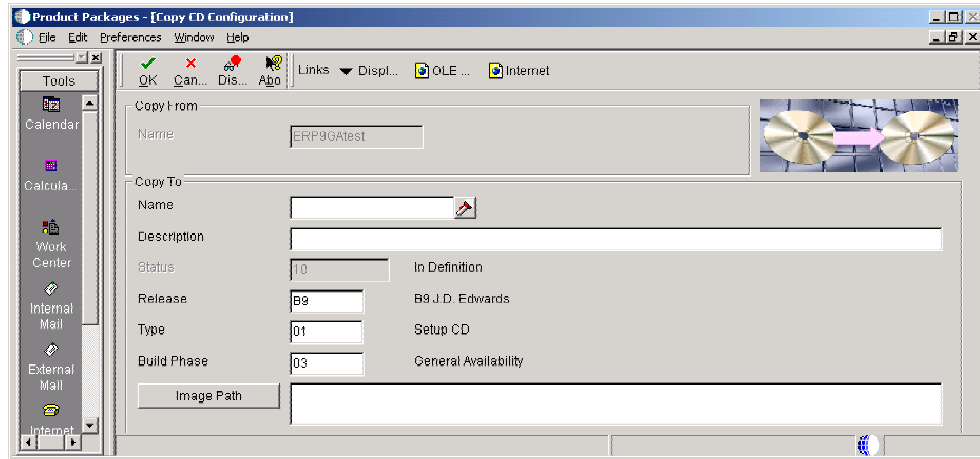
▶ ソフトウェア・マスター定義をコピーするには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Product Packages〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With Software Mastering〉で、[Find]をクリックします。

既存のソフトウェア・マスター定義が表示されます。

2. コピーするマスターを選んで[Copy]をクリックします。



3. 〈Copy CD Configuration (CD 構成のコピー)〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 名称

コピーするソフトウェア・マスター定義の固有名 (B9 Update など) を入力します。

- 記述

必要に応じて、ソフトウェア・マスター定義の記述を入力します。

- リリース

ソフトウェア・マスター定義のコピーのリリース (B9 など) を入力します。

- タイプ

ほとんどの場合、デフォルト値を変更する必要はありません。ただし、必要な場合は、コピーする時にソフトウェア・マスターのタイプを変更できます。たとえば、タイプを Setup CD から ASU CD に変更できます。タイプを変更しても、ビルド・ステップやディレクトリ構造は変更されません。マスターは実際には Setup CD テンプレートに基づいているため、ソフトウェア・マスターの検証時には、マスターがデフォルト設定である ASU CD テンプレートと一致しないことを示す警告メッセージが表示されます。このメッセージが表示されても、ソフトウェア・マスターは作成できます。

- ビルド・フェーズ

アルファ、ベータ、または一般的に使用可能なフェーズなど、ソフトウェア・マスター定義が表す開発フェーズを入力します。

- Image Path

ソフトウェア・マスターを格納する社内データベースへのディレクトリ・パスを入力します。このディレクトリが存在しなければ、ソフトウェア・マスタリング・プロセスの実行時に作成されます。指定したディレクトリは、作成するソフトウェア・マスターのルート・ディレクトリとなります。

注:

ソフトウェア・マスタリング・プロセスの詳細については「ソフトウェア・マスターの作成」を参照してください。

ソフトウェア・マスター定義のテスト

ソフトウェア・マスター定義をテストすることができます。これにより、定義に含まれるビルド・ステップごとに、ステップの順序、および、存在する場合は実際のマスター作成時に実行される各ステップの内容の詳細を示すレポートが作成されます。

ソフトウェア・マスター定義をテストしても、ソフトウェア・マスターの各部の状況は変更されません。

▶ ソフトウェア・マスター定義をテストするには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Product Packages/J.D. Edwards Product Packaging〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With Software Mastering〉で、[Find]をクリックします。

既存のソフトウェア・マスター定義が表示されます。

2. 次のいずれかを実行します。

- ある特定のソフトウェア・マスター定義をテストするには、作成する定義を選び、[View]メニューから[Proof CD(CD のテスト)]を選択します。
- 特定リリースのソフトウェア・マスター定義をすべてテストするには、[View]メニューから[Proof Release(リリースのテスト)]を選択します。表示されるフォームに、テストする定義のリリース番号を入力します。

どちらのテスト方法を選んだ場合も、〈Report Output Destination〉フォームが表示されます。

3. レポートをプリンタに送るか、Acrobat Reader を使用してオンライン・バージョンを表示するかを指定して、[OK]をクリックします。

バッチ処理により、各ビルド・ステップの順序と、存在する場合は実際のマスター作成時に各ステップで実行される処理の内容を示すレポートが実行されます。

ソフトウェア・マスター定義の検証

作成したソフトウェア・マスター定義を検証するために、レポートを実行します。レポートを最終モードで実行し、エラーのないビルド・ステップの状況が変更されます。

▶ ソフトウェア・マスター定義を検証するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Product Packages〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With Software Mastering〉で、[Find]をクリックします。

既存のソフトウェア・マスター定義が表示されます。

2. 検証するマスターを選んで[Validate]をクリックします。

〈Report Output Destination〉フォームが表示されます。

3. 〈Report Output Destination〉で、レポートをプリンタに送るか、Acrobat Reader を使用してオンライン・バージョンを表示するかを指定して、[OK]をクリックします。

レポートが実行されます。エラーがなく[In Definition]または[Defined]状況だったステップすべてが[Validated]状況に進みます。レポートには、マスターの作成時に実行される各ビルド・ステップが表示されます。このレポートには、ビルド・ステップが検証済みかどうかが表示され、検証済みのビルド・ステップは、ソフトウェア・マスターの作成時に正常に動作します。それ以外の場合は、ビルド・ステップで次のように警告またはエラー・メッセージが表示されます。

- 警告メッセージが表示されても、ソフトウェア・マスターの作成処理は停止しません。警告の内容はメッセージに表示されます。ビルド・ステップに警告メッセージが表示される場合は、処理を進める前にビルド・ステップの内容が正しいかどうかを確認する必要があります。
- エラー・メッセージが表示されると、ソフトウェア・マスターの作成処理が停止します。エラー・メッセージを含むビルド・ステップを修正する必要があります。エラーの内容はメッセージに表示されます。

ソフトウェア・マスター定義の削除

ソフトウェア・マスター定義を削除することができます。変更テーブルの構成など、定義に関連したレコードもすべて削除されます。

▶ ソフトウェア・マスター定義を削除するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Product Packages/J.D. Edwards Product Packaging〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With Software Mastering〉で、[Find]をクリックします。

既存のソフトウェア・マスター定義が表示されます。

2. 削除するマスターを選んで[Delete]をクリックします。

メッセージ・ボックスに、ソフトウェア・マスター定義を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3. [OK]をクリックします。

ソフトウェア・マスター・テンプレート

ここでは、プロダクト・パッケージング・ツールで使用するソフトウェア・マスター・テンプレートのコンポーネントについて説明します。テンプレートにより、新規ソフトウェア・マスターの作成時にデフォルト情報が提供されます。たとえば、接続されていないエンタープライズ・サーバーにオブジェクトを配布するには、ASU(アプリケーション・ソフトウェア更新)CD テンプレートに基づいてマスターをビルドするように選択します。〈ERP 9.0 Mastering Director〉では、ASU CD テンプレートを使用して、ソフトウェア・マスターの作成時に使用するディレクトリ・ステップ、ビルド・ステップ、およびディレクトリ構造が確定されます。テンプレートに用意されているデフォルト情報は、カスタマイズすることができます。

テンプレートのビルドにはビルド・ステップを使用します。ビルド・ステップは、ソフトウェア・マスターの作成に使用されるプロセスです。ソフトウェア・マスター・テンプレートを追加、改訂、コピー、削除することもできます。

参照

- 〈ERP 9.0 Mastering Director〉の詳細と、ソフトウェア・マスターの作成時に使用するテンプレートを指定する方法については、「ソフトウェア・マスターの定義」

すべてのビルド・ステップ・プロセスの詳細

ここでは、テンプレートで提供できるすべてのソフトウェア・マスタリングのビルド・ステップ・プロセスについて説明します。すべてのプロセスが表示されないテンプレートがあります。

未定義

タイプ = 00

自動実行 = 該当なし

このビルド・ステップは、ソフトウェア・マスターまたはテンプレートに新規ビルド・ステップを追加する時のデフォルト・プロセスです。このビルド・ステップを追加した後に、マスターまたはテンプレートに対して定義する必要があります。

CD ファイル構造の作成

タイプ = 01

自動実行 = Yes

このビルド・ステップでは、ソフトウェア・マスター定義の作成時に指定したイメージ・パス・ロケーションに、物理ディレクトリ構造が作成されます。

パッケージのビルド

タイプ = 02

自動実行 = Yes

このビルド・ステップでは、パッケージ・アセンブリ定義およびパッケージ・ビルド定義に基づいて、割り当てたパッケージがビルドされます。

手作業によるビルド・ステップ

タイプ = 03

自動実行 = No。このビルド・ステップのパフォーマンスの詳細については、特定のテンプレート定義を参照してください。

このビルド・ステップでは、管理者はユーザーに対して、まだ自動化されていないプロセスの実行方法を指示できます。マスターを開始する前に、このステップのマスタリング・ステップとオプションを検証する必要があります。

ビルド前のパッケージ

タイプ = 04

自動実行 = Yes

J.D. Edwards 専用

ビルド前のプリステイン(JDE オリジナル)

タイプ = 05

自動実行 = Yes

J.D. Edwards 専用

相互参照のビルド

タイプ = 06

自動実行 = Yes

J.D. Edwards 専用

データ辞書のビルド

タイプ = 07

自動実行 = Yes

J.D. Edwards 専用

社内パッケージ・データベースのビルド

タイプ = 08

自動実行 = Yes

J.D. Edwards 専用

プランナ・データベースのビルド

タイプ = 09

自動実行 = Yes

J.D. Edwards 専用

プリスティン・データベースのビルド

タイプ = 10

自動実行 = Partial。このビルド・ステップのパフォーマンスの詳細については、特定のテンプレート定義を参照してください。

このビルド・ステップでは、特定のモジュール・セットに対応する最終的なプリスティン・データベース内で、プリスティン・データ・テーブルが作成されます。

オフライン・データベースのビルド

タイプ = 11

自動実行 = Yes

J.D. Edwards 専用

スタンドアロン・データベースのビルド

タイプ = 12

自動実行 = Yes

J.D. Edwards 専用

変更テーブルのビルド

タイプ = 13

自動実行 = Yes

このビルド・ステップでは、ソフトウェア・マスター定義の一部として設定した変更テーブルの構成に基づいて、変更テーブルがビルドされます。

マスター・セントラル・オブジェクト

タイプ = 14

自動実行 = No

J.D. Edwards 専用

圧縮

タイプ = 15

自動実行 = Partial。このビルド・ステップのパフォーマンスの詳細については、特定のテンプレート定義を参照してください。

このビルド・ステップでは、最終的なプリスティン JDE Masters データベースが圧縮されて data.cab ファイルが作成され、最終的なイメージ・パスに格納されます。

INF の作成

タイプ = 16

自動実行 = Yes

このファイルは手作業で修正しないでください。このビルド・ステップでは、更新内容のインストール中にインストール・アプリケーションで使用する deployment.inf ファイルが更新されます。

CD ディレクトリのファイルのコピー

タイプ = 17

自動実行 = Yes

このビルド・ステップでは、ビルドされたパッケージがターゲット・イメージ・パスにコピーされます。また、ソフトウェア・マスターのディレクトリ構造に定義された追加ファイルがあれば、それもターゲット・イメージ・パスにコピーされます。

すでにパッケージをビルド済みで、マスタリング・プロセスではパッケージを再ビルドしない場合は、パッケージ・ビルド・ステップの状況を 60 に設定してください。ソフトウェア・マスターの作成時には、「パッケージのビルド」ステップがスキップされ、この「CD ディレクトリのファイルのコピー」ステップの実行時にパッケージがコピーされます。

ウィルス・チェック

タイプ = 18

自動実行 = Partial

J.D. Edwards 専用

Windows 実行可能ファイル

タイプ = 19

自動実行 = Partial。このビルド・ステップのパフォーマンスの詳細については、特定のテンプレート定義を参照してください。

このビルド・ステップでは、マスタリング・プロセスの一部として Microsoft Windows の実行可能ファイルまたはバッチ・ファイルを指定できます。

データのクリーンアップ

タイプ = 20

自動実行 = No

J.D. Edwards 専用

パッケージ・データベースのビルド

タイプ = 21

自動実行 = Yes

J.D. Edwards 専用

バッチ処理

タイプ = 22

自動実行 = Yes

このビルド・ステップでは、ソフトウェア・マスター定義の一部として実行するバッチ処理を定義できます。

ASU CD テンプレート

ASU CD は、プロダクト・パッケージング・ツールで使用するメイン・テンプレートです。このテンプレートは、ERP 9.0 オブジェクトを分散エンタープライズ・サーバーに配布する基礎となります。次の表は、ASU CD 用のビルド・ステップとその順序を示しています。

順序番号	ビルド・ステップ(タイプ)
10	マスタリング項目のチェック(03 - 手作業によるビルド・ステップ)
20	一時ファイルのクリーンアップ(22 - バッチ処理)
30	一時マスターのクリーンアップ(22 - バッチ処理)
40	CD ファイル構造の作成(01 - CD ファイル構造の作成)
50	ビルド(02 - パッケージのビルド)
60	データベースの作成(22 - バッチ処理)
70	変更テーブルのビルド(13 - 変更テーブルのビルド)
80	ASU 変更テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)
90	ASU コントロール・テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)
100	ASU その他テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)
110	新規および再生成テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)
120	ASU OL および VL テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)
130	ASU とパッケージの検証(22 - バッチ処理)
140	データベースの圧縮(22 - バッチ処理)
150	データベースの分離(22 - バッチ処理)
160	データベースのコピー(22 - バッチ処理)
170	MSDE データベースの名称変更(22 - バッチ処理)
180	データベースの圧縮/コピー(15 - 圧縮)
190	パッケージと機能の INF のコピー(22 - バッチ処理)
200	CD ディレクトリのファイルのコピー
210	INF の作成
220	自己解凍ファイルの作成

ASU CD テンプレートに関するその他のビルド・ステップ情報

次の表は、ASU CD テンプレート内の特定のビルド・ステップの詳細を示しています。

順序番号	ビルド・ステップ(タイプ)と追加情報
10	<p>マスタリング項目のチェック(03 - 手作業によるビルド・ステップ)</p> <p>マスターを開始する前に、このステップのマスタリング・ステップとオプションを検証します。マスターCD の前に手作業で実行してください。</p>
20	<p>一時ファイルのクリーンアップ(22 - バッチ処理)</p> <p>バージョン XJDE0001～XJDE0005 を使用してバッチ処理(R9640L)を起動します。この処理では、ビルド・マシンから旧ソフトウェア・マスターが削除されます。このステップでは、\$TEMP\data ディレクトリの内容が削除されます。また、UBE R9640MK が起動され、存在する場合は、JDE Masters データベースが削除されます。</p>
30	<p>一時マスターのクリーンアップ(22 - バッチ処理)</p> <p>バッチ処理(R9640L)のバージョン XJDE0001 が起動され、\$TEMP\Master フォルダの内容が削除されます。</p>
40	<p>CD ファイル構造の作成(01 - CD 構造の作成)</p> <p>イメージ・パス上に CD ファイル構造が作成されます。</p>
50	<p>ビルド(02 - パッケージのビルド)</p> <p>定義済みのアップデート・パッケージがビルドされます。パッケージを〈Package Build(パッケージのビルド)〉アプリケーションで実行した場合は、[Built] 状況に設定できます。</p>
60	<p>データベースの作成(22 - バッチ処理)</p> <p>バージョン XJDE0001 を使用してバッチ処理(R9640MF)が起動されます。この処理では、ディレクトリ\$TEMP/master に JDE Masters という空の MSDE データベースが作成されます。</p>
70	<p>変更テーブルのビルド(13 - 変更テーブルのビルド)</p> <p>ディレクタ・フェーズで設定した構成に基づいて、変更テーブルがビルドされます。</p>
80	<p>ASU 変更テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)</p> <p>バージョン XJDE0003 を使用してバッチ処理(R9670)が起動されます。この処理では、JDE Masters データベースに変更テーブルが作成され、変更テーブル・データ・ソースからテーブルが自動入力されます。</p>
90	<p>ASU コントロール・テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)</p> <p>バージョン XJDE0001 を使用してバッチ処理(R9670)が起動されます。この処理では、JDE Masters データベースにコントロール・テーブルが作成され、コントロー</p>

ル・テーブル・データ・ソースからテーブルが自動入力されます。

- 100 ASU その他テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)
- バージョン XJDE0002 を使用してバッチ処理(R9670)が起動されます。この処理では、JDE Masters データベースにその他のテーブルが作成され、ASU パッケージ、変更テーブル、およびソフトウェア・マスター定義内のオブジェクトの選択内容に基づいてテーブルが自動入力されます。
- 110 新規および再生成テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)
- バージョン XJDE0001 を使用してバッチ処理(R96700)が起動されます。この処理では、テーブル変更テーブルまたはテーブル変換スケジューラで新規または再生成マークが付けられたテーブルが、JDE Masters データベースに作成されます。
- 120 ASU OL および VL テーブルの作成/ロード(22 - バッチ処理)
- バージョン XJDE0001 を使用してバッチ処理(R9600400C)が起動されます。この処理では、マスターのオブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、パッケージ・アセンブリ情報が JDE Masters データベースにコピーされます。このバージョンの処理オプションで指定できるデータ・ソースが正しく設定されているかどうかを確認します。
- 130 ASU とパッケージの検証(22 - バッチ処理)
- バージョン XJDE0001 を使用してバッチ処理(R9671)が起動されます。この処理では相互検証が実行され、ASU パッケージ定義内のオブジェクト、テーブル、およびスペックが、ソフトウェア・マスター内のオブジェクト変更テーブル、テーブル変更テーブル、インデックス変更テーブル、およびテーブル変換スケジューラと一致しているかどうかを確認されます。
- 140 データベースの圧縮(22 - バッチ処理)
- バージョン XJDE0001 を使用してバッチ処理(R9640MG)が起動されます。この処理では、MSDE 圧縮ツールが実行され、JDE Masters MSDE データベースが圧縮されます。
- 150 データベースの分離(22 - バッチ処理) - このビルド・ステップでは、バージョン XJDE0001 を使用してバッチ処理(R9640ML)が起動され、JDE Masters MSDE データベースが分離されます。
- 160 データベースのコピー(22 - バッチ処理) - このビルド・ステップでは、バージョン XJDE0002 を使用してバッチ処理 R9640E が起動されます。この処理では、\$TEMP¥master¥JDE Masters.*df から\$TEMP¥data¥JDE Masters.*df に ASU データベースがコピーされます。
- 170 MSDE データベースの名称変更(22 - バッチ処理)
- バージョン XJDE0006~XJDE007 を使用してバッチ処理(R9640H)が起動されます。この処理では、JDE Masters.*df ファイルが packagename.*df に名称変更されます。この場合、packagename はデータベースに関連付けられたパッケージの名称です。
- 180 データベースの圧縮/コピー(22 - バッチ処理)
- XJDE0003 を使用して R9640E が起動されます。この処理では、ASU データベ-

ス(packagename.*df)が圧縮され、\$TEMP/data ディレクトリから最終的なソフトウェア・マスターのイメージ・パスに Data.cab としてコピーされます。

- 190 パッケージと機能の INF のコピー (22 - バッチ処理)
- バージョン XJDE0001 を使用してバッチ処理(R9600400E)が起動されます。この処理では、デプロイメント機能の INF、パッケージの INF、および機能の INF がデプロイメント・サーバーから\$TEMP ディレクトリにコピーされます。
- 200 CD ディレクトリのファイルのコピー (17 - CD ディレクトリのファイルのコピー)
- 追加指定した項目がイメージ・パスにコピーされます。たとえば、すべてのインストール・プログラムがイメージ・パスのルートにコピーされます。
- 210 INF の作成 (16 - INF の作成)
- デプロイメント用 INF ファイルがイメージ・パスのディレクトリにコピーされます。
- 220 自己解凍型の exe の作成 (22 - バッチ処理)
- バージョン XJDE0001 を使用してバッチ処理(R9640J)が起動されます。この処理では、ソフトウェア・マスター・イメージ全体を使用して、\$TEMP/final ディレクトリに CAB ファイルと自己解凍型の実行可能ファイルが作成されます。ソフトウェア・マスターの配布には、どちらのファイルを使用してもかまいません。デプロイメント・サーバー上で CAB ファイルを解凍するか、実行可能ファイルを実行し、『Application Software Update』ガイドの説明に従って ERP 9.0 をソフトウェア・マスターで更新します。
- 230 マスターCD の検証 (22 - バッチ処理)
- R9640D のバージョン XJDE0001 が起動されます。これにより、作成されたマスターに対してマスタリング後の検証が実行されます。詳しくは、レポート出力を参照してください。

カスタム CD

カスタム CD は汎用であり、この CD タイプにテンプレートはありません。システム管理者は、主としてプロダクト・パッケージング・ツールの使用中にソース・コードやドキュメントなどのバックアップを作成するために、この CD タイプを使用します。この CD タイプの場合は、カスタム CD イメージにロードするすべてのファイルを含むディレクトリ構造を入力できます。完了後に、管理者はそのイメージを CD ライターがあるマシンにコピーして CD を作成することができます。

ソフトウェア・マスター・テンプレートの処理

ここでは、ソフトウェア・マスター・テンプレートを追加、改訂、コピー、テスト、および削除する方法について説明します。テンプレートの追加後に、〈ERP 9.0 Mastering Director〉を使用して、そのテンプレートを使用するソフトウェア・マスター定義を作成できます。

注:

ソフトウェア・マスターの作成方法については「ソフトウェア・マスターの定義」を参照してください。

ソフトウェア・マスター・テンプレートの追加

ここでは、ソフトウェア・マスター・テンプレートを追加する方法について説明します。

注:

設定済みのテンプレートの変更については、「ソフトウェア・マスター・テンプレートの改訂」を参照してください。

▶ ソフトウェア・マスター・テンプレートを追加するには

〈Advanced Operations(上級操作)〉メニュー(GH9622)から〈Mastering Templates(マスタリング・テンプレート)〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With CD Templates(CD テンプレートの処理)〉で、[Add(追加)]をクリックします。
〈Template Director(テンプレート・ディレクタ)〉フォームが表示されます。
2. [Next]をクリックします。
3. 〈Template Information(テンプレート情報)〉フォームで、次のフィールドに値を入力します。

- 名前

これは読取り専用フィールドです。このフィールドには、後続のフィールドに入力する情報と共に自動入力されます。たとえば、タイプ 11 とビルド・フェーズ 02 を指定してリリース“B9”を入力すると、テンプレート名は B9-11-02 となります。既存のテンプレートと同じ名前を持つテンプレートは追加できません。

- リリース

ソフトウェア・マスター・テンプレートのリリース(B9 など)を入力します。

- タイプ

テンプレートで定義する CD のタイプ(ASU CD など)を入力します。

- ビルド・フェーズ

アルファ、ベータ、または一般的に使用可能なフェーズなど、ソフトウェア・マスター・テンプレートが表す開発フェーズを入力します。

- 記述

必要に応じて、ソフトウェア・マスター・テンプレートの記述を入力します。

4. [Next]をクリックします。
〈CD Revisions〉フォームが表示されます。
5. テンプレート用のビルド・ステップとディレクトリ構造を設定します。

注:

ビルド・ステップを設定する方法については「ソフトウェア・マスター・テンプレートの改訂」を参照してください。

ソフトウェア・マスター・テンプレートの改訂

ソフトウェア・マスター・テンプレートは、必要に応じて変更することができます。

注:

新規テンプレートを追加する場合は、「ソフトウェア・マスター・テンプレートの追加」を参照してください。

▶ ソフトウェア・マスター・テンプレートを改訂するには

〈Advanced Operations〉メニュー(GH9622)から〈Mastering Templates〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With CD Templates〉で、[Find]をクリックします。
既存のテンプレートが表示されます。
2. 改訂するテンプレートを選んで[Select]をクリックします。
〈CD Revisions〉フォームが表示されます。
3. 〈CD Revisions〉フォームのいずれかのタブに表示される情報をリフレッシュするには、
[View]メニューから[Refresh]を選択します。
4. いずれかのタブに表示される情報をテスト・モードでのみ検証するには、[Validate (検証)]
をクリックします。
これにより、定義の検証レポートが実行されます。
5. [CD Information (CD 情報)]タブをクリックし、必要に応じて次のフィールドを改訂します。
 - 状況
テンプレートの状況を入力します。この場合は、“10”(定義中)と入力する必要があります。
 - 記述
必要に応じて、ソフトウェア・マスター・テンプレートの記述を入力します。
 - コメント
必要に応じて入力します。このフィールドには、マスタリング・プロセスに関する状況情報が自動入力されます。ソフトウェア・マスター・テンプレートに関する追加情報を入力することもできますが、その情報はソフトウェア・マスターを定義および作成する後続のプロセスの完了時に上書きされます。

6. [Build Steps]タブをクリックし、必要に応じて、ステップを選んで次のフィールドを改訂します。

- 順序

ソフトウェア・マスター定義の作成中に実行されるステップの順序を入力します。複数のビルド・ステップに対して同じ順序番号を使用できます。

- タイプ

ビルド・ステップを実行するコンポーネントのタイプを入力します。たとえば、ファイル構造の作成ステップ、パッケージのビルド・ステップ、または INF ファイルの作成ステップを定義できます。

ビルド・ステップの開始状況を入力します。この場合は、“10”(定義中)と入力する必要があります。このフィールドは、〈Product Packaging(プロダクト・パッケージング)〉処理により、後続のソフトウェア・マスターの定義および作成段階で変更されます。

- 状況

次の各フィールドは動的であり、選択したビルド・ステップに応じて表示されます。

- 記述

ビルド・ステップの記述を入力します。記述の 1 行目が、ビルド・ステップを表すテキストとして表示されます。このテキスト行は、フォーム左側のツリー・ビューに表示されます。[Description]フィールドの 1 行目に“Check Mastering Items(マスタリング項目のチェック)”のように簡潔で説明的な表す名称を入力して、より詳細な記述を入力する前に[Enter]キーを押す必要があります。

- ターゲット・フォルダ

[Target Folder]ボタンをクリックします。〈Select CD Directory(CD ディレクトリの選択)〉フォームを使用して、選択したビルド・ステップ用のターゲット・フォルダを指定します。

- Executable

[Executable]ボタンをクリックします。〈Select a Windows Executable(Windows 実行可能ファイルの選択)〉フォームを使用して、このビルド・ステップ用の実行可能ファイルを選択します。

- Value/Parameter(値/パラメータ)

[Value/Parameter]をクリックし、選んだステップに該当する値またはパラメータを入力します。これは動的フィールドであり、ボタン名はビルド・ステップに基づいて[Value]または[Parameter]となります。ボタンをクリックした時に表示されるフォームも、選択したステップによって決まります。たとえば、[Package Build]ステップを選択した場合は〈Select Package Build〉フォームが呼び出され、パッケージを選択することができます。[Build Change Tables]ステップを選択した場合は〈Work With Change Table Definitions〉フォームが呼び出され、変更テーブルの構成を修正できます。

7. ステップを追加するには[Add]をクリックします。

[Undefined]というラベルが付いた新規ステップが作成され、ステップの最下部に配置されます。

8. [Undefined]ステップを選択し、次のフィールドに情報を入力します。
 - 順序
 - タイプ
 - 状況
 - 記述
 - 値
9. ビルド・ステップに添付を追加するには、ステップをクリックして[View]メニューから[Attachments]を選択します。
〈Media Objects(メディア・オブジェクト)〉フォームが表示されます。

注:

メディア・オブジェクトを添付する方法については、『System Administration(システム・アドミニストレーション)』ガイドの「Media Objects and Imaging(メディア・オブジェクトとイメージング)」を参照してください。

メディア・オブジェクトを添付すると、そのビルド・ステップの[Build Step]タブの右上隅にクリップ・アイコンが表示されます。

10. ビルド・ステップ番号を変更するには、[Form]メニューの[Renumber]をクリックします。
ビルド・ステップが再採番され、[Sequence]フィールドが更新されます。再採番は 10 から始まり、各ステップの番号が 10 ずつ(10、20、30 など)大きくなります。ビルド・ステップの順序は、設定したとおりに維持されます。
11. ステップを削除するには、そのステップを選択して[Delete]をクリックします。
12. [Directory Structure]タブをクリックし、必要に応じてディレクトリを選択し、次のフィールドを確認してディレクトリを改訂します。
 - 状況
ディレクトリの状況を入力します。この場合は、“10”(定義中)と入力する必要があります。
 - ターゲット・フォルダ
選択したディレクトリのターゲット・フォルダのパスを入力します。
 - ソース・パス
コンポーネントが自動入力されるソースのディレクトリ・パスを入力します。これは、マスター用に取り込んでターゲット・フォルダ(ディレクトリ)に格納するデータのソースです。このパスは、相対パスまたは絶対パスとして指定できます。

- ファイル・フィルタ
ファイル・フィルタ(デフォルト値は*)を指定して、ソース・ディレクトリから取り込むデータ・ファイルを限定します。たとえば、*.*を使用すると、ソース・ディレクトリにあるすべてのファイルを取り込むことができます。
13. サブディレクトリを追加するには、追加先のディレクトリを選択して[Add]をクリックします。ルートを含め、任意のディレクトリを選ぶことができます。
- [Undefined]というラベルが付いた新規ディレクトリが作成され、選んだディレクトリの下に配置されます。
14. [Undefined]ディレクトリを選択し、次のフィールドに情報を入力します。
- 状況
 - ターゲット・フォルダ
 - ソース・パス
 - ファイル・フィルタ
15. 社内のネットワーク・ディレクトリからサブディレクトリをロードするには、ロードするサブディレクトリのルートとなるディレクトリをクリックします。ここでは、エンタープライズ・サーバー上の既存のディレクトリを指定する必要があります。
16. [Load(ロード)]をクリックします。
- 〈Load Folders From Directory(ディレクトリからフォルダをロード)〉フォームが表示されます。
17. [Windows Folder(Windows フォルダ)]をクリックします。
- 〈Select Directory(ディレクトリの選択)〉フォームが表示されます。
18. テンプレートにロードするディレクトリを検索して選択し、[OK]をクリックします。
19. 〈Load Folders From Directory〉フォームで、次のどちらかを選択します。
- サブフォルダの再作成
このオプションを選択すると、既存のサブディレクトリが置換(削除)され、テンプレートにロードするサブディレクトリで置換されます。
 - 既存に追加
このオプションを選択すると、ソフトウェア・テンプレートにロードするサブディレクトリが既存のサブディレクトリに追加されます。
20. 必要であれば、[Setup Source Directories]オプションをオンにします。
- ソフトウェア・マスターの作成時に、このオプションがオンになっていると、ソース・ディレクトリが自動的に作成され、ソース・ディレクトリ内のすべてのファイルもソフトウェア・マスターにコピーされます。
- [Setup Source Directories]をオンにしなければ、ソフトウェア・マスター内に空のソース・ディレクトリが作成されます。

21. [OK]をクリックします。

22. テンプレートの改訂を完了後に[OK]をクリックします。

ソフトウェア・マスター・テンプレートのコピー

ソフトウェア・マスター・テンプレートをコピーすることで、そのテンプレートから情報をコピーすることができます。この情報には、ビルド・ステップとディレクトリ構造が含まれます。

注:

新規のソフトウェア・マスター・テンプレートを追加する必要があり、既存のテンプレートをコピーして改訂できない場合は、「ソフトウェア・マスター・テンプレートの追加」を参照してください。

▶ ソフトウェア・マスター・テンプレートをコピーするには

〈Advanced Operations〉メニュー(GH9622)から〈Mastering Templates〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With CD Templates〉で、[Find]をクリックします。

既存のテンプレートが表示されます。

2. コピーするテンプレートを選んで[Copy]をクリックします。

〈Copy CD Configuration (CD 構成のコピー)〉フォームが表示されます。

3. 次の[Copy To(コピー先)]フィールドに情報を入力して[OK]をクリックします。

- 記述

必要に応じて、ソフトウェア・マスター定義の記述を入力します。

- リリース

テンプレートのリリース(B9 など)を入力します。

- タイプ

ソフトウェア・マスターの設定時に使用するテンプレートのタイプ (ASU CD など) を入力します。

- ビルド・フェーズ

アルファ、ベータ、または一般的に使用可能なフェーズなど、テンプレートが表す開発フェーズを入力します。

ソフトウェア・マスター・テンプレートのテスト

ソフトウェア・マスター・テンプレートをテストすると、定義に含まれるビルド・ステップごとに、ステップの順序、および、存在する場合は実際のマスター作成時に実行される各ステップの内容の詳細を示すレポートが作成されます。

ソフトウェア・マスター・テンプレートをテストしても、ビルド・ステップの状況は変更されません。

▶ ソフトウェア・マスター・テンプレートをテストするには

〈Advanced Operations〉メニュー (GH9622) から 〈Mastering Templates〉 (P9640) を選択します。

1. 〈Work With CD Templates〉で、[Find] をクリックします。

既存のテンプレートが表示されます。

2. 次のいずれかを実行します。

- ある特定のソフトウェア・マスター・テンプレートをテストするには、作成するテンプレートを選び、[View] メニューから [Proof CD] を選択します。
- 特定リリースのソフトウェア・マスター・テンプレートをすべてテストするには、[View] メニューから [Proof Release] を選択します。表示されるフォームに、テストするテンプレートのリリース番号を入力します。

3. 〈Report Output Destination〉フォームで、レポートをプリンタに送るか、Acrobat Reader を使用してオンライン・バージョンを表示するかを指定して、[OK] をクリックします。

バッチ処理により、各ビルド・ステップの順序と、存在する場合は実際のマスター作成時に各ステップで実行される処理の内容を示すレポートが実行されます。

ソフトウェア・マスター・テンプレートの削除

ソフトウェア・マスター・テンプレートを削除することができます。

▶ ソフトウェア・マスター・テンプレートを削除するには

〈Advanced Operations〉メニュー (GH9622) から 〈Mastering Templates〉 (P9640) を選択します。

1. 〈Work With CD Templates〉で、[Find] をクリックします。

既存のテンプレートが表示されます。

2. 削除するテンプレートを選択して [Delete] をクリックします。

メッセージ・ボックスに、ソフトウェア・マスター・テンプレートを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3. [OK]をクリックします。

変更テーブルの構成

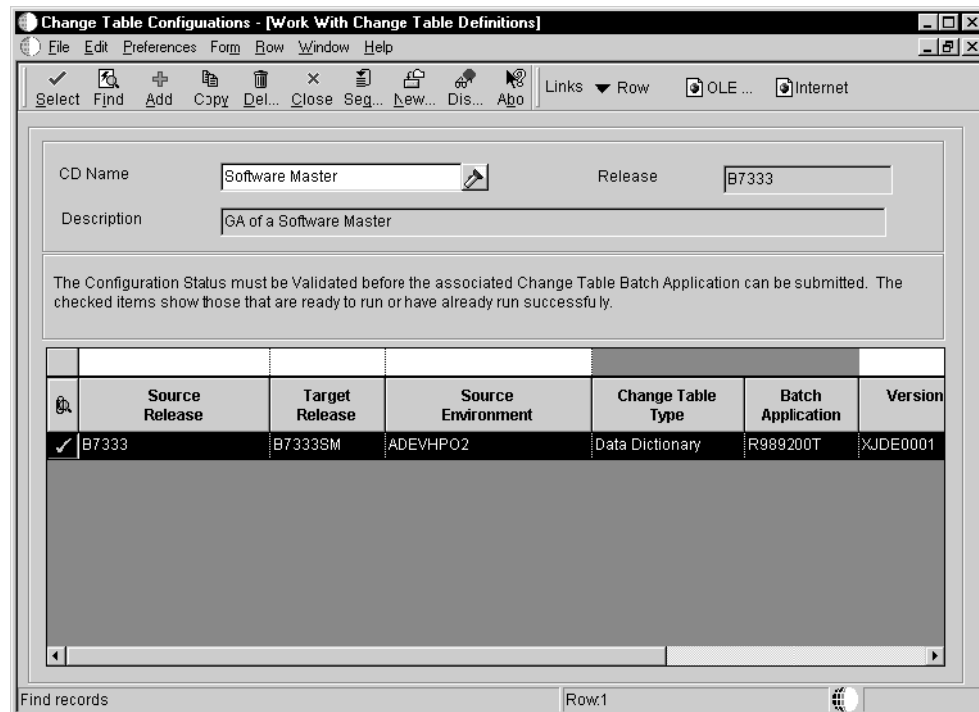
変更テーブルの構成を作成後に、それを改訂、コピー、または削除することができます。

参照

- 変更テーブル構成の作成方法については「変更テーブルの構成」

▶ 変更テーブルを改訂または投入するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)で、〈Change Table Configurations〉(P9642)を選択します。



1. 〈Work With Change Table Definitions(変更テーブル定義の処理)〉で、次のフィールドに情報を入力して[Find(検索)]をクリックします。
 - CD Name
変更テーブル構成を表示するソフトウェア・マスターの名称を入力します。既存の変更テーブル構成が次の状態で表示されます。
 - 正常にビルドを完了しているか、ビルド準備が完了しているテーブル構成ローごとに、左側にチェックマークが表示されます。
 - ビルドに失敗したか、構成の投入に有効な状況になっていないテーブル構成の場合は、左側に取消し線が付いた丸が表示されます。
2. 特定の変更テーブル・バッチ処理の再実行が必要な場合に、その変更テーブルのローの左側にチェックマークが表示されていない場合は、問題を修正し、変更テーブルのローをハイライトして[Select]をクリックします。

3. <Change Table Revisions(変更テーブルの改訂)フォームで、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- Configuration Status(構成状況)

状況を 30(検証済み)に変更するか、または検証します。状況 30 では、この変更テーブルをビルドしてソフトウェア・マスターに投入できます。

4. 変更テーブルを投入するには、次のいずれかの手順を実行します。

- 個々の変更テーブルのローを投入するには、そのローを選び、[Row]メニューから[Submit]を選択します。
- 複数の変更テーブルのローを投入するには、[Ctrl]または[Shift]キーを押しながらマウスで各ローを選び、[Row]メニューから[Submit]を選択します。
- 変更テーブルのローをすべて投入するには、[Form]メニューから[Submit]を選択します。

選択した変更テーブルが作成され、ソフトウェア・マスターに組み込まれます。既存の変更テーブルを改訂した場合は、それ自体がソフトウェア・マスター内で置換されます。変更テーブルを追加した場合は、ソフトウェア・マスターに追加されます。

変更テーブルの改訂または投入

変更テーブルの改訂または追加が必要になった場合は、変更テーブル構成をビルドして、作成後のソフトウェア・マスターに投入することができます。まだソフトウェア・マスターを作成していない場合は、このタスクを無視してください。ソフトウェア・マスター用に選択したテンプレートに変更テーブルが必要な場合は、ソフトウェア・マスター定義の設定中に指定した変更テーブルが、ソフトウェア・マスターにより作成されます。

変更テーブル構成のコピー

あるマスター定義間で変更テーブル構成をコピーします。この処理では、コピー元のマスターに関連付けられているすべての変更テーブル構成がコピーされます。

▶ 変更テーブル構成をコピーするには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Change Table Configurations〉(P9642)を選択します。

1. 〈Work With Change Table Definitions〉で、次のフィールドに情報を入力します。

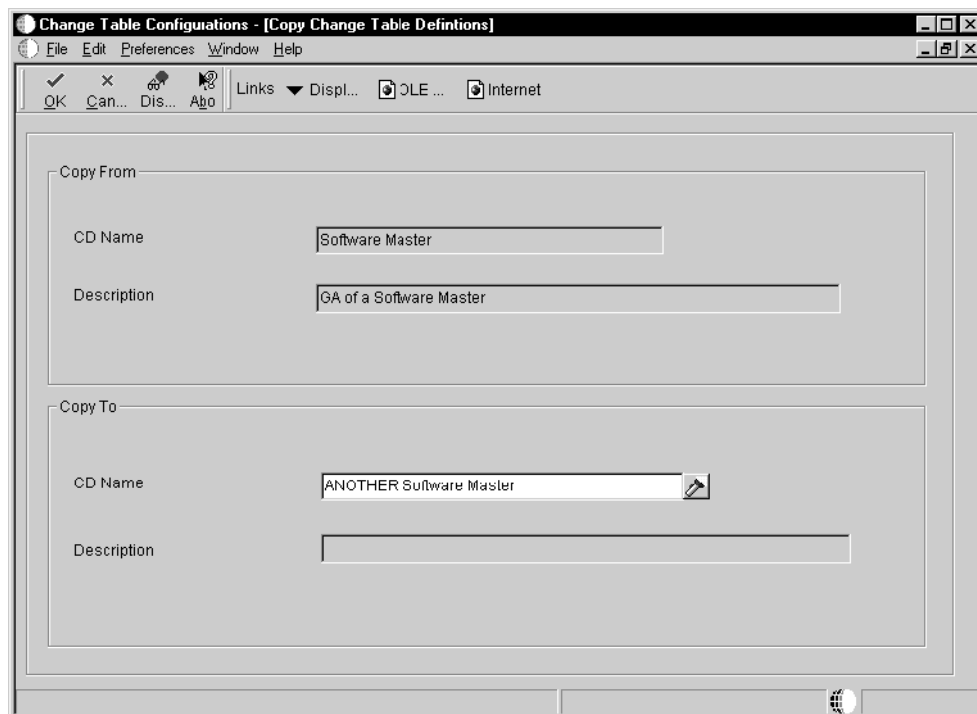
- CD Name

変更テーブル構成のコピー元となるソフトウェア・マスターの名称を入力します。

2. [Find]をクリックします。

既存の変更テーブル構成が表示されます。

3. 変更テーブルのローを選択して[Copy(コピー)]をクリックします。



4. 〈Copy Change Table Definitions(変更テーブル定義のコピー)〉で、次のフィールドに情報を入力して[Find]をクリックします。

- CD Name

変更テーブル構成のコピー先となるソフトウェア・マスター定義の名称を入力します。コピー先として既存のマスターを指定する必要があります。

変更テーブル構成の削除

ソフトウェア・マスター定義に追加した変更テーブル構成は、削除することができます。

▶ 変更テーブル構成を削除するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Change Table Configurations〉(P9642)を選択します。

1. 〈Work With Change Table Definitions(変更テーブル定義の処理)〉で、次のフィールドに情報を入力して[Find(検索)]をクリックします。

- CD Name

既存の変更テーブル構成が表示されます。

2. 変更テーブルのローを選択して[Delete(削除)]をクリックします。

データのクリーンアップ

データ・クリーンアップ・アプリケーションを使用して、ソフトウェア・マスター・データのクリーンアップ・プロシージャおよびテンプレートを作成します。データ・クリーンアップ・アプリケーションを実行すると、不要な古いデータの削除と既存のデータの標準化を行って、データに関する整合性、要約およびエラーを示すレポート印刷することができます。次のデータをクリーンアップすることができます。

- データ辞書テーブルおよびスペック
- AutoPilot テーブル
- ユーザー定義コードおよびタイプ
- メニュー・テーブル
- オブジェクト・ライブラリアン・テーブル
- セントラル・オブジェクト・テーブル

データ・クリーンアップ・プロシージャの処理

プロダクト・パッケージング・ツールには、一連のデータ・クリーンアップ・ステップを追加、改訂、コピー、および削除するためのアプリケーションが組み込まれています。これらのステップでソフトウェア・マスター・データをクリーンアップする方法を定義してください。

データ・クリーンアップ・プロシージャの追加

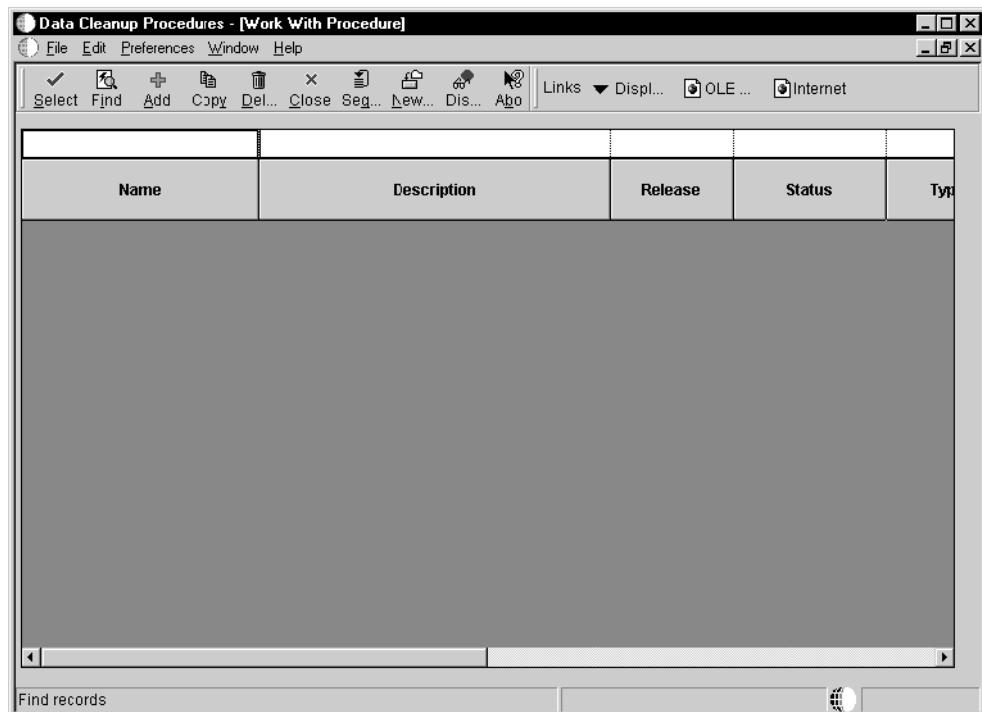
データ・クリーンアップ・プロシージャを追加することができます。この機能により、データのクリーンアップに必要なプロシージャ情報とステップを追加できます。

注:

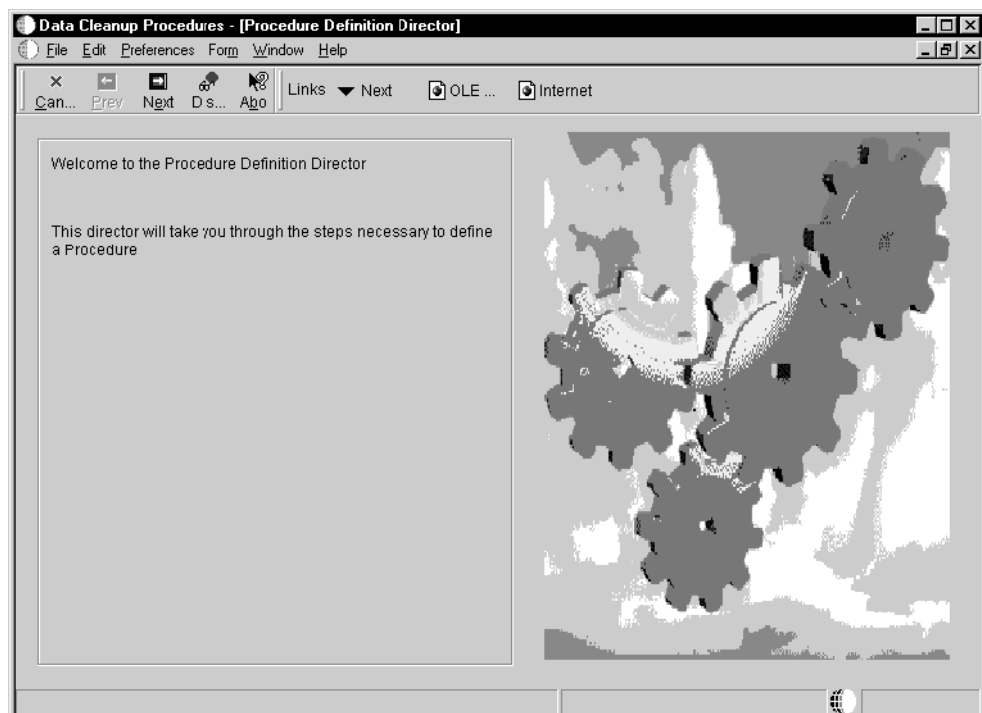
このプロダクト・パッケージング・ツール機能は主としてデータ・クリーンアップ・プロシージャの作成を目的としていますが、バッチ処理や Microsoft Windows の実行可能ファイルを実行するプロシージャの作成にも使用できます。

▶ データ・クリーンアップ・プロシージャを追加するには

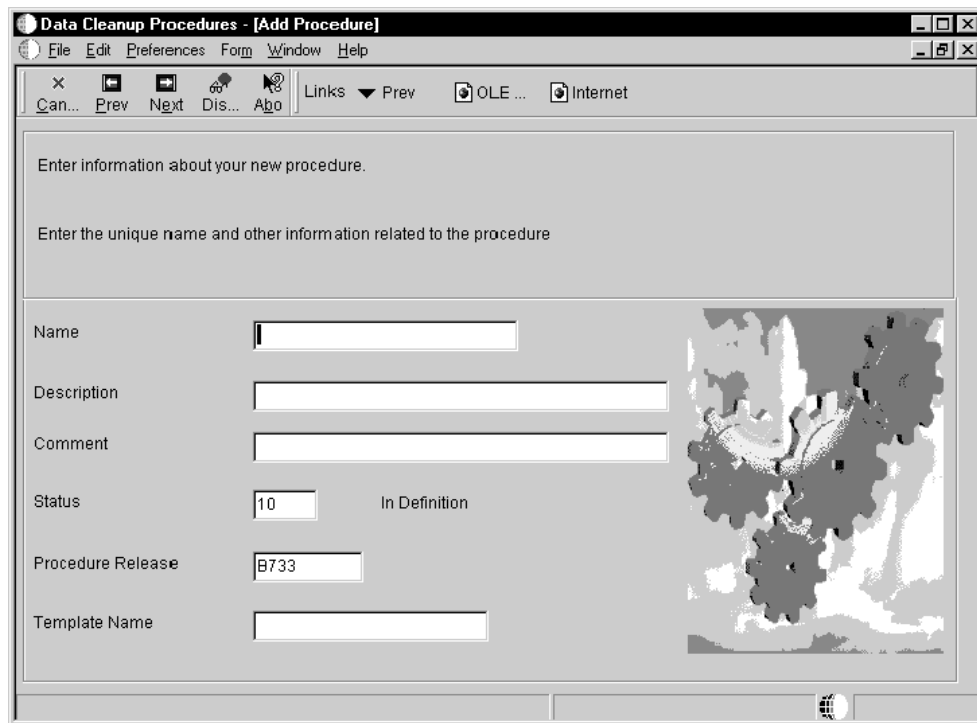
〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Data Cleanup Procedure Templates (データ・クリーンアップ・プロシージャ・テンプレート)〉(P9646)を選択します。



1. 〈Work With Procedure(プロシージャの処理)〉で、[Add(追加)]をクリックします。



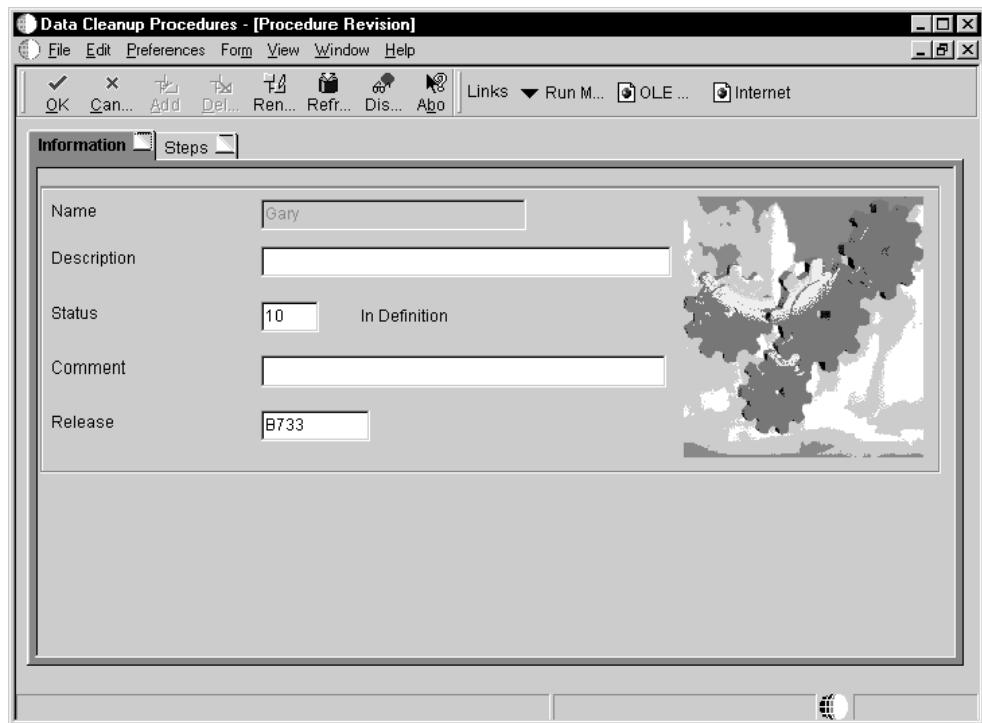
2. 〈Procedure Definition Director(プロシージャ定義ディレクタ)〉で、[Next]をクリックします。



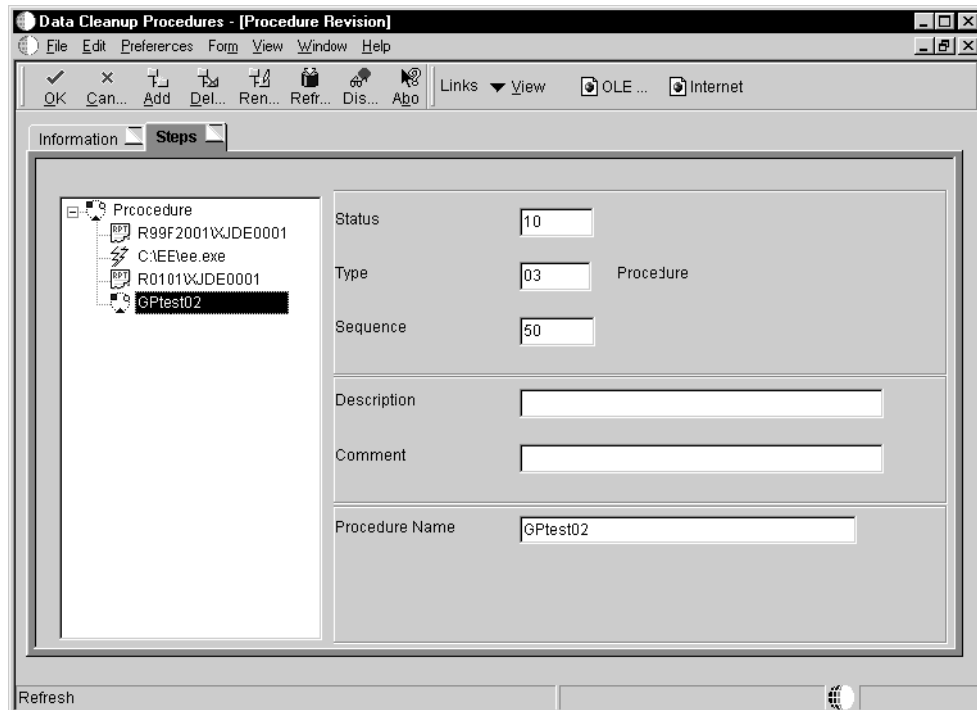
3. 〈Add Procedure(プロシージャの追加)〉で、次のフィールドに値を入力します。

- Name(名前)
追加するデータ・クリーンアップ・プロシージャの固有名(Object Librarian Cleanup など)を入力します。
- Description
必要に応じて、データ・クリーンアップ・プロシージャの記述を入力します。
- Comment
必要に応じて、データ・クリーンアップ・プロシージャに関するコメントを入力します。
- Status
データ・クリーンアップ・プロシージャの状況を確認します。プロシージャを実行する前に、状況を 30(検証済み)に設定してください。
- Procedure Release(プロシージャのリリース)
データ・クリーンアップ・プロシージャに関するリリース(B9 など)を入力します。この値は、使用中のクライアント・ワークステーションに現在インストールされているリリースです。
- Template Name(テンプレート名)
必要に応じて、プロシージャの追加元となるデータ・クリーンアップ・テンプレートの名称を入力します。

4. [Next]をクリックします。



5. <Procedure Revision(プロシージャの改訂)>フォームで、[View]メニューから[Refresh]を選んで、[Information(情報)]タブまたは[Steps(ステップ)]タブに表示される情報をリフレッシュします。
6. [Information]タブをクリックし、次のフィールドに情報を入力します。
 - Description
 - Status
 - Comment
 - Release
7. [Steps]タブをクリックします。



8. ステップを追加するには[Add]をクリックします。

[Undefined]というラベルが付いた新規ステップが作成され、ツリーにハイライト表示されているプロシーダの最後に配置されます。サブプロシーダにステップを追加すると、そのサブプロシーダの最後に[Undefined]ステップが表示されます。サブプロシーダへの追加を確認するフォームが表示されます。

9. [Undefined]ステップを選択し、次のフィールドに情報を入力します。

- Status

データ・クリーンアップ・ビルド・ステップの状況を入力します。ステップを実行する前に、状況を 30(検証済み)に設定してください。

- Type

追加するビルド・ステップのタイプを入力します。たとえば、バッチ処理、Microsoft Windows の実行可能プログラム、または別のデータ・クリーンアップ・プロシーダをステップとして追加できます。

- Sequence

ビルド・ステップの追加場所に基づいて、順序番号が自動的に表示されます。この順序番号を変更すると、プロシーダ内でビルド・ステップを前後に移動できます。複数のビルド・ステップに対して同じ順序番号を使用できます。

- Description

必要に応じて、データ・クリーンアップ・ビルド・ステップの記述を入力します。

- Comment

必要に応じて、データ・クリーンアップ・ビルド・ステップに関するコメントを入力します。

10. バッチ処理を追加する場合は、表示される次のフィールドに情報を入力します。

- Object Name

バッチ・プロセスの名前を入力します。たとえば、ステップで〈Object Librarian – Object Relationship Cleanup (オブジェクト・ライブラリアン – オブジェクト・リレーションシップのクリーンアップ)〉レポートを実行するには、“R9647R”と入力します。

- Version

指定したバッチ処理用のレポート・バージョンの名称 (XJDE0002, Final Mode version など) を入力します。

11. Microsoft Windows の実行可能プログラムを追加する場合は、表示される次のフィールドに情報を入力します。

- Executable

Microsoft Windows 互換の実行可能プログラム名を入力します。たとえば、“xcopy.exe”と入力します。

- Parameters

実行可能プログラムのパラメータを入力します。コマンド行スイッチ、ディレクトリ、およびファイルを入力できます。たとえば、xcopy.exe プログラムの場合は、コピー元パラメータとして“c:\temp*.*”、コマンド行スイッチとして“/s”を入力できます。

12. データ・クリーンアップ・プロシージャを追加する場合は、表示される次のフィールドに情報を入力します。

- Procedure Name

既存のデータ・クリーンアップ・プロシージャの名称を入力します。既存のデータ・クリーンアップ・プロシージャ名を指定する必要があります。ビジュアル・アシスト・フォームに表示されるのは、既存のプロシージャです。

13. 最後のフィールドからタブ移動するか、フォーム左側のツリーでステップを選択すると、そのステップが保存されます。

14. ステップの追加を完了したら[OK]をクリックします。

データ・クリーンアップ・プロシージャの改訂

作成したデータ・クリーンアップ・プロシージャに含まれる情報とステップを改訂することができます。データ・クリーンアップ・プロシージャを改訂する場合、改訂したプロシージャが別のプロシージャに関連付けられていると、そのプロシージャにも改訂内容が反映されることに注意してください。

注:

新規データ・クリーンアップ・プロシージャを追加する場合は、「データ・クリーンアップ・プロシージャの追加」を参照してください。

▶ データ・クリーンアップ・プロシージャを改訂するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Data Cleanup Procedure Application (データ・クリーンアップ・プロシージャ・アプリケーション)〉(P9646)を選択します。

1. 〈Work With Procedure〉で、[Find]をクリックします。
既存のデータ・クリーンアップ・プロシージャが表示されます。
2. 改訂するプロシージャを選んで[Select]をクリックします。
T が表示されます。
3. 〈Procedure Revision〉フォームで、[View]メニューから[Refresh]を選んで、[Information]タブまたは[Steps]タブに表示される情報をリフレッシュします。
4. [Information]タブをクリックし、次のフィールドを改訂します。
 - Description
必要に応じて、データ・クリーンアップ・プロシージャの記述を入力します。
 - Status
データ・クリーンアップ・プロシージャの状況を確認します。プロシージャを実行する前に、状況を 30(検証済み)に設定してください。
 - Comment
必要に応じて、データ・クリーンアップ・プロシージャに関するコメントを入力します。
 - Release
データ・クリーンアップ・プロシージャに関する ERP リリース(B9 など)を確認します。この値は、使用中のクライアント・ワークステーションに現在インストールされているリリースです。
5. [Steps]タブをクリックします。
6. ビルド・ステップを改訂するには、そのステップを選択して次のフィールドに情報を入力または確認します。
 - Status
データ・クリーンアップ・ビルド・ステップの状況を確認します。ステップを実行する前に、状況を 30(検証済み)に設定してください。
 - Type
ビルド・ステップを実行するコンポーネントのタイプを確認します。たとえば、ステップはバッチ処理、Microsoft Windows 実行可能プログラム、または別のデータ・クリーンアップ・プロシージャとして定義できます。
 - Sequence
プロシージャの実行中に実行されるステップの順序を確認します。複数のビルド・ステップに対して同じ順序番号を使用できます。
 - Description

必要に応じて、データ・クリーンアップ・ビルド・ステップの記述を入力します。

- Comment

必要に応じて、データ・クリーンアップ・ビルド・ステップに関するコメントを入力します。

バッチ処理を改訂する場合は、次のフィールドが表示されます。

- Object Name

バッチ・プロセスの名前を確認します。

- Version

バッチ処理用のレポート・バージョンの名称を確認します。

Microsoft Windows の実行可能プログラムを改訂する場合は、次のフィールドが表示されます。

- Executable

Microsoft Windows の実行可能プログラムを確認します。

- Parameters

実行可能プログラムのパラメータを確認します。

データ・クリーンアップ・プロシージャを改訂する場合は、次のフィールドが表示されます。

- Procedure Name

データ・クリーンアップ・プロシージャの名称を確認します。

7. ビルド・ステップ番号を変更するには、[View]メニューの[Renumber]をクリックします。

ビルド・ステップが再採番され、[Sequence]フィールドが更新されます。再採番は 10 から始まり、各ステップの番号が 10 ずつ (10、20、30 など) 大きくなります。ビルド・ステップの順序は、ユーザーまたはデータ・クリーンアップ・テンプレートによって設定された通り維持されます。

8. ステップを削除するには、そのステップを選択して[Delete]をクリックします。

9. データ・クリーンアップ・プロシージャの改訂を完了後に[OK]をクリックします。

データ・クリーンアップ・プロシージャのコピー

作成したデータ・クリーンアップ・プロシージャをコピーすることができます。

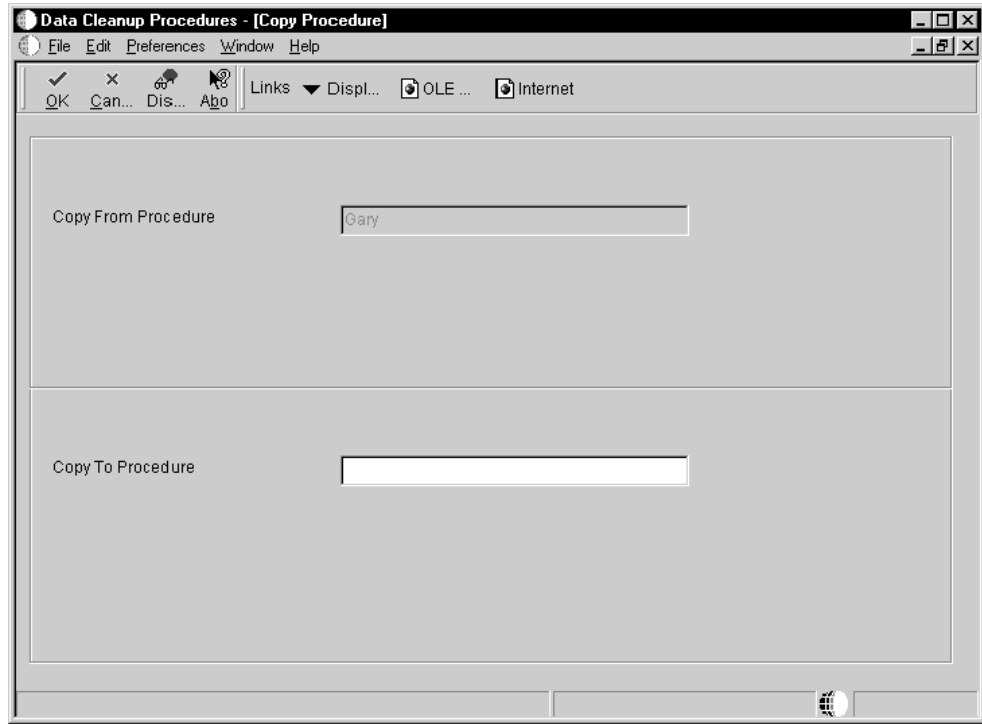
▶ データ・クリーンアップ・プロシージャをコピーするには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Data Cleanup Procedure Application〉(P9646)を選択します。

1. 〈Work With Procedure〉で、[Find]をクリックします。

既存のデータ・クリーンアップ・プロシージャが表示されます。

2. コピーするプロシージャを選んで[Copy]をクリックします。



3. <Copy Procedure(プロシージャのコピー)>フォームで、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - Copy From Procedure(コピー元プロシージャ)
既存のデータ・クリーンアップ・プロシージャの名称を入力します。
 - Copy To Procedure(コピー先プロシージャ)
新規データ・クリーンアップ・プロシージャのコールに使用する名称を入力します。

データ・クリーンアップ・プロシージャとビルド・ステップの実行

データ・クリーンアップ・アプリケーションから、データ・クリーンアップ・プロシージャとビルド・ステップを実行することができます。

注:

ここでは、データ・クリーンアップ・アプリケーションからプロシージャを実行する方法について説明しますが、ソフトウェア・マスターのビルド・ステップを使用して、データ・クリーンアップの実行ステップを定義することもできます。ソフトウェア・マスター定義にビルド・ステップを追加する方法については、「ソフトウェア・マスターの作成」を参照してください。

▶ データ・クリーンアップ・プロシージャとビルド・ステップを実行するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Data Cleanup Procedure Application〉(P9646)を選択します。

1. 〈Work With Procedure〉で、[Find]をクリックします。
既存のデータ・クリーンアップ・プロシージャが表示されます。
2. プロシージャ全体を実行するには、次のいずれかの手順を実行します。
 - 〈Work With Procedures〉フォームで、プロシージャを選び、[Row]メニューから[Execute(実行)]を選択します。
 - 〈Procedure Revision〉フォームで、メインのデータ・クリーンアップ・プロシージャを選び、[View]メニューから[Execute Step]を選択します。
 - 〈Procedure Revision〉フォームで、[Form]メニューから[Run Main Procedure(メイン・プロシージャの実行)]を選択します。

どのオプションを選択した場合も、プロシージャ全体が実行されます。正常に実行されると、プロシージャが更新され、ビルド・ステップの状況が 60(ビルド済み)に更新されます。

3. 個々のビルド・ステップを実行するには、〈Work With Procedures〉フォームでプロシージャを選び、[Select]をクリックします。
4. 〈Procedure Revision〉フォームで、[Steps]タブをクリックします。
5. 実行するビルド・ステップを選び、[View]メニューから[Execute Step]を選んで、そのステップのみを処理します。

このオプションを選択すると、ステップが実行されます。ステップが正常に実行されると、ステップの状況が 60(ビルド済み)に更新されます。データ・クリーンアップ・プロシージャのステップを実行すると、サブプロシージャを含め、従属するすべてのステップも実行されます。

データ・クリーンアップ・プロシージャの削除

データ・クリーンアップ・プロシージャを削除すると、他のデータ・クリーンアップ・プロシージャのサブプロシージャとしてのロケーションなど、そのプロシージャに関連付けられているすべてのレコードが削除されます。

▶ データ・クリーンアップ・プロシージャを削除するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Data Cleanup Procedure Application〉(P9646)を選択します。

1. 〈Work With Procedure〉で、[Find]をクリックします。
既存のデータ・クリーンアップ・プロシージャが表示されます。
2. 削除するプロシージャを選んで[Delete]をクリックします。
プロシージャを削除するかどうかを確認するメッセージ・ボックスが表示されます。
3. [OK]をクリックします。

データ・クリーンアップ・テンプレートの処理

データ・クリーンアップの場合、テンプレートはオプションです。テンプレートをガイドとして使用すると、独自のデータ・クリーンアップ・プロシージャをビルドできます。プロシージャと同様に、テンプレートを追加、改訂、コピー、および追加できます。

参照

- プロシージャについては「データ・クリーンアップ・プロシージャの処理」

データ・クリーンアップ・テンプレートの追加

データ・クリーンアップ・テンプレートを追加すると、データのクリーンアップに使用するテンプレート情報とステップを追加することができます。

▶ データ・クリーンアップ・テンプレートを追加するには

〈Advanced Operations〉メニュー(GH9622)から〈Data Cleanup Procedure Templates〉(P9646)を選択します。

1. 〈Work With Procedure(プロシージャの処理)〉で、[Add(追加)]をクリックします。
2. 〈Template Definition Director(テンプレート定義ディレクタ)〉フォームで、[Next]をクリックします。
3. 〈Add Template(テンプレートの追加)〉フォームで、次のフィールドに値を入力します。
 - 名前
追加するデータ・クリーンアップ・テンプレートの固有名 (Object Librarian Cleanup など) を入力します。
 - 記述
必要に応じて、データ・クリーンアップ・テンプレートの記述を入力します。
 - コメント
必要に応じて、データ・クリーンアップ・テンプレートに関するコメントを入力します。
 - 状況
状況 "10" (定義中) を入力します。
 - プロシージャ・リリース
データ・クリーンアップ・テンプレートに関する ERP リリース (B9 など) を入力します。この値は、使用中のクライアント・ワークステーションに現在インストールされているリリースです。
 - テンプレート名

テンプレートの追加元となる別のデータ・クリーンアップ・テンプレートの名称を入力します。

4. [Next]をクリックします。
5. <Template Revision(テンプレートの改訂)>フォームで、いずれかのタブに表示される情報をリフレッシュするには、[View]メニューから[Refresh]を選択します。
6. [Information]タブをクリックし、次のフィールドに情報を入力します。
 - Description
 - Status
 - Comment
 - Release
7. [Steps]タブをクリックします。
8. ステップを追加するには[Add]をクリックします。

[Undefined]というラベルが付いた新規ステップが作成され、ツリーにハイライト表示されているプロシージャの最後に配置されます。サブプロシージャにステップを追加すると、そのサブプロシージャの最後に[Undefined]ステップが表示されます。サブプロシージャの追加を確認するフォームが表示されます。追加すると、それがサブプロシージャかどうかに関係なく、表示されるたびにそのプロシージャが変更されます。
9. [Undefined]ステップを選択し、次のフィールドに情報を入力します。
 - Status

データ・クリーンアップ・ビルド・ステップの状況を入力します。状況を“10”(定義中)に設定します。
 - Type

追加するビルド・ステップのタイプを入力します。たとえば、バッチ処理、Microsoft Windows の実行可能プログラム、別のデータ・クリーンアップ・プロシージャまたはテンプレートをステップとして追加できます。
 - Sequence

ビルド・ステップの追加場所に基づいて、順序番号が自動的に表示されます。この順序番号を変更すると、テンプレート内でビルド・ステップを前後に移動できます。複数のビルド・ステップに対して同じ順序番号を使用できます。
 - Description

必要に応じて、データ・クリーンアップ・ビルド・ステップの記述を入力します。
 - Comment

必要に応じて、データ・クリーンアップ・ビルド・ステップに関するコメントを入力します。
10. バッチ処理を追加する場合は、表示される次のフィールドに情報を入力します。
 - Object Name

バッチ・プロセスの名前を入力します。たとえば、ステップで〈Object Librarian – Object Relationship Cleanup (オブジェクト・ライブラリアン – オブジェクト・リレーションシップのクリーンアップ)〉レポートを実行するには、“R9647R”と入力します。

- Version

指定したバッチ処理用のレポート・バージョンの名称を入力します。たとえば、“XJDE0002, the Final Mode version”と入力します。

11. Microsoft Windows の実行可能プログラムを追加する場合は、表示される次のフィールドに情報を入力します。

- Executable

Microsoft Windows 互換の実行可能プログラム名を入力します。たとえば、“xcopy.exe”と入力します。

- Parameters

実行可能プログラムのパラメータを入力します。コマンド行スイッチ、ディレクトリ、およびファイルを入力できます。たとえば、xcopy.exe プログラムの場合は、コピー元パラメータとして“c:¥temp¥*.*”、コマンド行スイッチとして“¥s”を入力できます。

12. データ・クリーンアップ・プロシージャを追加する場合は、表示される次のフィールドに情報を入力します。

- Procedure Name

既存のデータ・クリーンアップ・プロシージャの名称を入力します。既存のデータ・クリーンアップ・プロシージャ名を指定する必要があります。ビジュアル・アシスト・フォームに表示されるのは、既存のプロシージャです。

13. 最後のフィールドからタブ移動するか、フォーム左側のツリー構造内でステップを選ぶと、そのステップが保存されます。

14. ステップの追加を完了したら[OK]をクリックします。

データ・クリーンアップ・テンプレートの改訂

作成したデータ・クリーンアップ・テンプレートを改訂し、テンプレート内で作成した情報とステップを改訂することができます。

注:

新規データ・クリーンアップ・テンプレートを追加する場合は、「データ・クリーンアップ・テンプレートの追加」を参照してください。

▶ データ・クリーンアップ・テンプレートを改訂するには

〈Advanced Operations〉メニュー(GH9622)から〈Data Cleanup Procedure Templates〉(P9646)を選択します。

1. 〈Work With Procedure〉で、[Find]をクリックします。

既存のデータ・クリーンアップ・テンプレートが表示されます。

2. 改訂するテンプレートを選んで[Select]をクリックします。
3. 〈Procedure Revision〉フォームで、〈Template Revisions〉フォームのいずれかのタブに表示される情報をリフレッシュするには、[View]メニューから[Refresh]を選択します。
4. [Information]タブをクリックし、次のフィールドを改訂します。
 - Description
必要に応じて、データ・クリーンアップ・テンプレートの記述を入力します。
 - Status
データ・クリーンアップ・テンプレートの状況を確認します。テンプレートを実行する前に、状況を 10(定義中)に設定してください。
 - Comment
必要に応じて、データ・クリーンアップ・テンプレートに関するコメントを入力します。
 - Release
データ・クリーンアップ・テンプレートに関するリリース(B9 など)を確認します。この値は、使用中のクライアント・ワークステーションに現在インストールされているリリースです。
5. [Steps]タブをクリックします。
6. ビルド・ステップを改訂するには、そのステップを選択して次のフィールドに情報を入力または確認します。
 - Status
データ・クリーンアップ・ビルド・ステップの状況を確認します。ステップを実行する前に、状況を 30(検証済み)に設定してください。
 - Type
ビルド・ステップを実行するコンポーネントのタイプを確認します。たとえば、ステップはバッチ処理、Microsoft Windows 実行可能プログラム、または別のデータ・クリーンアップ・テンプレートとして定義できます。
 - Sequence
プロシージャの実行中に実行されるステップの順序を確認します。複数のビルド・ステップに対して同じ順序番号を使用できます。
 - Description
必要に応じて、データ・クリーンアップ・ビルド・ステップの記述を入力します。
 - Comment
必要に応じて、データ・クリーンアップ・ビルド・ステップに関するコメントを入力します。

バッチ処理を改訂する場合は、次のフィールドが表示されます。

- Object Name

バッチ・プロセスの名前を確認します。

- Version

バッチ処理用のレポート・バージョンの名称を確認します。

Microsoft Windows の実行可能プログラムを改訂する場合は、次のフィールドが表示されます。

- Executable

Microsoft Windows の実行可能プログラムを確認します。

- Parameters

実行可能プログラムのパラメータを確認します。

データ・クリーンアップ・プロシージャを改訂する場合は、次のフィールドが表示されます。

- Procedure Name

データ・クリーンアップ・プロシージャの名称を確認します。

7. ビルド・ステップ番号を変更するには、[View]メニューの[Renumber]をクリックします。

ビルド・ステップが再採番され、[Sequence]フィールドが更新されます。再採番は 10 から始まり、各ステップの番号が 10 ずつ (10、20、30 など) 大きくなります。ビルド・ステップの順序は、設定した通りに維持されます。

8. ステップを削除するには、そのステップを選択して[Delete]をクリックします。

9. データ・クリーンアップ・テンプレートの改訂を完了したら[OK]をクリックします。

データ・クリーンアップ・テンプレートのコピー

作成したデータ・クリーンアップ・テンプレートをコピーすることができます。

▶ データ・クリーンアップ・テンプレートをコピーするには

〈Advanced Operations〉メニュー(GH9622)から〈Data Cleanup Procedure Templates〉(P9646)を選択します。

1. 〈Work With Procedure〉で、[Find]をクリックします。

既存のデータ・クリーンアップ・テンプレートが表示されます。

2. コピーするテンプレートを選んで[Copy]をクリックします。

3. 〈Copy Procedure〉フォームで、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- Copy From Procedure (コピー元プロシージャ)

既存のデータ・クリーンアップ・テンプレートの名称を入力します。

- Copy To Procedure (コピー先プロシージャ)

新規のデータ・クリーンアップ・テンプレートの名称を入力します。

データ・クリーンアップ・テンプレートの削除

データ・クリーンアップ・プロシージャを削除することができます。このアプリケーションでは、他のデータ・クリーンアップ・プロシージャのサブプロシージャとしてのロケーションなど、プロシージャに関連付けられているレコードがすべて削除されます。

▶ データ・クリーンアップ・テンプレートを削除するには

〈Advanced Operations〉メニュー(GH9622)から〈Data Cleanup Procedure Templates〉(P9646)を選択します。

1. 〈Work With Procedure〉で、[Find]をクリックします。
既存のデータ・クリーンアップ・テンプレートが表示されます。
2. 削除するマスターを選んで[Delete]をクリックします。
テンプレートを削除するかどうかを確認するメッセージ・ボックスが表示されます。
3. [OK]をクリックします。

相対パスと絶対パス

絶対パス名はルート・ディレクトリで始まり、Z:\¥DepServer¥CD Templates¥Partial Update のようにパス全体の詳細が記述されます。相対パス名は、\$DEP などのトークンで始まります。このトークンは、少なくともルート・ディレクトリと、その配下のサブディレクトリ・パスを表しています。たとえば、\$DEP は Z:\¥DepServer を表します。この相対パスは、該当するフィールドに \$DEP¥CD Templates¥Partial Update のように表示される場合があります。次の相対パスのトークンを使用できます。

- \$DEP
デプロイメント・サーバー上で ERP 9.0 がインストールされているルート・ディレクトリを表します。
- \$IMAGE
ソフトウェア・マスターのイメージ・パスを表します。
- \$CLIENT
現在使用中のワークステーション上でソフトウェアがインストールされているルート・ディレクトリを表します。
- \$TEMP
現在使用中のワークステーションの、Microsoft Windows の一時ディレクトリを表します。

トークンを定義する必要はありません。トークン値は、ソフトウェアのインストール先とそこで使用可能な他の情報に基づいて、プロダクト・パッケージング・ツールにより自動的に解釈されます。

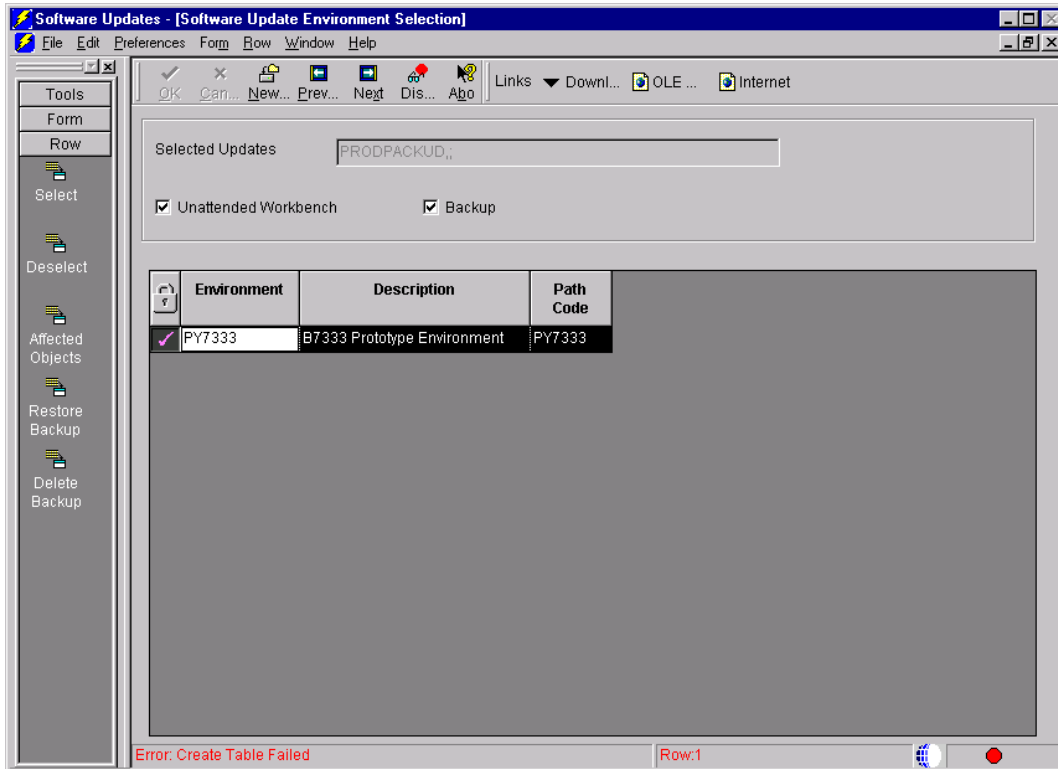
相対パス・トークンの使用

フィールドに相対パス・トークンを使用することができます。

トラブルシューティング:〈Software Update〉アプリケーションでの テーブルのバックアップ・エラー

問題:

〈Software Updates〉アプリケーションで、パス・コードを選んでバックアップを作成すると、エラー・メッセージ[Create Table Failed(テーブルを作成できませんでした)]が表示され、アプリケーションの処理が停止する。



jde.log ファイルには次のようなエラーが書き込まれます。

JDB9900245 – Failed to find F98611 OWBAK_PRODPACKUD_PY9 in cache(キャッシュ内で F98611 OWBAK_PRODPACKUD_PY9 が見つかりません)

JDB3100011 – Failed to get location of table F983051 for environment JDEPLAN(JDEPLAN 環境用のテーブル F983051 のロケーションを取得できません)

JDB2100004 – Failed to open table(テーブルを開けません)

解決方法

〈Software Update〉アプリケーションでは、新規データ・ソース OWBAK_PACKAGE_NAME_PATHCODE が作成されます。このデータ・ソースは、バックアップ・データベース

Planner¥Package¥PACKAGE_NAME¥PATHCODE.bak¥data¥OWBAK_packagename_pathcode.mdf および OWBAK_packagename_pathcode.ldf を参照します。この問題を解決するには、次の手順で操作します。

1. プロダクト・パッケージをインストールする前に、最新のプランナ・アップデートがインストールされていることを確認します。
2. 〈Database Data Sources〉アプリケーション(P986115)を開き、データ・ソース OWBAK_PACKAGE_NAME_PATHCODE が作成されていることを確認します。
PACKAGE_NAME はプロダクト・パッケージ名で、大文字のみで指定します。PATHCODE は〈Software Updates〉アプリケーションから選んだパス・コードです。このデータ・ソースが存在しても、名前に小文字が使用されている場合は、そのデータ・ソース項目を手動で削除し、次のように新規データ・ソース項目を作成します。

Data Source Name:	OWBAK_PACKAGE_NAME_PATHCODE
Data Source Type:	A – Access
DLL Name:	JDBODBC.DLL
Database Name:	OWBAK_PACKAGE_NAME_PATHCODE
Server Name:	LOCAL
Platform:	LOCAL

3. ODBC データ・ソースが作成されており、正しいロケーションとデータベースが設定されていることを確認します。
4. 一度ログオフして再度ログインし、処理を再試行します。

▶ 相対パス・トークンを使用するには

相対パスが使用可能なフィールドに、トークンに続けてそのフィールドに必要なパスの残りの部分を入力します。

次に例を示します。

\$DEP¥CD Templates¥Partial Update

相対パスと絶対パスの変換

プロダクト・パッケージング・ツール内では、相対パス・トークンと絶対パス名が使用可能なフィールドでは、両者を変換できます。いずれかのフィールドにトークンが使用されている場合は、それを絶対パスに変換したり、絶対パスをトークンに変換できます。たとえば、\$DEP のインスタンスを Z:¥DepServer に、または Z:¥DepServer を \$DEP に変換できます。

▶ 相対パスと絶対パスを変換するには

〈Product Packaging〉メニュー(GH962)から〈Product Packages〉(P9640)を選択します。

1. 〈Work With Software Mastering〉で、[Find]をクリックします。
既存のソフトウェア・マスターが表示されます。
2. 相対パスと絶対パスを変換するマスターを選び、[Row]メニューから[Convert Paths (パスの変換)]を選択します。

3. 〈Report Output Destination〉で、レポートをプリンタまたは画面に出力するよう指定して [OK] をクリックします。

プロダクト・パッケージング・ツール内で指定内容が適用されるすべてのフィールドについて、絶対パスと相対パスが変換されます。

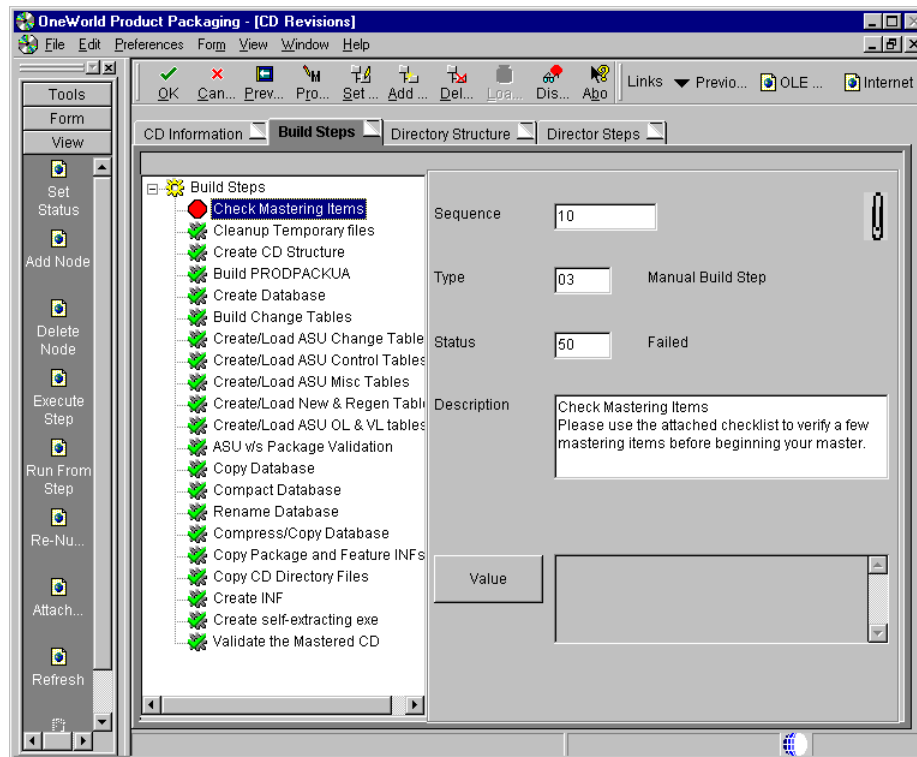
トラブルシューティング: マスタリング項目のチェック中のエラー

問題:

CD をマスタリングする際、「マスタリング項目のチェック」ステップで処理エラーになる。

解決方法

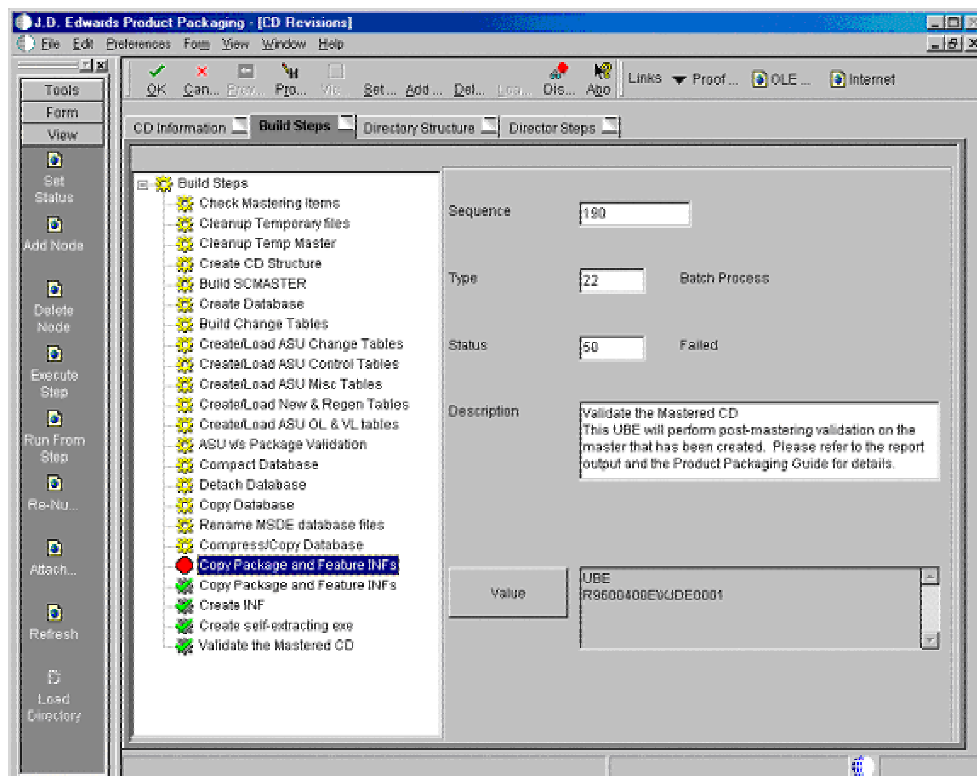
これは手動のビルド・ステップであり、手動で実行する必要があります。問題のステップをハイライトし、[View]エグジット・メニューから[Execute Step]を選択します。実行後は、[Master CD]をクリックして次に進みます。

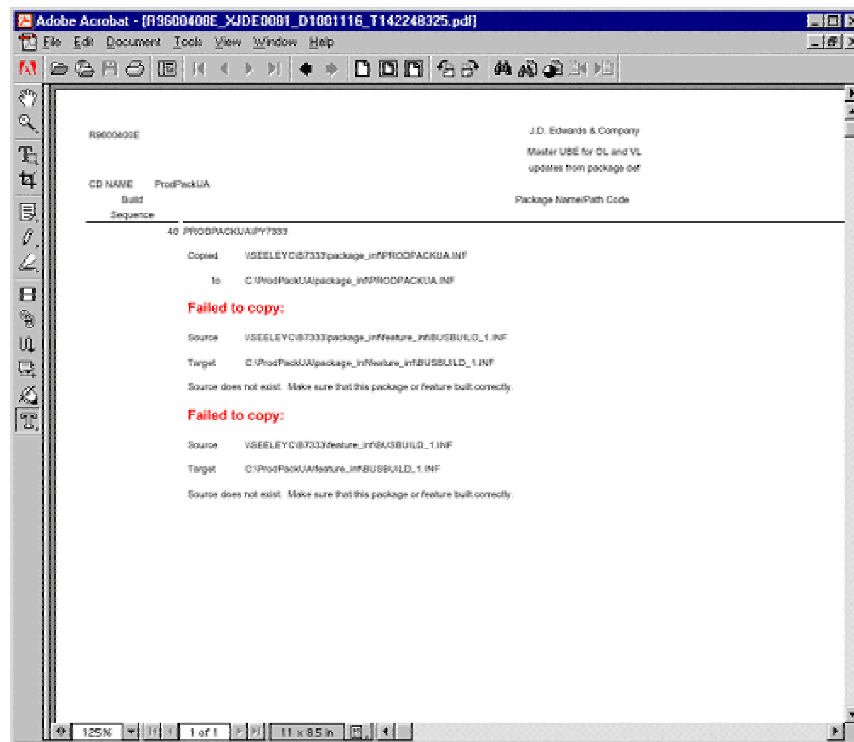


トラブルシューティング: 機能の INF ファイルのビルド・エラー

問題:

プロダクト・パッケージングのマスタリング処理中、ビルド・ステップ「パッケージと機能の INF のコピー」- レポート R9600400E でエラーになる。機能はパッケージ・ビルド・プロセスの一部であるため、パッケージを更新しても機能の INF ファイルはビルドされません。次にサンプル・レポートを示します。





解決方法

選択したアップデート・パッケージに機能が含まれている場合は、機能の INF ファイルが事前に作成されていることを確認してください。

注:

このタスクの実行手順については、『パッケージ管理』ガイドの「機能の INF ファイルの理解」および他の関連項目を参照してください。

トラブルシューティング: JDE Masters データベースが自動入力されない

問題:

ビルド・プロセスは正常終了するが、\$TEMP¥master ディレクトリ内の JDE Masters データベースにはテーブルが存在しない。このエラーが発生するのは、データベース・データ・ソース内で、OneWorld - Product Packaging データ・ソースが正しく設定されていない場合です。

解決方法

データベース・データ・ソースを OneWorld - Product Packaging 用に再構成してから、ビルド・プロセスを繰り返します。

トラブルシューティング: 変更テーブルのコピー・エラー

問題:

JDE Masters データベースには変更テーブル (F960004 および F960005 など) がなく、jde.log ファイルには、これらのテーブルがコントロール・テーブル内で見つからないことを示す複数のエラーがリストされる。この問題は、マスタリング環境に変更テーブルが見つからないために起こります。

解決方法

必要なテーブルがマスタリング環境にあり、正しく設定されているかどうか確認してください。

トラブルシューティング: カスタム・テーブルのコピー・エラー

問題:

カスタム・テーブルがアップデート・パッケージに含まれており、パッケージのビルド元環境にあるが、JDE Masters データベースにコピーされない。この問題は、変更テーブル・コンフィギュレータで指定したソース環境が正しく設定されていないか、その環境にテーブルがないために起こります。

解決方法

指定した環境が正しく、テーブルが関連付けられていることと、その環境でカスタム・テーブルがないことを確認してください。

トラブルシューティング: インストール後のプロダクト・パッケージが見つからない

問題:

〈Install Manager〉を実行して新規システムにソフトウェア・マスターをインストールした後に、〈Software Update〉アプリケーションにプロダクト・パッケージが表示されない。この問題が発生するのは、パッケージ名がプロダクト・パッケージ名と一致しないためです。

解決方法

ソフトウェア・マスターを再度マスタリングし、アップデート・パッケージ名がプロダクト・パッケージ名と同一であることを確認してください。また、最新のプランナ・アップデートがインストールされているかどうか確認してください。

トラブルシューティング:オブジェクト・ライブラリアン・レコードの問題

問題:

文字を含む SAR で作成されたオリジナル・システムのプロジェクトに属しているオブジェクトに問題がある可能性がある。この問題は、インストール後にそのプロジェクトを入力しようとするが発生します。

解決方法

デプロイメント・サーバーにパッケージをインストールした後、作成された OneWorld – Product Packaging JDE Masters データベースを開いてオブジェクト・ライブラリアン – 状況詳細テーブル (F9861)を修正してください。[SIMSAR]カラムで、値に文字が含まれていないことを確認してください。文字が含まれている場合はすべての文字を 0 に変更してください。